

ORIGAMI

TANTEIDAN

折紙探偵団

M A G A Z I N E

イベント情報

定価 600円

諏訪湖で折り紙美術展

「世界の折り紙展 -見る折り紙、体験する折り紙- (仮称)」

"World's Origami Exhibition : Appreciation and Experience of the Origami World"



クローズアップ

二兎を追う

Close-up :
Don't Be Afraid of Falling Between Two Stools

Kawahata Fumiaki

川畑文昭

折り図

Don't Freeze

Model designed by Ogata Hiromi
Diagrams by Komatsu Hideo

創作

小方弘巳

折り図

小松英夫

展開図折りに挑戦

うさぎ

Crease Pattern Challenge : Rabbit
Model designed by Komatsu Hideo

小松英夫

好評連載

Origami × Mathematics : Kawasaki Toshikazu / A Philological Survey of Origami : Okamura Masao / New Origami Sampo : Maekawa Jun

折紙×数理: 川崎敏和 / おりがみ庵・読み歩き: 岡村昌夫 / 新・折紙散歩: 前川 淳

Tomoko in the Box : Fuse Tomoko / Tomoko's Shikishi-Hyakka : Tanaka Tomoko

TOMOKOのびっくり箱: 布施知子 / ともこさんの色紙百花: 田中具子

通巻 62 号

日本折紙学会 (JOAS) の理念

The Purpose of Japan Origami Academic Society

第一章 名称と目的

第一条 会の名称

1. 本会の名称は日本折紙学会とする。
2. 本会の英語での名称は、Japan Origami Academic Societyとする。
3. 本会の略称は、JOASとする。

第二条 会の目的

1. 本会は、折り紙の専門研究と折り紙の普及の促進、ならびに、それらを通しての広く国内、外の折り紙愛好家との交流の促進を目的とする。
2. 第一項の折り紙の専門研究とは、折り紙の創作、折り紙の創作技術の研究、折り紙に関する批評・評論、数学研究、教育研究、歴史・書誌研究、先取権の研究、工学・商業デザインの研究等を意味する。
3. 第一項の折り紙の普及とは、折り紙の社会的認知度の向上活動、折り紙愛好者層の拡大活動、折り紙に関する人材の育成と発掘等を意味する。

規約第1章より抜粋

Chapter 1: Name and Purpose

Article 1: Name

1. This society is to be called Nihon Origami Gakkai in Japanese.
2. This society is to be called Japan Origami Academic Society in English.
3. The abbreviated name of this society is JOAS.

Article 2: Purpose

1. The purpose of JOAS is to promote studies of origami, diffusion of origami, and both domestic and international association of all origami-lovers.
2. The studies of origami mentioned above includes designing, designing techniques, criticism, mathematical studies, educational studies, history, bibliography, studies on the preferential right, studies of industrial and commercial design, and so on.
3. The diffusion of origami mentioned above includes widening appreciation of origami, expansion of the community of origami-lovers, scouting and rearing the origami talent, and so on.

●折り方の約束記号 SYMBOL FOR FOLDING

谷折り線
Line indicating
valley fold.

山折り線
Line indicating
mountain fold.

手前に折る
Fold forward.

後ろへ折る
Fold backward.

折り筋を
つける
Fold and unfold.

段折り
Pleat.

裏返す
Turn over.

引き出す
Pull out flap.

図の見る
位置が変わる
Rotate.

図が
大きくなる
Diagram enlarged.

見えない
ところ
X-ray.

押す、
押しつぶす
Push here.

切る
Cut.

表紙作品解説

リートを弾く天使
作:川畑文昭(P.11)
An Angel Playing the Lute
Kawahata Fumiaki(P.11)

■川畑氏の最新複雑作品の登場です。最先端の設計技術と詩情あふれる仕上げ造形、全身のフォルムと細部ディテール、楽器や羽など多数の構成部分の調和。まさに「見事な融合」という表現がふさわしい作品です。クローズアップ記事本文とあわせてお楽しみください。
(解説・北條高史) Comments : Hojyo Takashi

No. **62**

C O N T E N T S

■ 好評連載陣

Series

TOMOKOのびっくり箱

4

Tomoko in the Box

八角箱22.5 Octagonal Box 22.5

布施知子 Fuse Tomoko

ともこさんの色紙百花

8

Tomoko's Shikishi-hyakka

ブーゲンビレア Bougainvillea

田中具子 Tanaka Tomoko

折紙^{バイ}×数理

14

Origami×Mathematics

第2回 問題作り Problem Setting

川崎敏和 Kawasaki Toshikazu

おりがみ庵 読み歩き

16

A Philological Survey of Origami

第2回

岡村昌夫 Okamura Masao

新・折紙散歩

18

第2回 食べられる折り紙

New Origami Sampo (Origami Walk)

— Edible Origami —

前川 淳 Maekawa Jun

世界の折り紙団体 田尻敦士

35

World's Origami Organizations Tajiri Atsushi

第2回 OrigamiUSA

■ カラーページ

ORIGAMI PHOTO GALLERY

20

解説・北條高史 Comments: Hojyo Takashi

「ブーゲンビレア」田中具子／「八角箱22.5」布施知子
 ／「うさぎ」小松英夫／「採火式」神谷哲史

Bougainvillea: Tanaka Tomoko / Octagonal Box 22.5: Fuse Tomoko / Rabbit: Komatsu Hideo / Olympic Flame Lighting Ceremony: Kamiya Satoshi

■ クローズアップ

Close-up

二兎を追う

11

Don't Be Afraid of Falling Between Two Stools

川畑文昭 Kawahata Fumiaki

■ 折り図

Diagrams

Don't Freeze

22

作:小方弘巳

図:小松英夫

Model designed by Ogata Hiromi

Diagrams by Komatsu Hideo



展開図折りに挑戦!

34

Crease Pattern Challenge

うさぎ Rabbit

小松英夫 Komatsu Hideo

■ エッセイ・コラム

Essay & Column

おりすじ ———— **おおのひろみ**

32

Orisuji ("Fold-Creases") Ohno Hiromi

折紙三昧 ———— **西川誠司**

33

Origami-Zanmai Nishikawa Seiji
 (This Origami and that)

■ インフォメーション

つまみおり Rabbit Ear (Information)

36

・ Origami USAコンベンションレポート
 OUSA Convention Report

・ 「第4回全国折紙王選手権」レポート
 Report from a TV Program
 "The 4th Origami King Award Tournament."

・ 「世界の折り紙展-見る折り紙、体験する折り紙-(仮称)」
 World's Origami Exhibition: Appreciation and
 Experience of the Origami World

第8回 八角箱 22.5

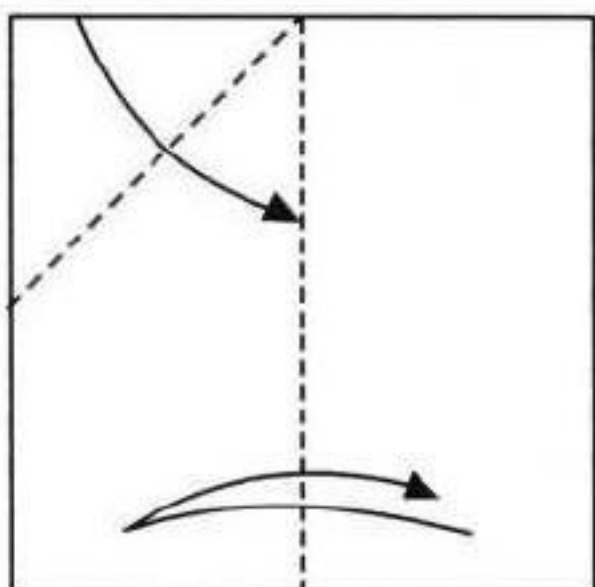
Octagonal Box 22.5

前回の「四角箱22.5」に続いて、今度は八角箱です。
正方形の辺に対して22.5度ずらした線を基本にして折ります。

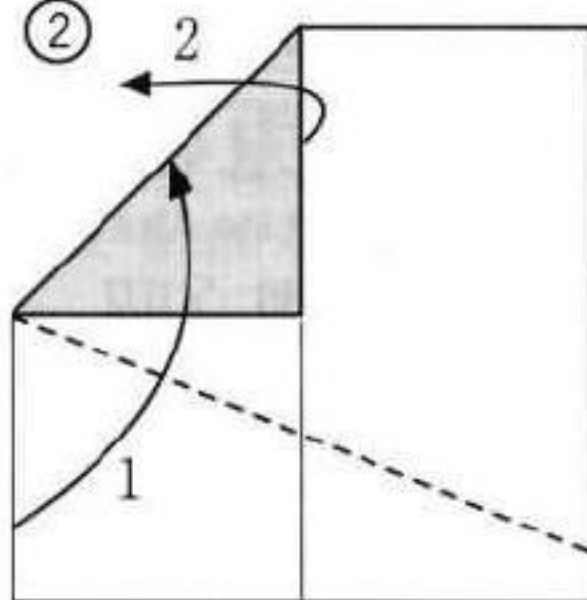
折り進むにつれて、従来の八角箱とちがう体験をなさるでしょう。



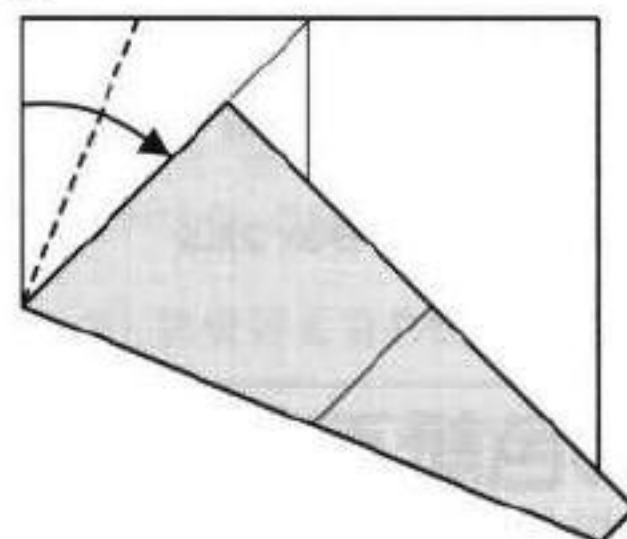
①



②

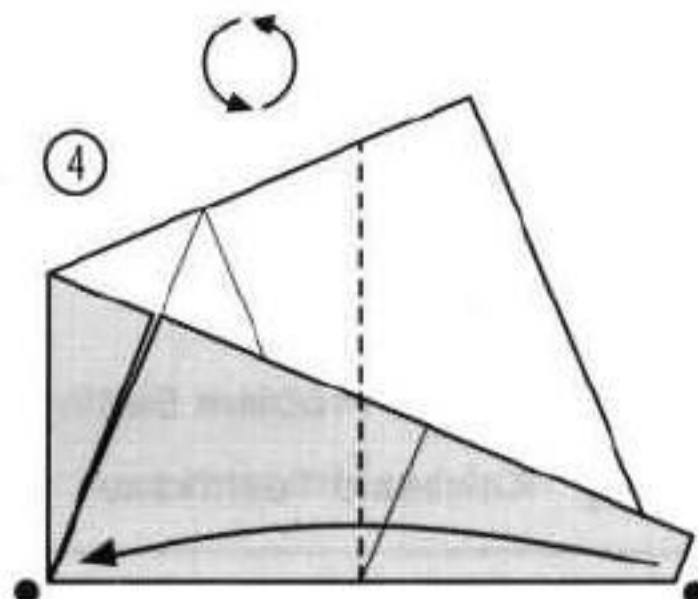


③



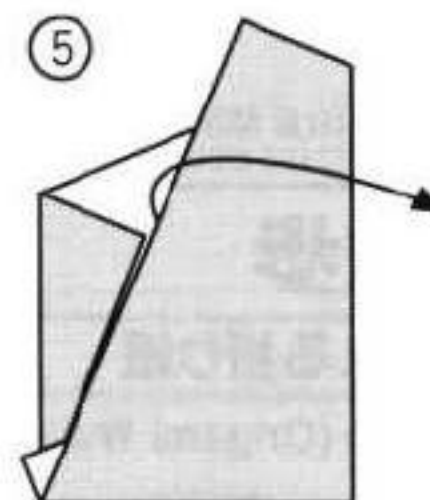
番号順に折る

④

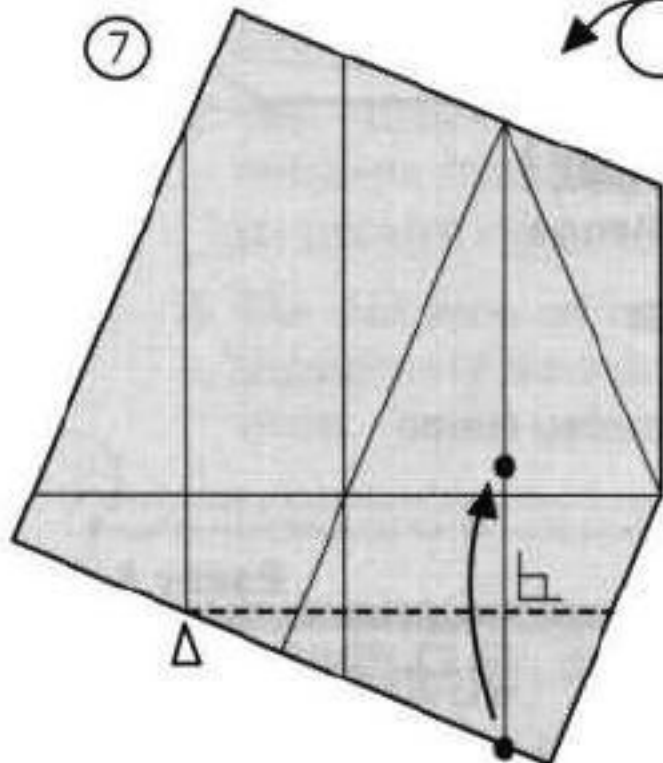


印を合わせて半分に折る

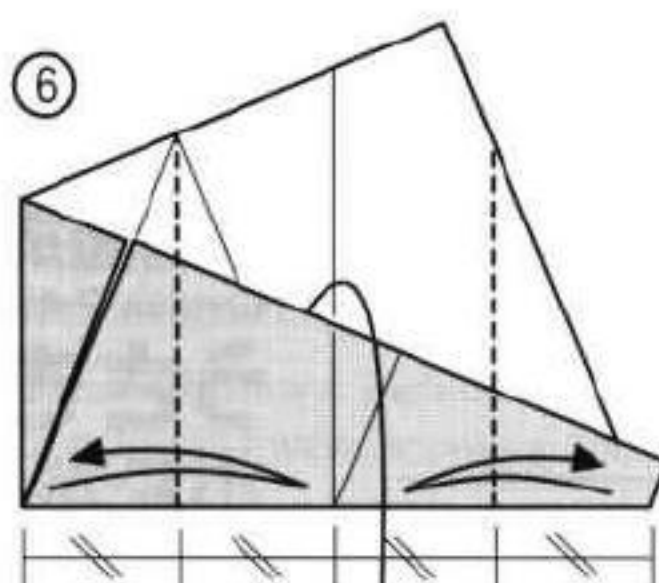
⑤



⑦

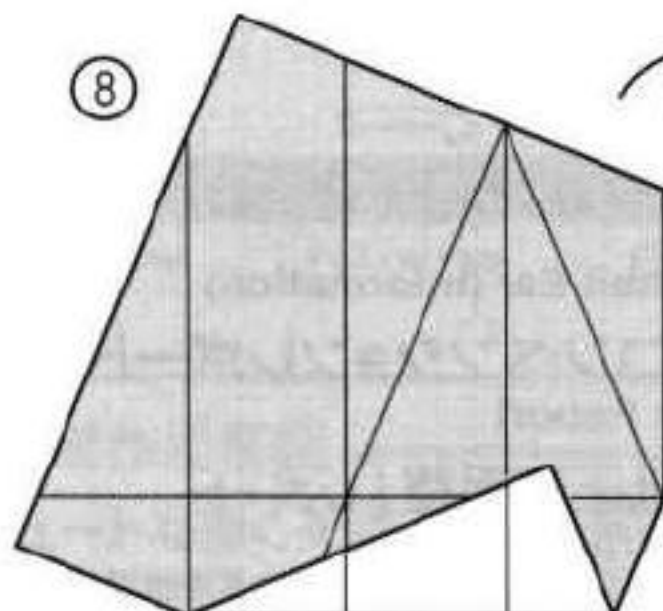


⑥

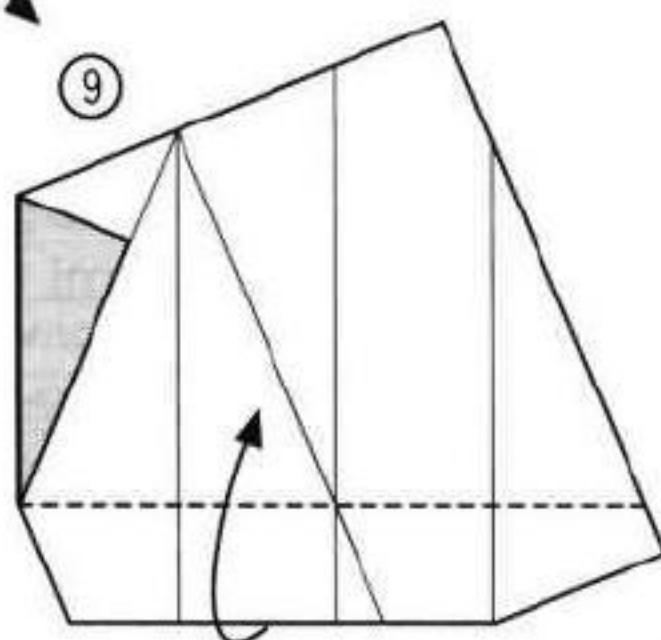


4等分の折り線
をつけたら開く

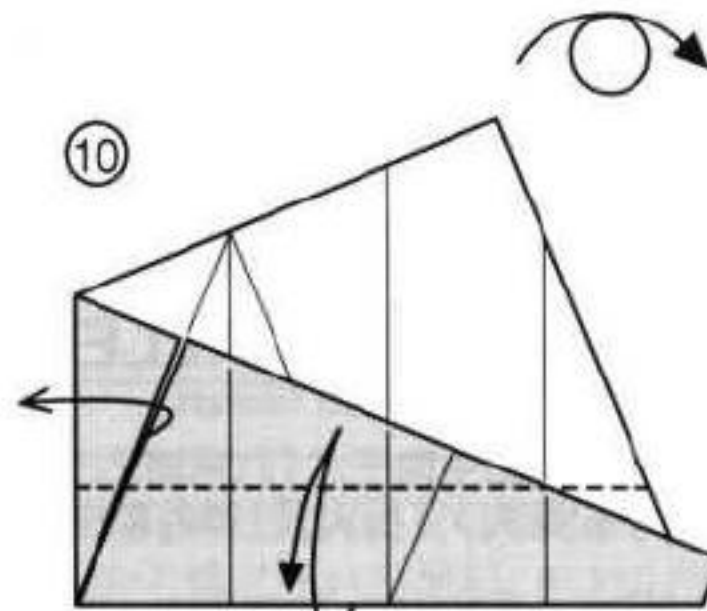
⑧

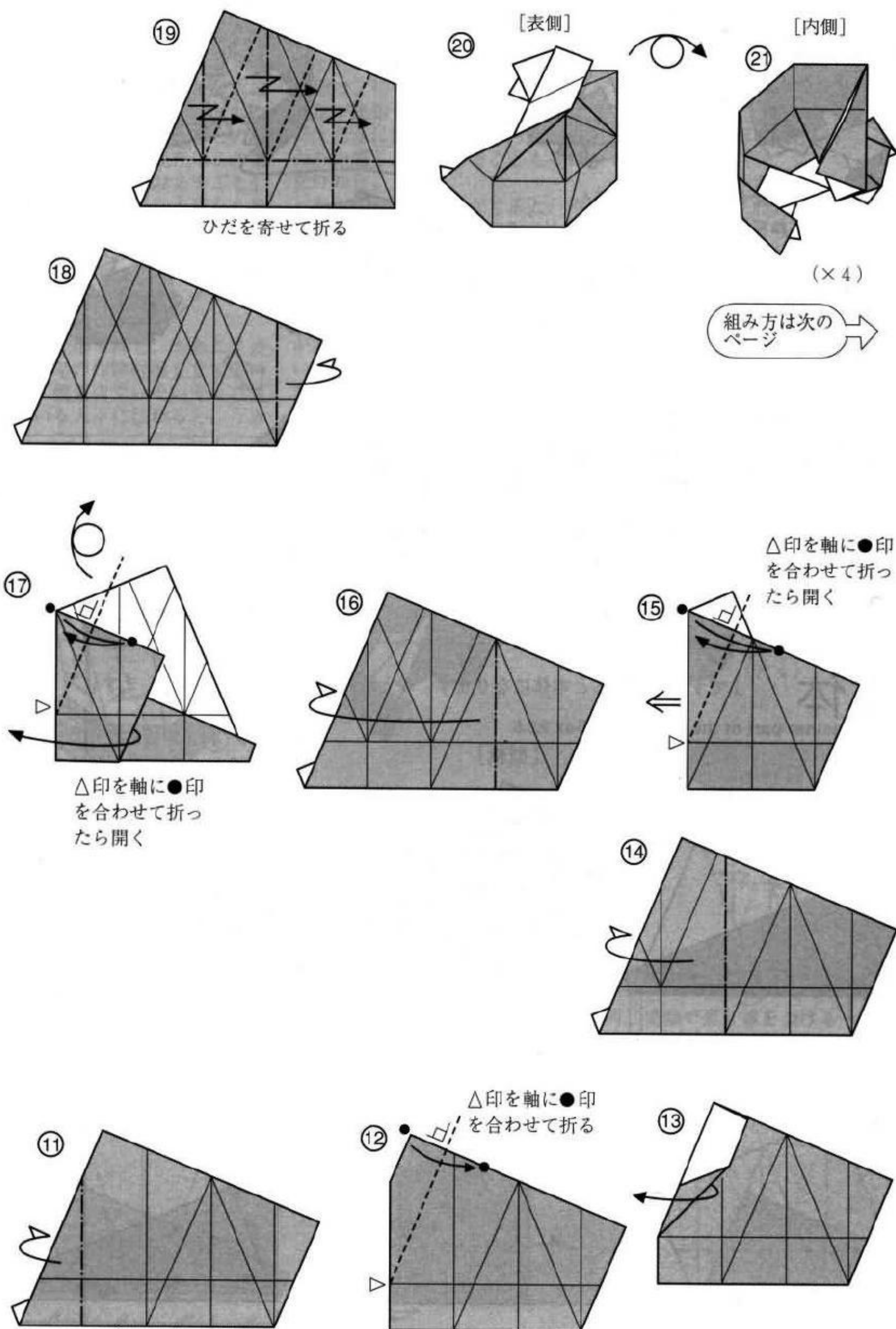


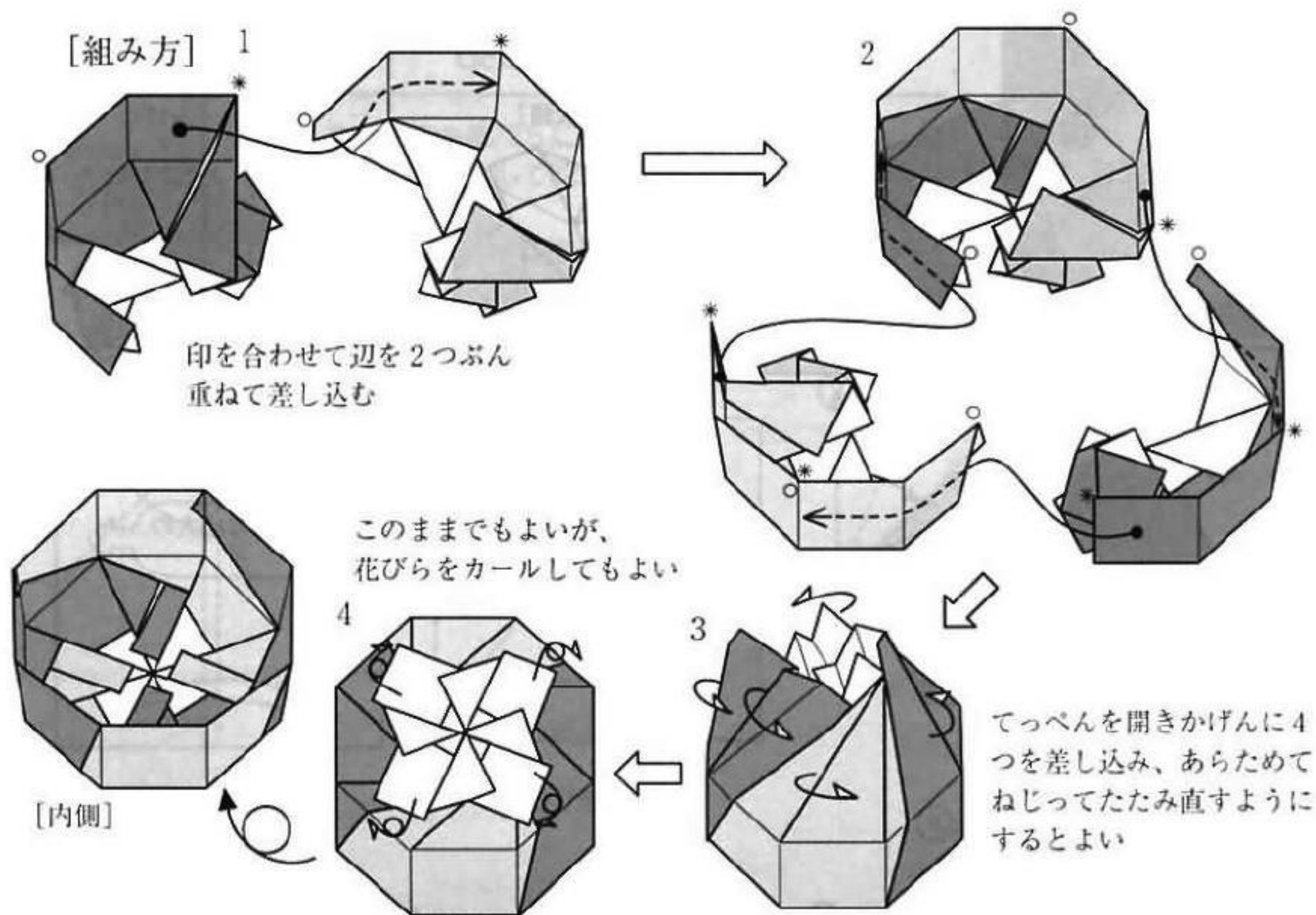
⑨



⑩



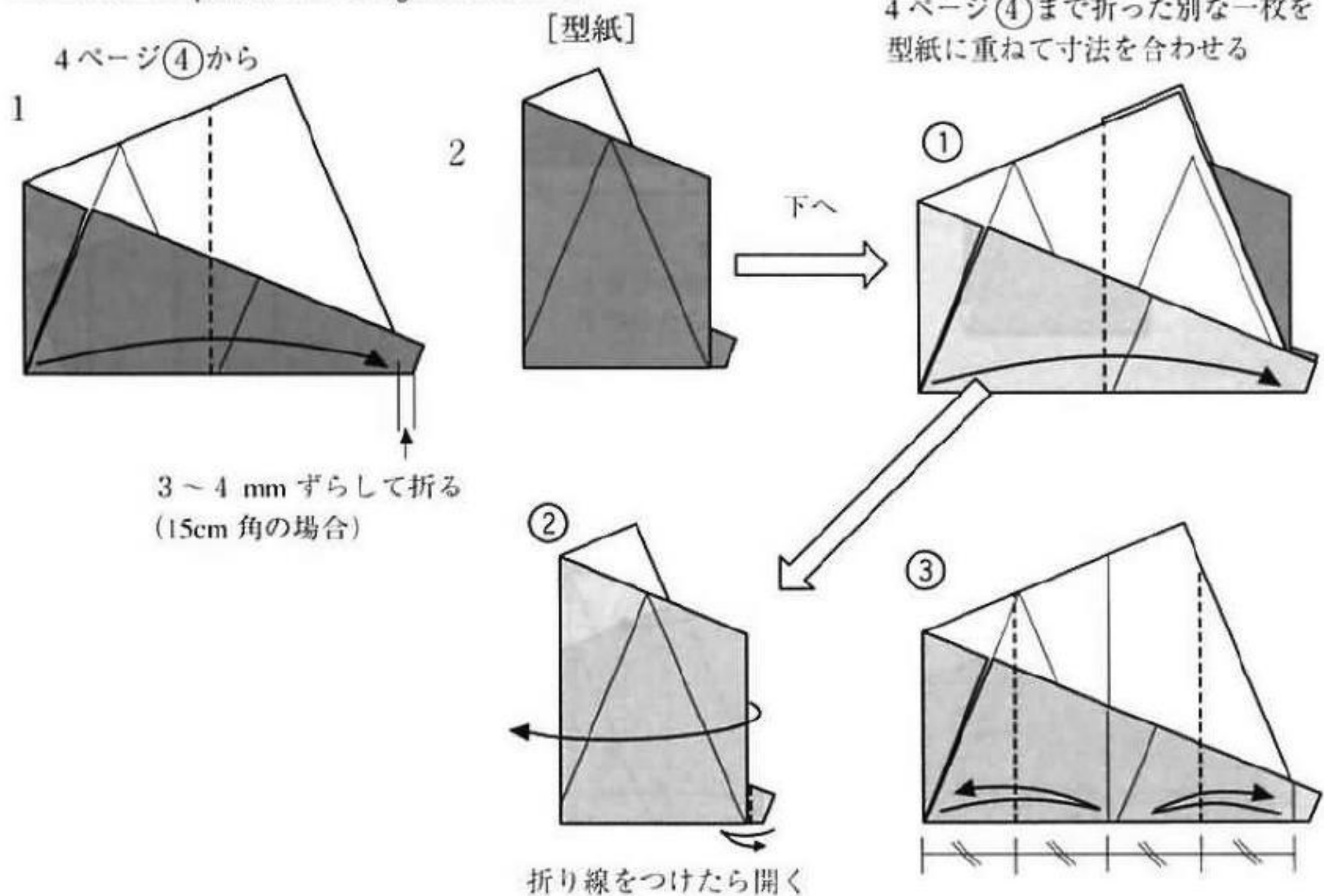




本体

1でずらして折ると本体になります。ひとつ折ったらそれを型紙にします。

The container part of the Octagonal Box 22.5



ショートエッセイ「菜園昨今」

小さな菜園を作っている。
この村に来た当初は、野菜類はいっ
さい買わない意気込みで、はりきっ
て開墾しいろいろ育てた。キュウリ
や菜類は上々のでき。秋にはほれほ
れするような大根がどっさりとれた。
が、雑草や虫との戦い。仕事との時
間のバランス等々で、現在はこのあ
たりの平均に比して「おままごと」
程度に面積になった。二人暮らしな
ので作物もシソ、バジル、コリアン
ダーといった香味野菜と、ひととお
りの夏野菜。今年はズッキーニも2
株元気に育っている。

春、ねこ額の畑を耕し、あれこれ迷
いながら今年の作物計画を立てるの
は楽しい。種苗店でいそいそと品定
めをしている人々に加わると、うき

うきして、頭の中には立派なカボチ
ャやつやつやしたトマトが鈴生りに
なりだす。

しかしこのとき思いえがいた理想の
菜園は、のちに虫の保育園となり、
雑草が風情を競い、秋ともなれば虫
のすだきに頭をたれながらもののあ
われを感じる場となることも多いの
だけれど。

しかし、めぐって春がくると、冬に
痛めつけられた分、土に触りたいと
いう欲求がまたむくむくと湧いてく
る。

うらうらとしたある日、冬眠からさ
めたように村のあちこちにお年寄り
が湧き出て、畑にかがんで何かして
いる。なんだか嬉しい。今年こそ、
ちっとはまじな作物を……。

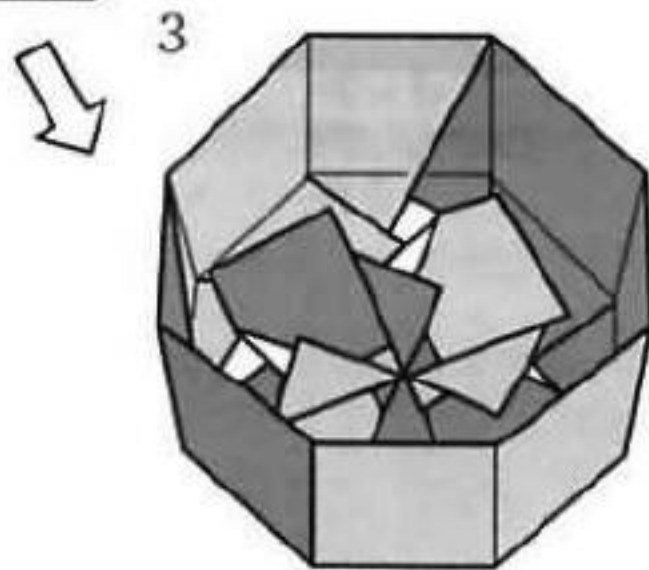
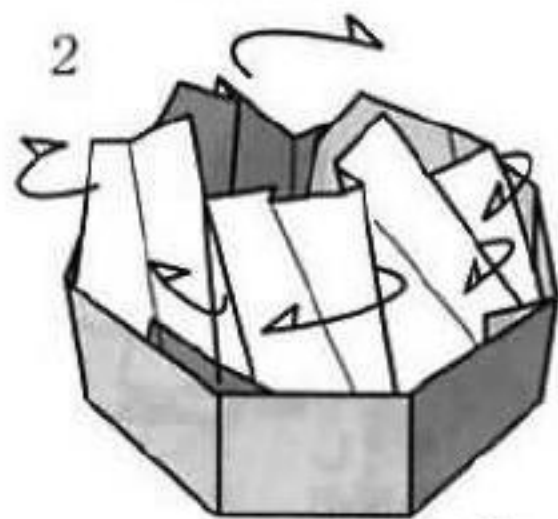
春ごとに気分はリセットされる。

折り紙に対して新鮮な気持ちを持ち
続けられるか。春ごとに気分がリセ
ットされるように、折り紙に対して
まっさらな気持ちになるのは、すば
らしい作品に出会った時。そんな作
品を、できればいつだって自分で見
つけたいのだけれど……。

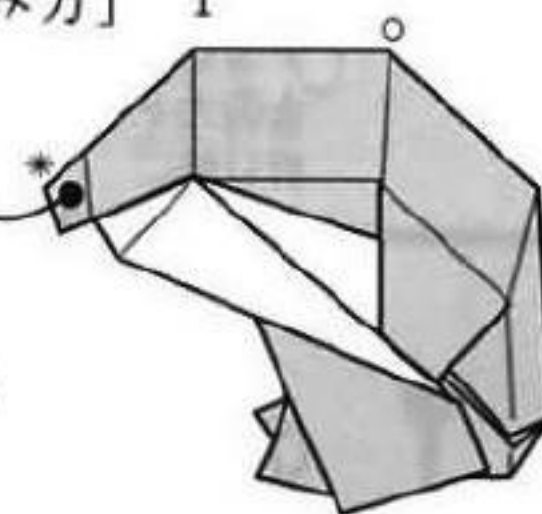
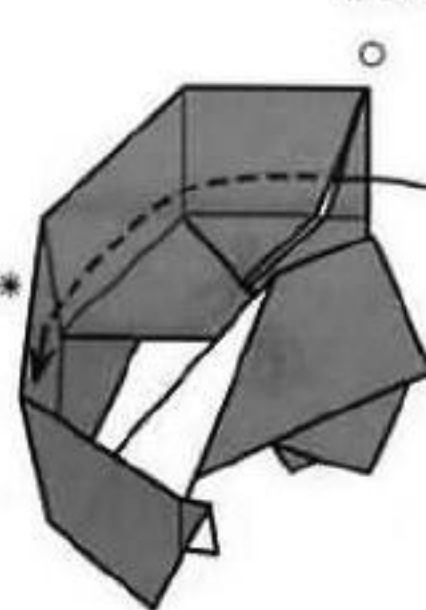
作物を育て、育っていくさまを見る
喜びは、日々の大きな活力になって
いる。畑は毎日ちょっとでも手を入
れ、目をかけると格段に違う。長期
留守をして畑に立つと、それだけの
時間が無惨な形で目にみえる。

このあたりでは、かつてウツギは畑
の境に植えられたそうである。荒れ
果てた山畑のあちこちで、今盛んに
純白の可憐な花を咲かせている。

底を開きかげんにして4つを差
し込み、あらためて、ねじって
たたみ直すようにするとよい

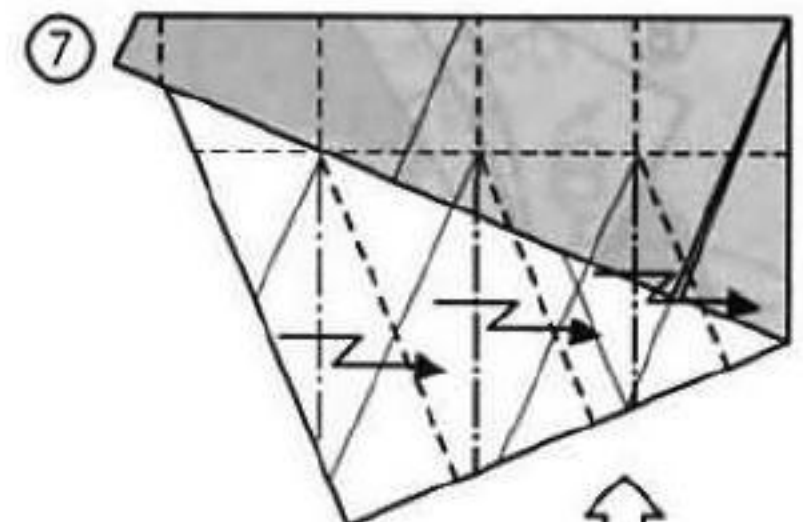


〔組み方〕 1

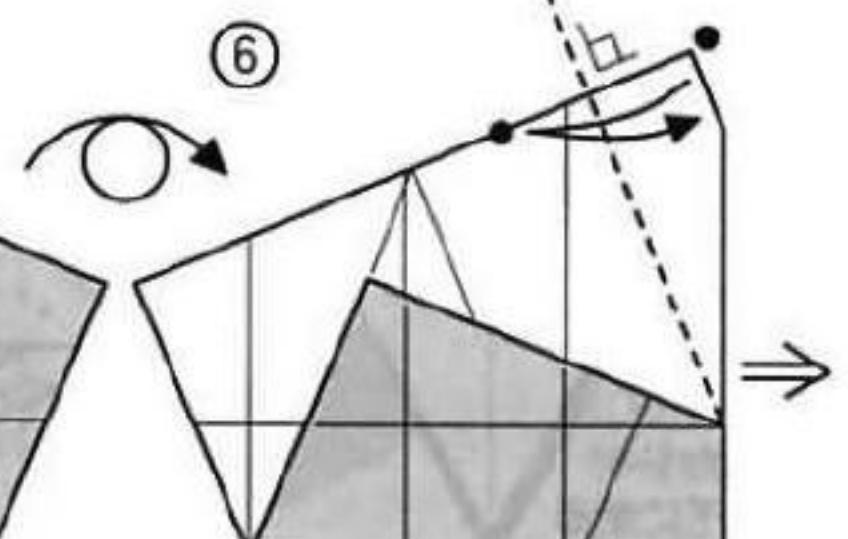
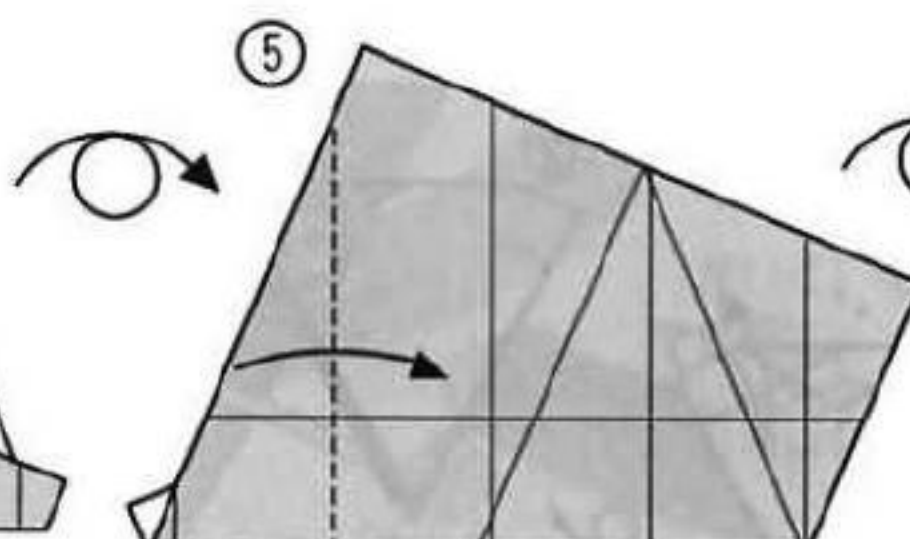
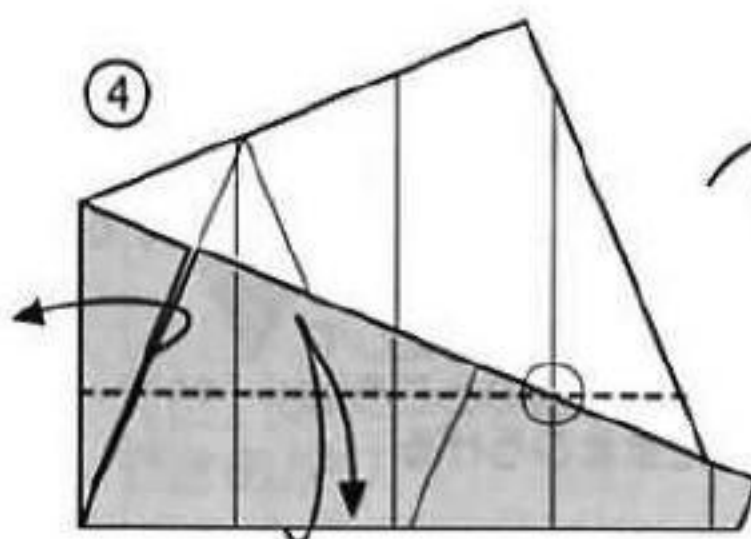
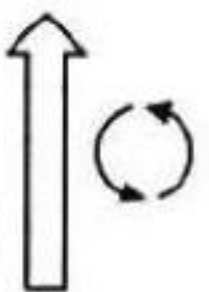


以下、6ページと
同じ要領で組む
(ただし内外は逆)

(×4)



以下、5ページ⑫からと
同じ要領で折り線をつける
(ただし左右は逆)



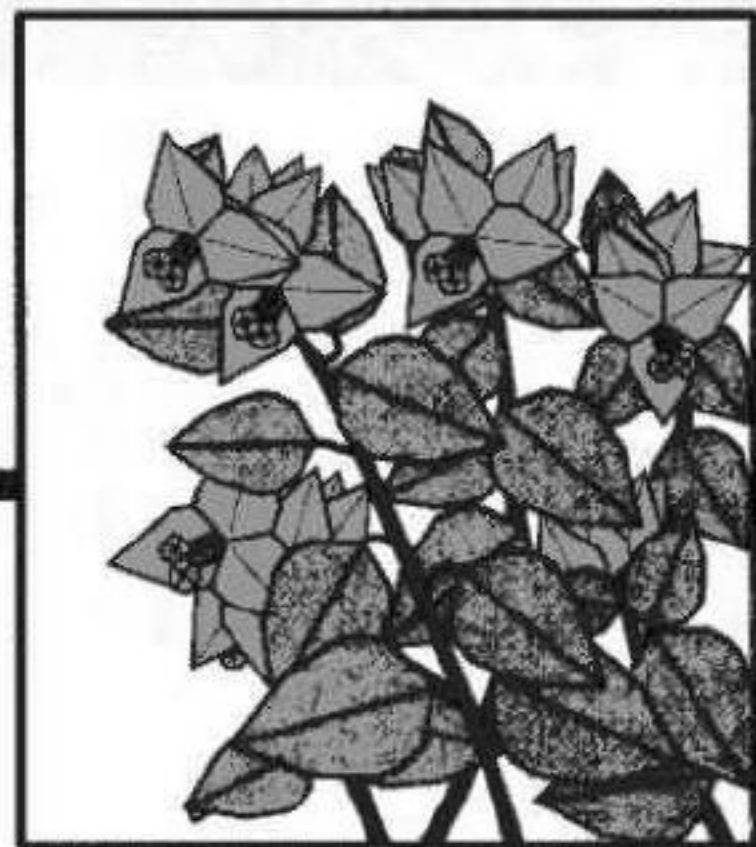
ももこさんの 色紙 百花

ブーゲンビレア

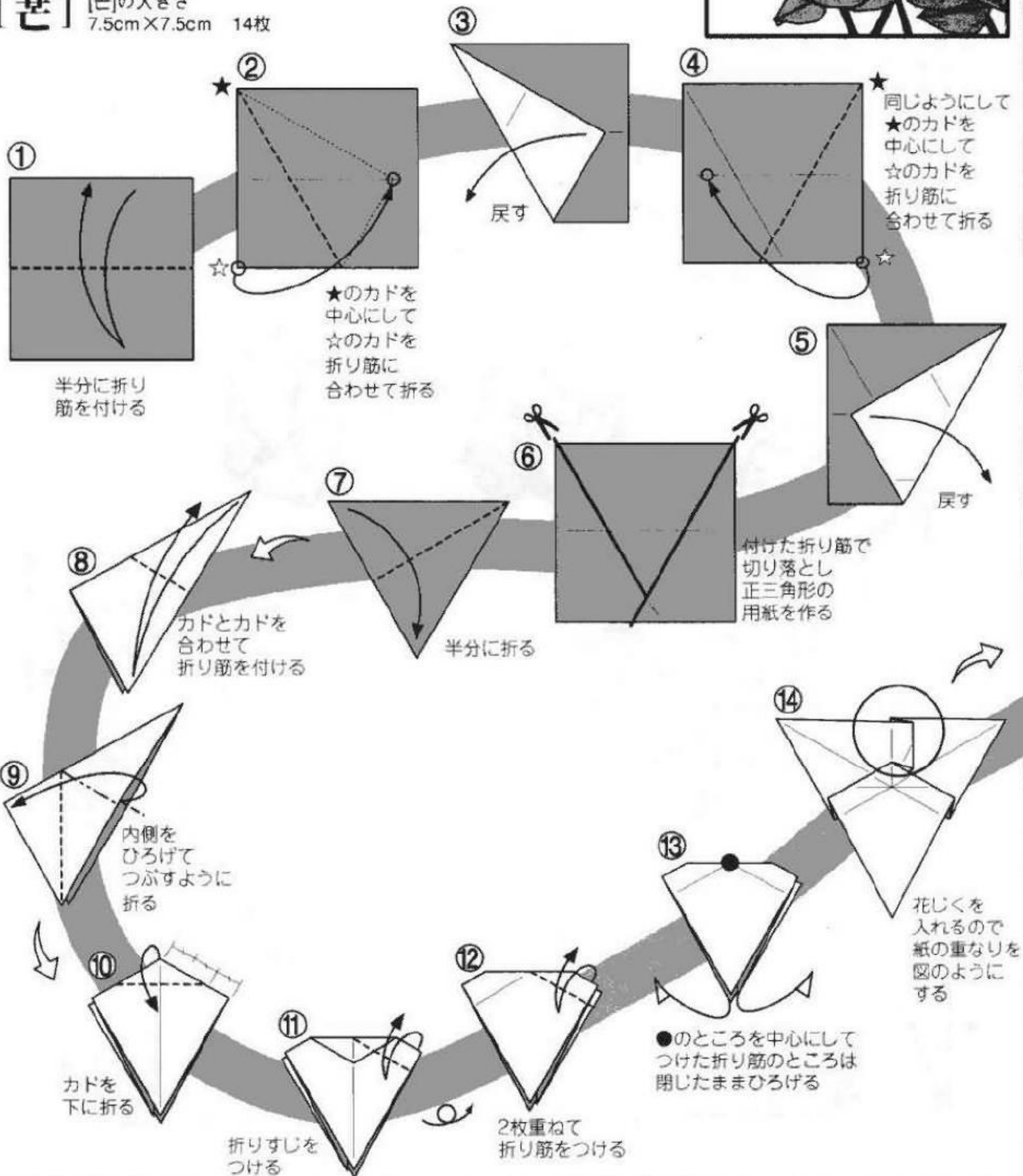
Bougainvillea

田中具子
Tanaka Tomoko

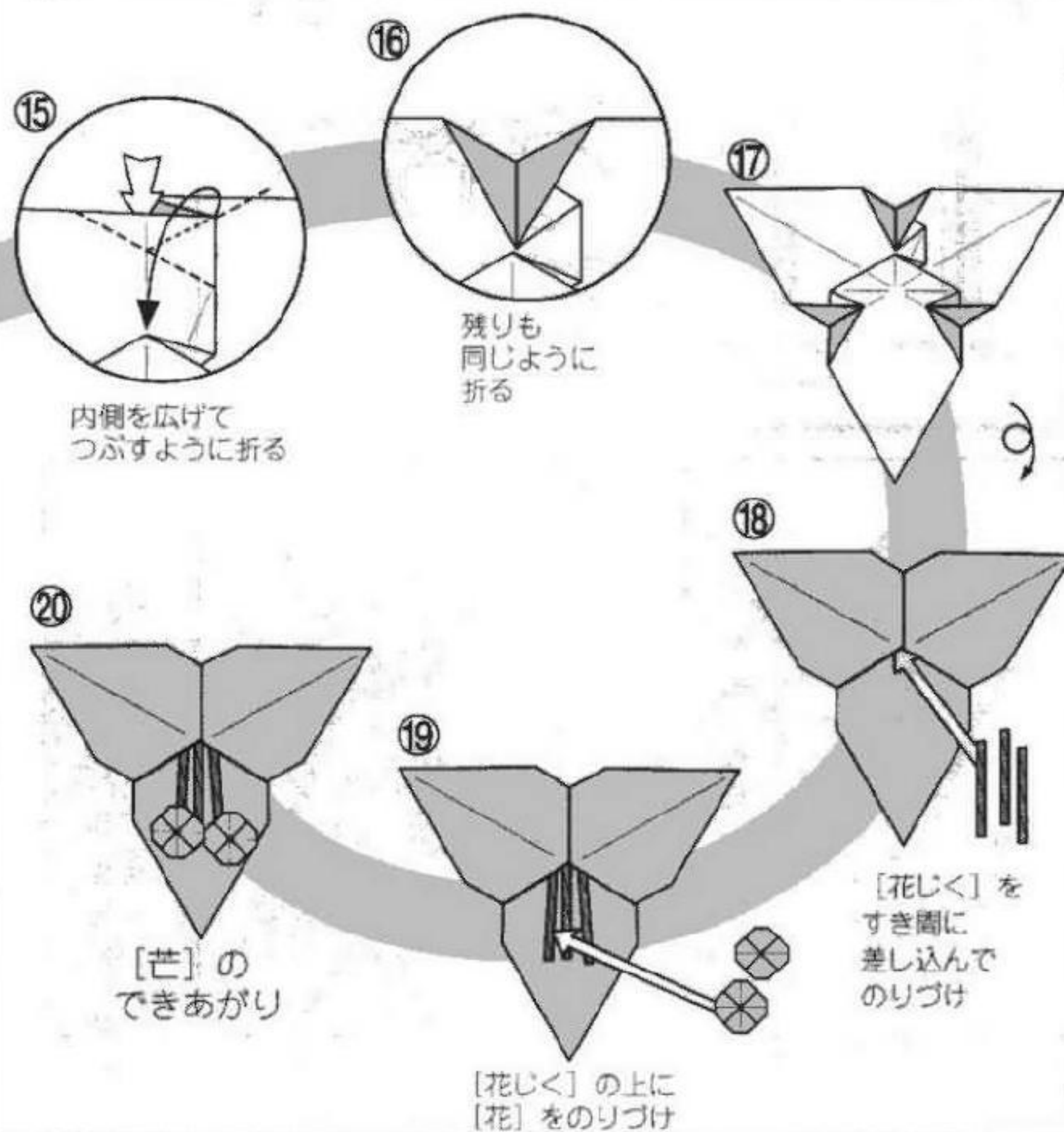
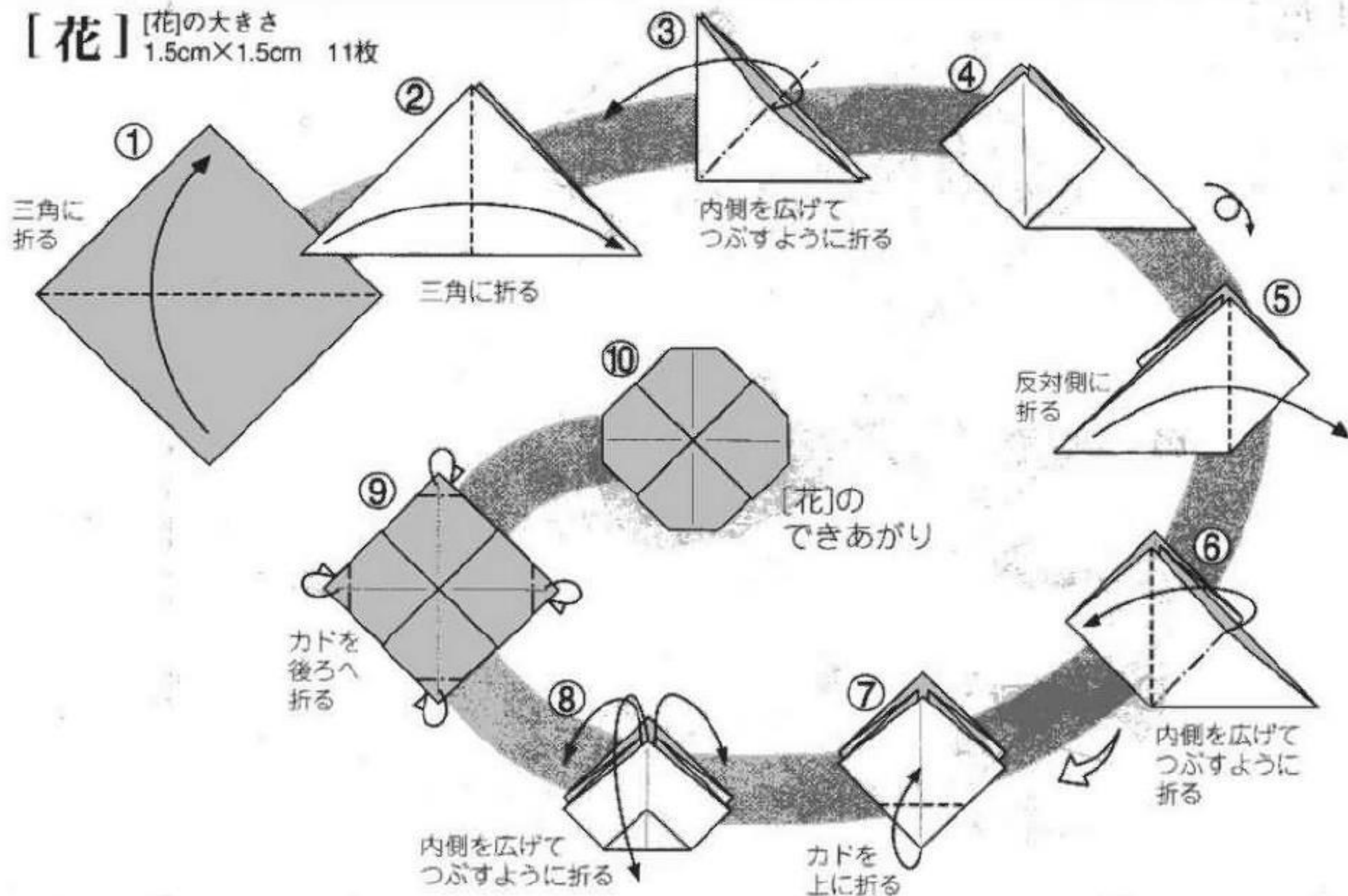
折り方は難しくありませんが、それぞれの
パーツの数が多いので、全体の構成を慎重に。



【芒】 [芒]の大きさ
7.5cm×7.5cm 14枚

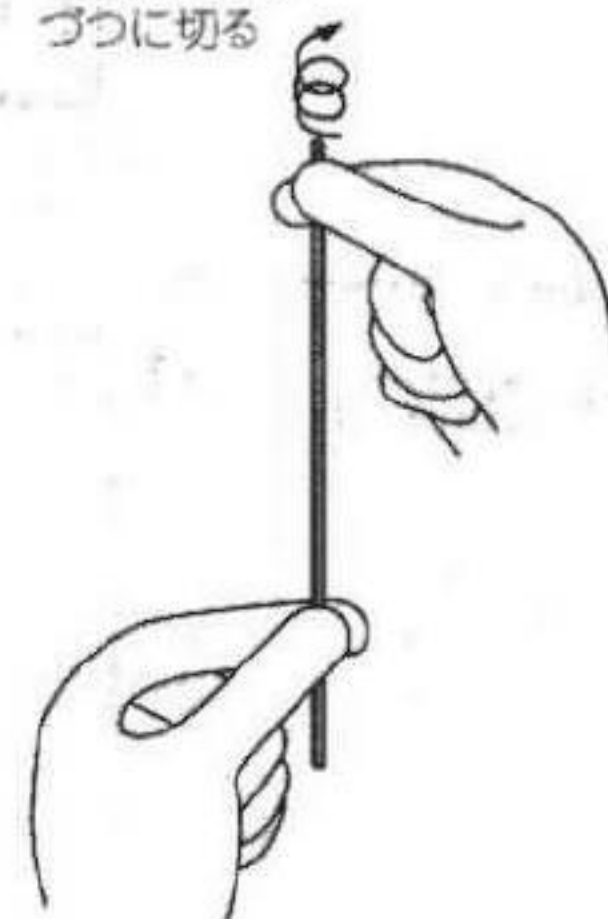


[花] [花]の大きさ 1.5cm×1.5cm 11枚



[花じく]

1.5cm幅の紙で
こよりをよる
25cmほど用意し
1.5cmくらい
づつに切る



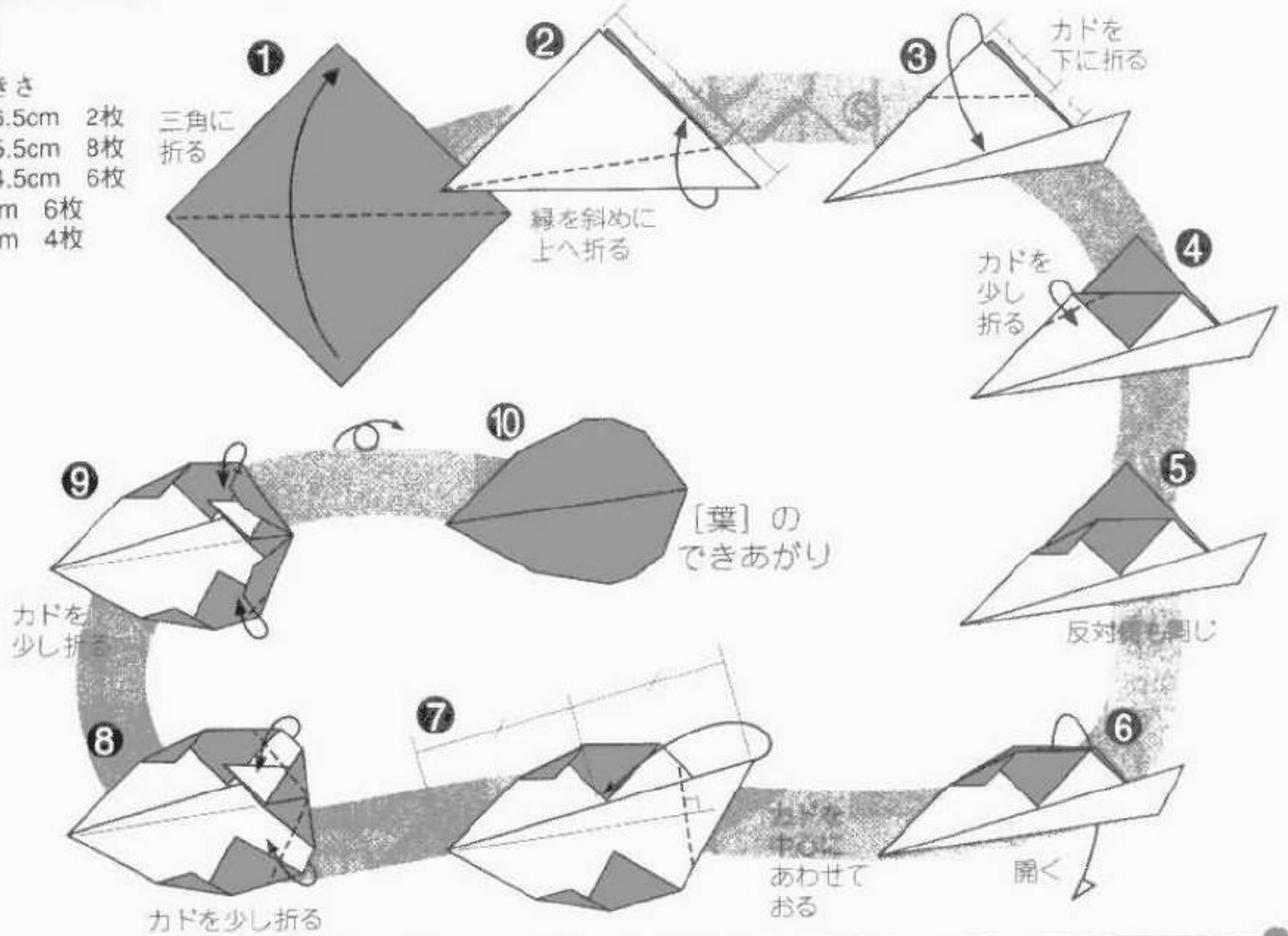
[葉じく]

1.5cm幅の紙で
こよりをよる。
10cmほど用意し
1~2cmくらい
づつに切る

[葉]

[葉]の大きさ

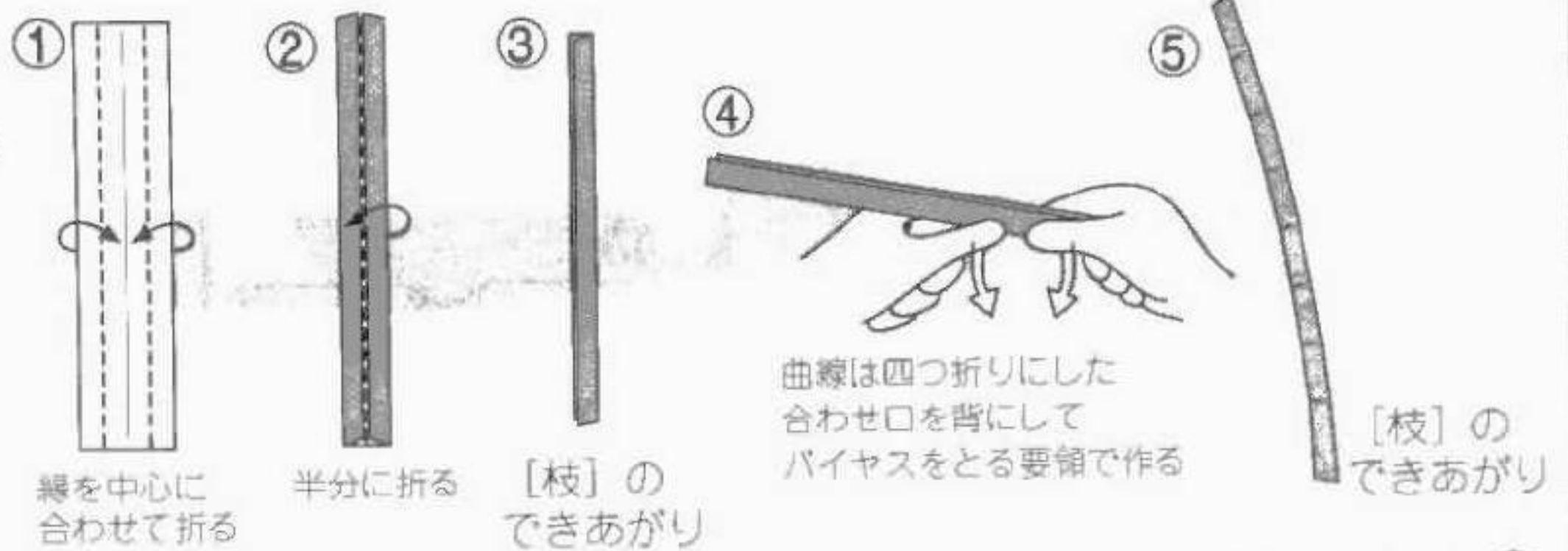
6.5cm×6.5cm 2枚
5.5cm×5.5cm 8枚
4.5cm×4.5cm 6枚
4cm×4cm 6枚
3cm×3cm 4枚



[枝]

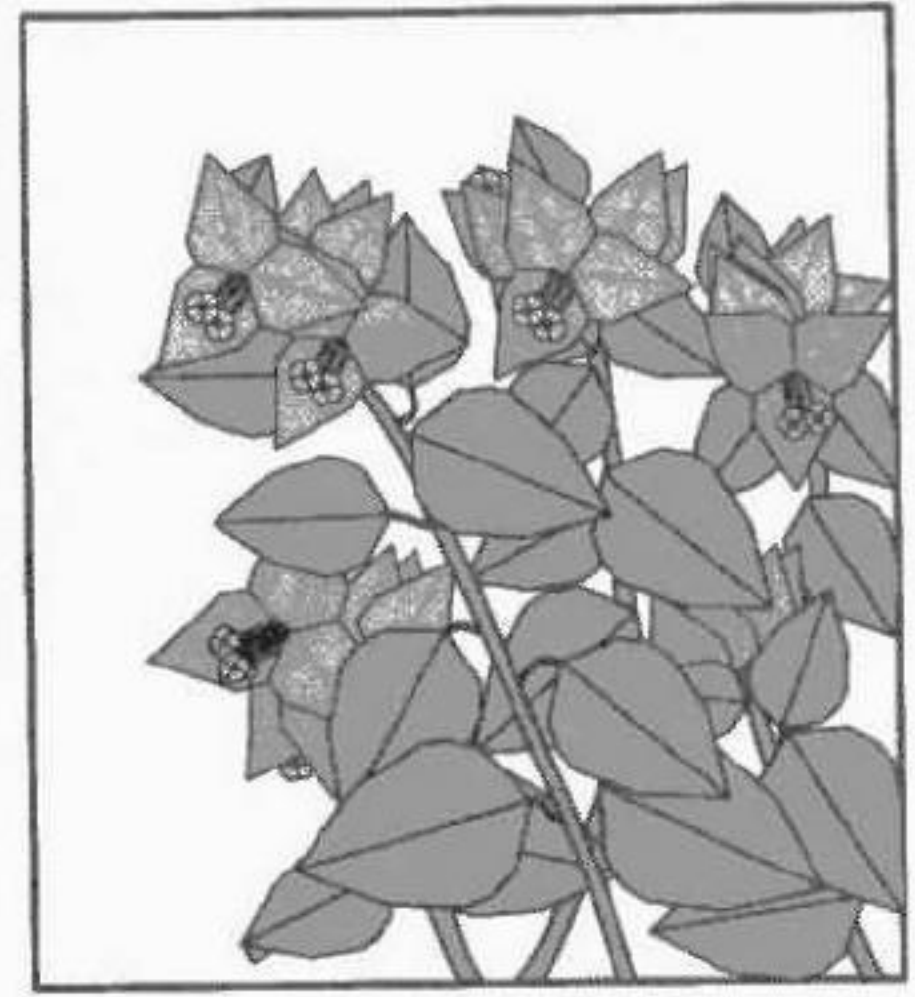
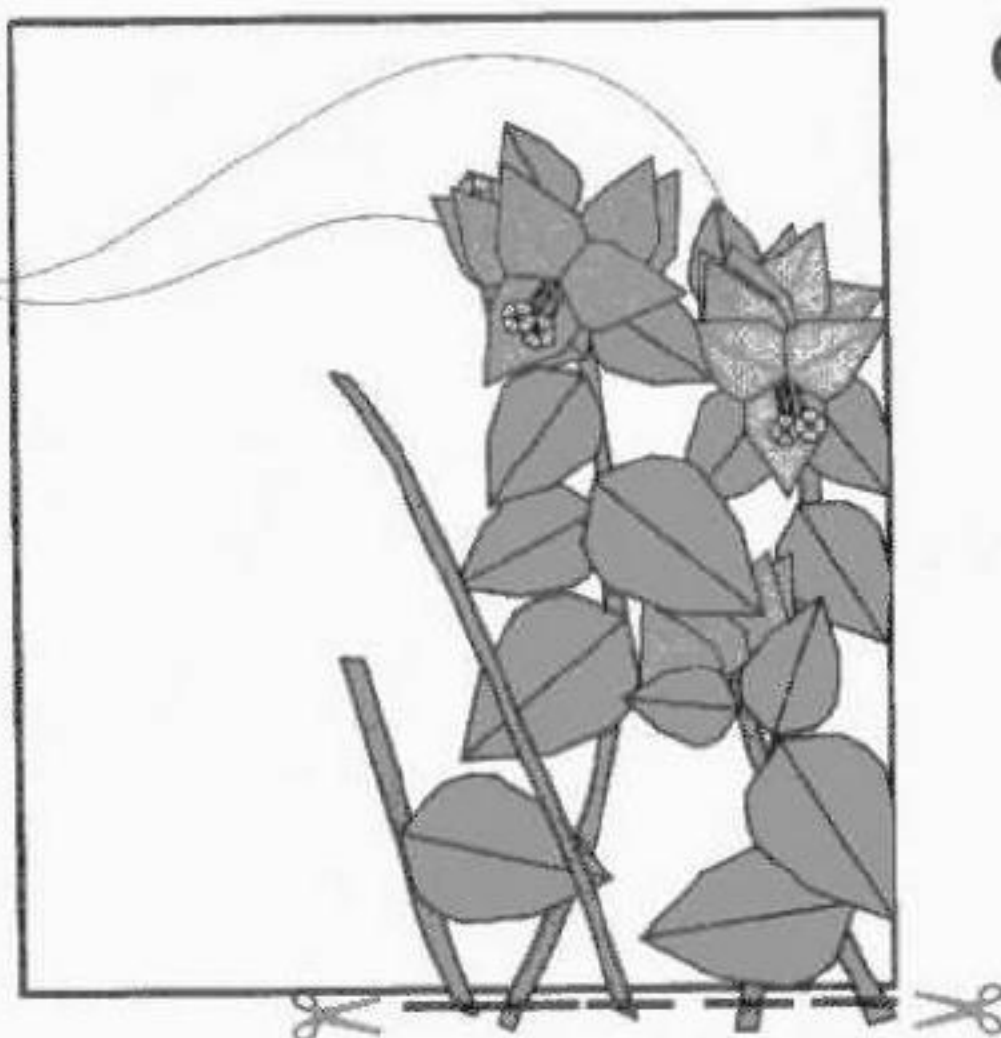
[枝]の大きさ

1.8cm×20cm 4枚



[組み方]

1 横向きの芒は、一度折ったものを適当に折り畳んでつくる





【1】二兎を追う

この度、特集ページ(クローズアップ)の執筆を仰せつかった。今まで登場された皆さんに比べ、いささかネタ不足の感は否めず、格調高くない話になってしまうことを申し訳なく思いつつも、最近の自分を振り返りながら、徒然なるままに書いてみたいと思う。実は、私には折り紙の他にもう一つ音楽という趣味がある。(残念ながら仕事ではありません)。どんな種類の音楽かというと、それは楽器演奏、しかも自分でも結構しぶいな、と思うがクラシックギター演奏だ。というのかっこよく聞こえるが、実は、いざという時は人呼んで得意技「真空弾き」を多用して周囲(音楽仲間)を困らせるほどの腕前である。折り紙は幼少の頃から始めたのに対し、こちらの方は結構遅く、本格的に練習し始めたのは大学時代からである。私の実家には誰も弾かなくなった古いギターが1本あったのだが、それをいつしか兄が弾いていた。そのギターも、ある大掃除の日、誰かに踏み抜かれて割れてしまった(ああ、かわいそうなギター)。それを不憫に思い、無理やり釘を打ちこんで、なんとか弾ける状態に戻し、その壊れかけたギターで高校時代の後半に私もフォークギターの真似事をやりはじめた。思えばそれが始まりであった。大学生になって、たまたま同じ下宿にクラシックギターを弾いている先輩がいたことから、少し手ほどきを受け、だんだんとその魅力に取りつかれ、それ以来ポ

二兎を追う

Don't Be Afraid of Falling
Between Two Stools

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

ロンボロンと弾いて今に至っている。考えれば、音楽の方は折り紙よりはずっと短いのではあるが、いつしか20年を越えた事になる。かっこ良く、2足のワラジと言いたいところだが、なかなか両方完璧にこなせないのが、二兎を追うという表現の方が私にはあっていると思う。最近では折り紙がスランプの時はギターを弾き、ギターに疲れた時は紙を折っている。考えればうまく回っているのかもしれない。

折り紙界で見渡すと、雪の折り紙の富山大学の鈴木先生が、やはり折り紙とギターを両方やっておられるということを比較的最近になって知った。その後、鈴木先生からは楽譜やCDを頂いたりして、折り紙共々大変お世話になっている。一度先生の生演奏もぜひお聞きたいと願っている。そういえば鈴木先生は背も高く、指も(きっと)長く、ギターを弾くには最適の身体的条件を備えていら

っしゃるのではないかと思います。振り返って私かというと、背は低く、比例して指も短いので、必然的に無理が生じている。そんなこともあり、出来るだけ難しい曲は弾かないことに決めているのだが折り

紙は…。ご存知の方も多いと思うが、クラシックギターは弦を指で直接弾いて音を出す楽器であり、指先と弦との微妙なタッチが大変音作りには重要になる。そのため通常はしっかりと音色を出せるように右手の爪を伸ばして磨き、これで弦を弾くという奏法を用いている。演奏でミスしてしまった時には「爪ばかり磨いていて腕を磨く時間がなかった…」と釈明する所

以でもある。実は折り紙でもこのギター用に伸ばした爪を使うと、非常にきれいな折り筋をつけることができるのである。意外な共通点である。町角で右手の爪だけ伸ばしている人を見かけたならば、その人はきっとギタリストかオリガミアンである。そんな私も最近ギター独奏はあまりやらなくなり、アンサンブルやギターマンドリン合奏団のギターパートとして、年に数回の演奏活動が中心的な活動となってきているが、それなりに楽しませて頂いている。ただ、年々体力も衰えてきて、暗譜がなかなか出来なかったり、5線譜が6線譜に見えてしまったりすることもあるが。

【2】音楽と折り紙

音楽と折り紙は著作権やその成り立ちからよく比較されることもあるが、実際

二兎を追う

Don't Be Afraid of Falling Between Two Stools

川畑文昭

Kawahata Fumiaki

に自分が経験した立場として比較してみると、音楽での生演奏はその一瞬一瞬が勝負であり、失敗はとりかえせないのに対し、折り紙は発表前にやろうとおもえばいくらでも修正が出来るし、やり直しをすることが出来る。これは決定的な相違点と思う。その他の共通点と相違点を挙げてみると、共通点としては、

- 1) 音楽は楽譜、折り紙は折り図。いずれも第3者により再現できる。
- 2) 音楽と折り紙、いずれも人の心をなごませる力がある。

相違点としては

- 1) 音楽大学はあるが折紙大学はない。

あまり説得力のある比較でもないが、そもそも音楽と折り紙を対比させようとしたこと自体に無理があるかもしれない。一昨年ある別のマンドリン楽団から連絡をうけ、手伝ってほしいという。さては写真1



奏依頼かと思いきや、舞台のバックに折り紙をかざりたいので、折ってくれないかと。ううん、悩むなあ。

【3】思い付き

さて、いつまでも「二兎を追う」話ばかりしていてもいけないので、そろそろ折り紙の話に戻そうと思う。常々折り紙で音楽を表現できればいいなと思っていたので、今回それに挑戦してみることにした。今まで音楽を表現した折り紙といえば枚挙にいとまがない。例えば、レイジ・レオナルディーさんの「折り紙オーケストラ」(注1)、津田良夫さんの「ギター弾き」(注2)、ロバート・ラングさんの作品群(注3)、北條高史さんの「バイオリン奏者」(注4)など多くの作品が存在している。まだまだ紹介しきれないほどあるのだが、今回自分自身の特徴を出せる

ような音楽(楽器)折り紙を造りたくなった。ギターをやっている関係上、それに属する楽器には興味があったため、ギターの先祖ともいえる、ルネッサンス〜バロック期にヨーロッパで流行したリュート(写真1)という楽器をモチーフとして創作してみることにした。もともと3次元曲面形状が面白い楽器なのであるが、これを折り紙でうまく表現できるかどうか心配点は若干残る。そこで、楽器単体ではなく、それを弾く人物も一緒に折ってみることにした。タイトルは、「リュートを弾く〇〇」として。(〇〇に入る名詞としては、少年、少女、妖精、天使、鈴木先生?など…色々考えられるが、いずれのモチーフも表現が難しそうな題材ではある。)

【4】構 想

楽器を弾く人を表現するための方策

図1

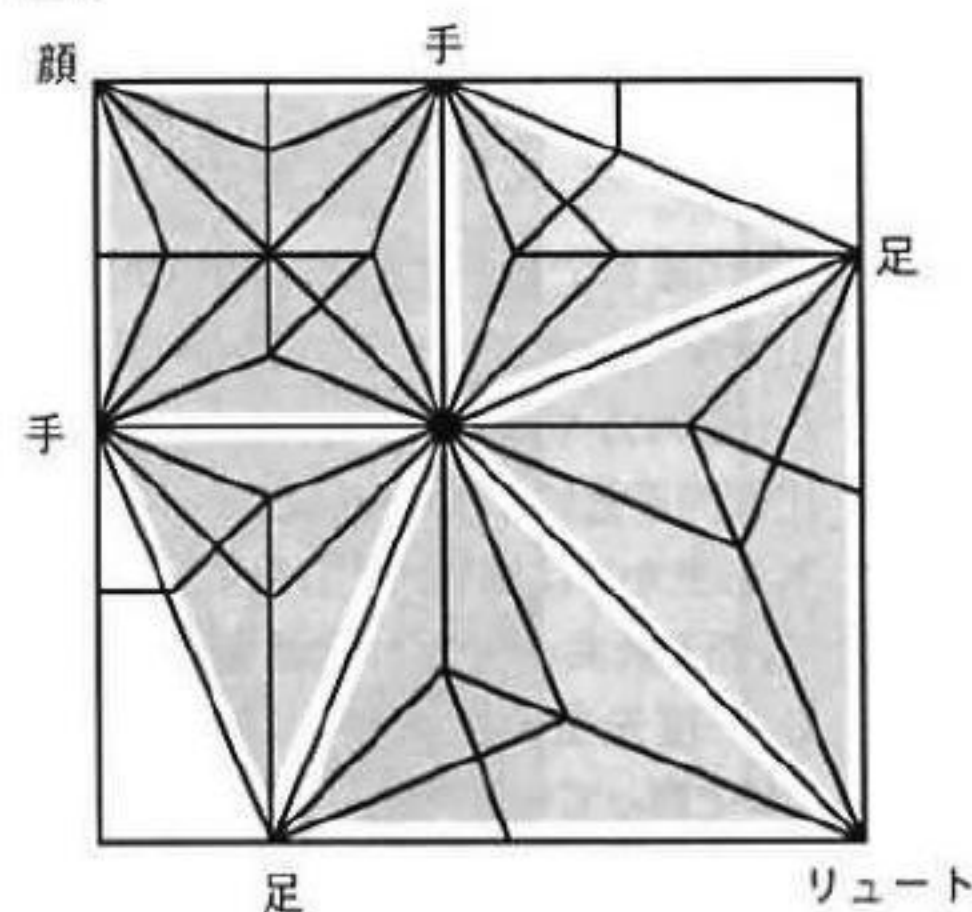
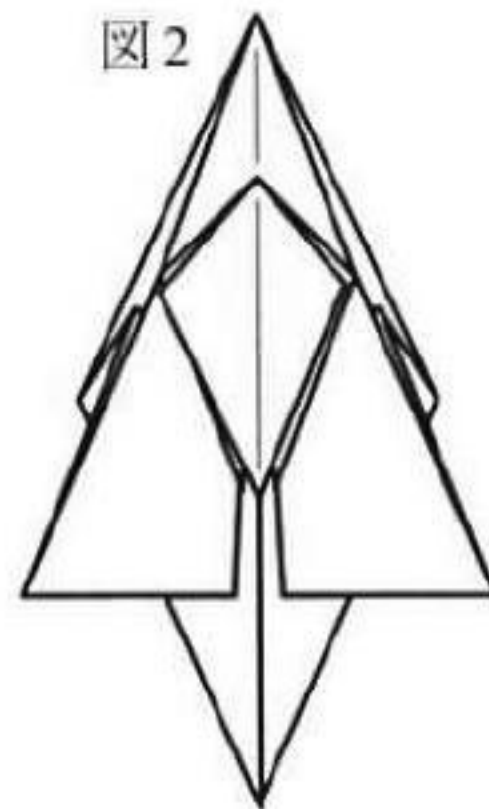


図2



○川畑文昭(かわはたふみあき)
1957年長野県生まれ。幼少の頃より折り紙に興味をもち、独学で創作折り紙をはじめ。折り紙探偵団には創設時より参画。主な創作分野は恐竜、昆虫、動物など。著書として恐竜のおりがみ(誠文堂新光社)、空想おりがみ(おりがみはうす)等。



おきまりの昔の写真シリーズ
“20年前” う〜ん若かった!

としては人物と楽器の複合折りが易しそうであるが、今回は不折正方形での挑戦を試みることにした。

さてどんなものができるのだろう。楽器の部分は技法で折るとして、それに人物としての手足、胴体、頭がつけばよいので、それを折る方法は色々ありそうである。例えば図1の展開図からは、図2の基本形を折ることができ、これで各部のパーツが揃う。楽器(リュート)については基本形から折る方法を図3のようにあらかじめ考えておく。これを使って折ってみた試作品が図4である。

これで一応「リュートを弾く少女」の完成ではあるが、ここで少し欲を出してしまった。翼を加えて、「リュートを弾く天使」にしてみようかと。この楽器の持っている古風でファンタジックな印象と天使という想像上の人物像のイメージが上手くマッチングしてくれればと思いながら、図1の展開図をベースに中央部に翼を付加で

きる部分を図5の様に埋め込んでみることにした。この埋め込み方法は最近では北條さんが折り紙探偵団59号で「暫」の解説でも説明していた手法であり、折り紙設計では一般的な手法とも言える。またこれにより、付随的に椅子の脚も折り出す事が可能となった。この展開図に沿って最終的に「リュートを弾く天使」を仕上げる事ができた。設計方法の詳細には今回触れなかったが、前川さん、目黒さん等の研究によってすでに体系化されている手法の応用であり、こういった技法をいかに創作に応用するかが今後创作者の手腕の一つでもあろう。

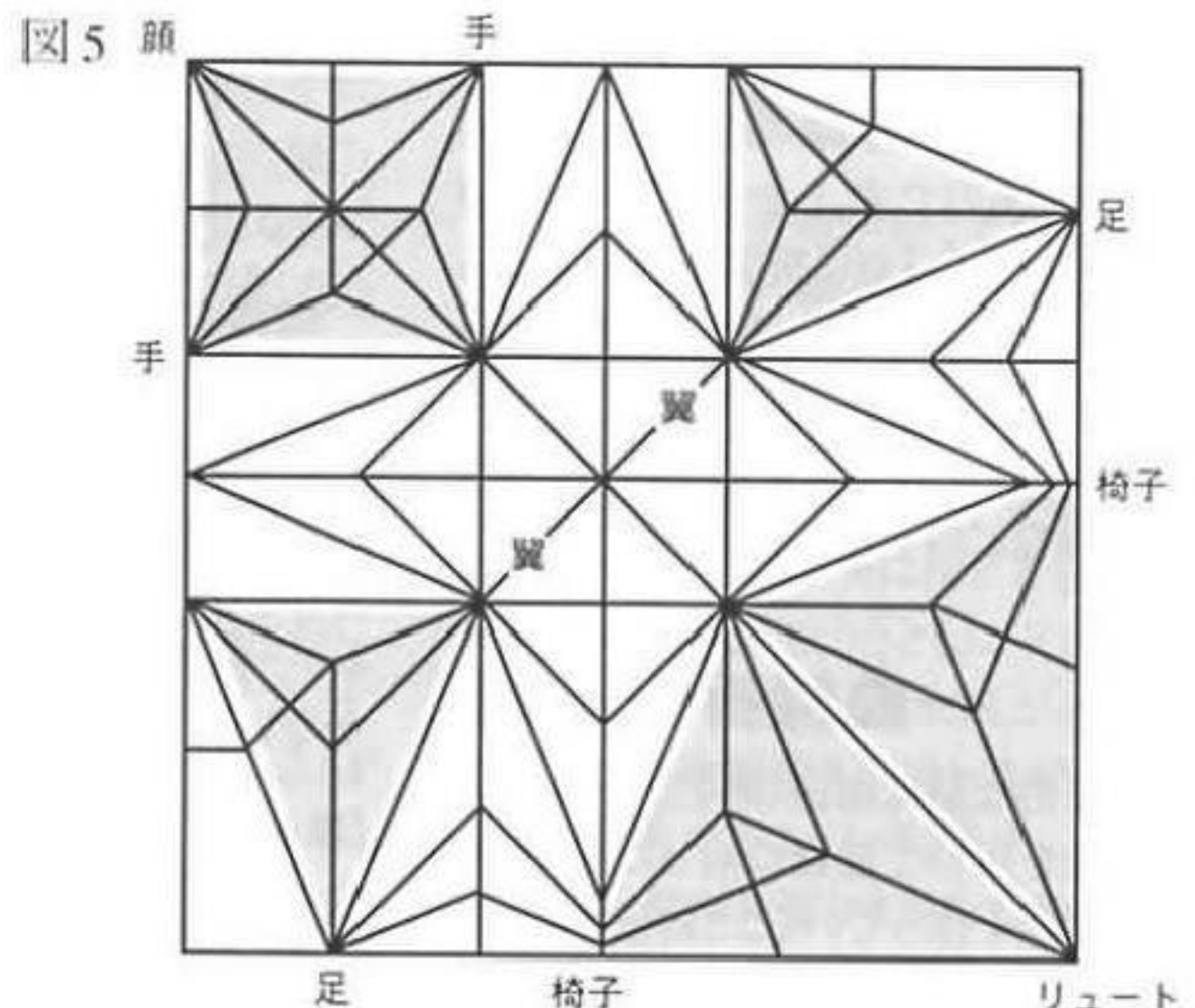
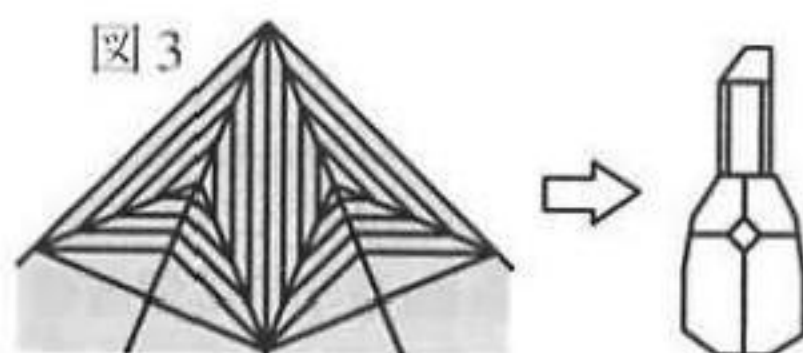
今回の例でもわかるように、私の創作の多くの場合は、骨格を組み上げるのに設計を、表現には試行錯誤的な技法を多く用いている。この創作法の善し悪しの議論はあるであろうが、一つの考えかたとして参考にいただければ幸いである。

【5】今後の展開

この作品については音楽仲間に一度見てもらおうかと考えている。どのような評価をしてもらえるか心配でもあるが、また楽しみでもある。また、楽器折り紙として、まだまだ色々挑戦してみたい分野も残されていることに気が付いた。例えば太鼓をたたく人(日本太鼓)とか、マリンバ演奏家(マリンバはどう折るか)、パイプオルガン奏者(ほとんど建物?)。こういう作品に挑戦してみるのもまた面白いのかもしれない。

【参考文献】

- 注1) 日本折紙協会「おりがみ」120号 (1985)
- 注2) 日本折紙協会「おりがみ」130号 (1986)
- 注3) 『THE COMPLETE BOOK OF ORIGAMI』(1988)
- 注4) 『折り紙探偵団第1回コンベンション折図集』(1995)





川崎敏和

Kawasaki Toshikazu

○川崎敏和=1955年11月26日生まれ。九州大学理学部数学科卒業。専門は代数的整数論。博士課程2年より研究テーマを折り紙の幾何学に変更。佐世保工業高等専門学校基礎専門科目助教授。



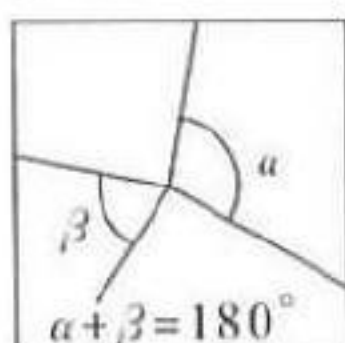
昭和30年代子供の写真

第2回 — 問題作り — Problem Setting

問題作り

と言っても、試験問題の作り方を説明するものではありません。数学者の仕事は未解決問題を解くことですが、その問題は誰が作るのでしょうか？物理学では自然が問題を与えてくれますが、数学では研究者自身が作ります。問題作りも数学者の重要な仕事です。

【図1】



数学業界では、問題は予想、解いた結果は命題、重要な命題は伏見の定理(図1)のように定理とよべます。

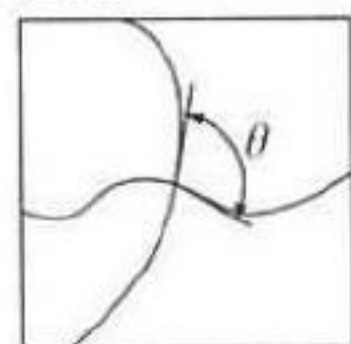
では問題作りを始めましょう。個々の作品を漠然と眺めていても何も思いつきません。的を絞ります。多くの折り紙作品は平坦に折り畳むという作業の繰り返しで作られます。伏見の定理は、作品そのものではなく、平坦に折るという行為に的を絞った結果得られたものです。しかも複雑な折り線構造ではなく、1点に折り線が4本集まるという最も単純なケースを取り扱っています。単純化は数学研究の常套手段ですが、ほかに抽象化、普遍化、例外の排除などの手法もよく用いられます。

一曲線折り

抽象的な話は面白くありません。前述の手法を用いて曲線に沿った折りに関する問題を作っていくことにします。

曲線に沿った折りは多種多様です。的を絞らなければなりません。伏見の定

【図2】



理をなんとなく真似すると、図2のようなものを研究することになります。折り線のなす角(接線のなす角)の大きさに関して何か規則性が見い出せないでしょうか？

残念ながら何も見つかりません。見つかるはずはありません。定理には適用範囲というものがあります。伏見の定理は平坦に折り畳むことについての命題です。曲線に沿った折りは立体的になるので、伏見の定理を真似してもうまくいかない訳です。

方法を変えます。もっとシンプルにしましょう。曲線の数を減らして1本にします(図3)。1つの曲線に沿って折ることを一曲線折りとよぶことにします。

【図3】

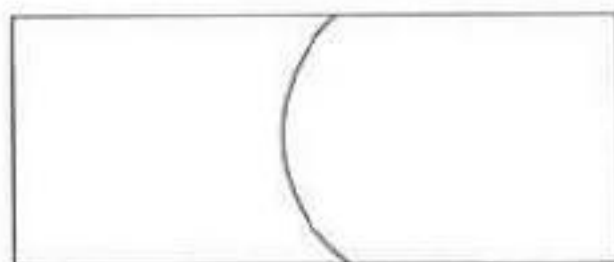
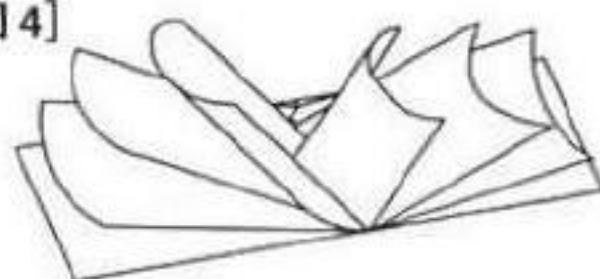


図3を折ると雨樋が交叉したような形になり、深く(面のなす角度を小さく)折ると樋が細くなります(図4)。「折る角度と樋の太さの関係を数式で表わせ。」という問題1はどうでしょう。しかしこれは、図4の一曲線折りにしか通用せず普遍性がないので面白くありません。

【図4】



直線折り

曲線折りで行き詰まったので、曲線を直線に代えます。1本の直線に沿った折り(一直線折り)には、谷折り(山折り)のほか折り目が開いた半開折りがあります。折る角度 θ を用いると、谷折りが $\theta = 180$ (度は省略)、山折りが $\theta = -180$ 、半開折りが $-180 < \theta < 180$ と整理できます(図5)。でも当り前の結果で面白くもなんともありません。単純化し過ぎたようです。

【図5】

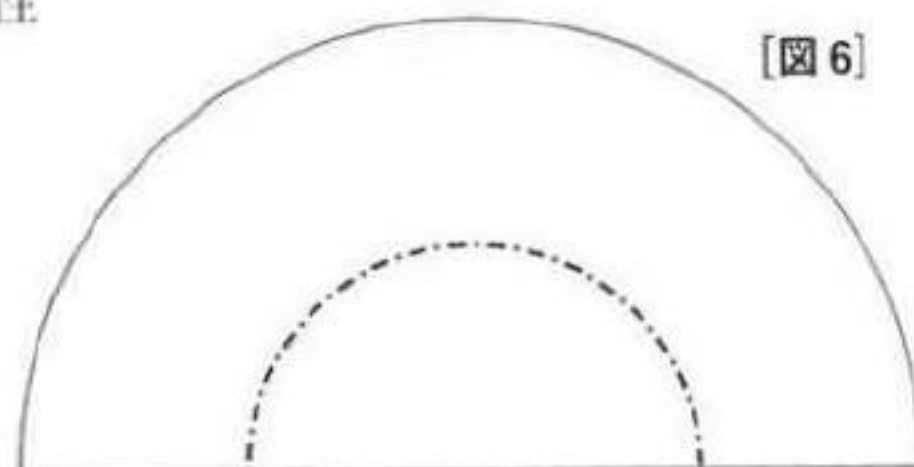


折る角度

曲線折りに戻します。直線と違って曲線には様々な形状があります。その中で最も馴染み深い曲線は円です。ところがぐると一周する円に沿って一曲線折りすることはできません。そこで問題2「輪になった曲線(数学では閉曲線という)に沿った一曲線折りは可能か？」

今回は問題作りがテーマなので解きません。円の次は円弧です。円弧に沿った曲線折り(図6)を観察します。折る角

【図6】



度を変化させると、図7～図9のように形状が変わります。また図7に捻り(ひねり)を加えると図10のようになります。しかし捻りを含めると、折り目を挟む面のなす角度が場所によって異なり($\beta < \alpha$)話がややこしくなります。捻りを入れなければ場所に依らず角度は一定で、折りが深くなる(この場合は山折りだから $\theta = 0$ から -180 に近づく)につれて、2重、3重と紙の重なりが増えていきます。しかし一直線折りの場合と違って、 θ は -180 になりません。つまり $-180 < \theta < 180$ です。一直線折りの $-180 \leq \theta \leq 180$ とたいして変わりません。これまた面白くありません。しかしここまでの結果を並べて

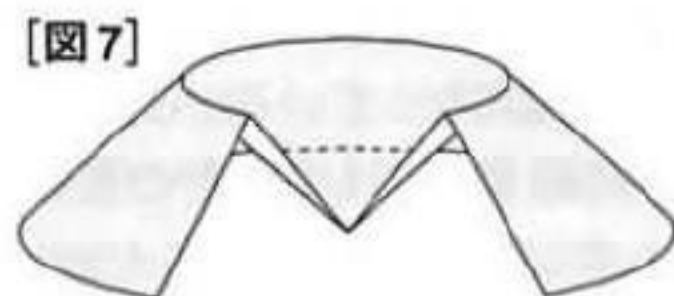
直線: $-180 \leq \theta \leq 180$

円弧: $-180 < \theta < 180$

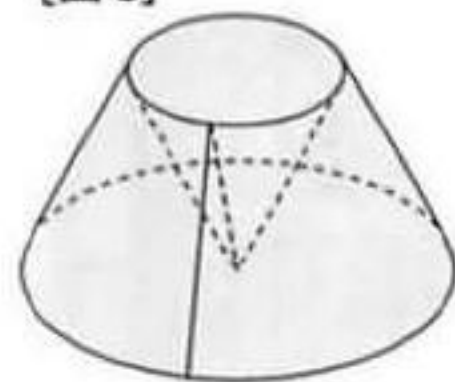
円: 折れない

と書くと、円が他と調和していないことに気づきます。数学は例外を嫌います。円: $\theta = 0$ とすべきです。円で折れないではなく、折り角が0の折りはできると解釈するのです。すると、 $[-90 < \theta < 120$ となるような曲線折りがあるのだろうか?]という問題3が生まれます。

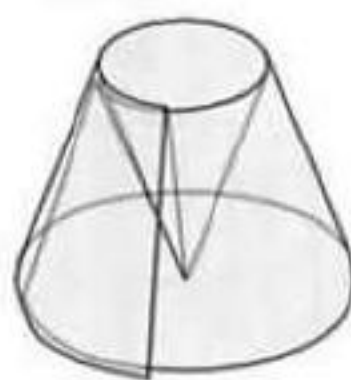
【図7】



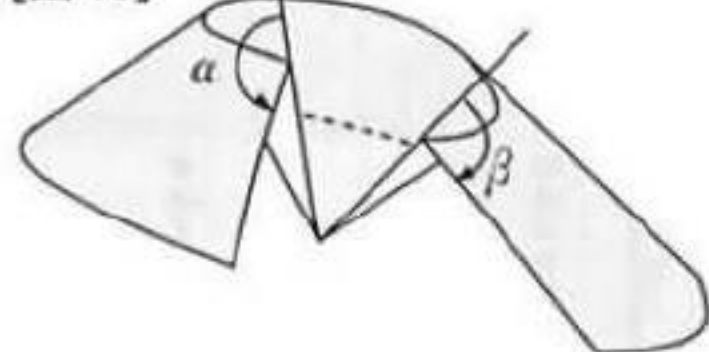
【図8】



【図9】



【図10】



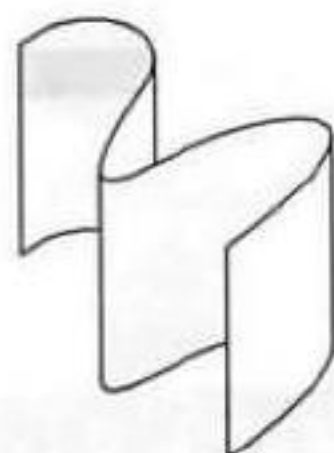
捻り

先程とばした捻りを考察しなければなりません。図10のように折りと捻りを混ぜたままでは本質が見えにくいので、折り

をはずします。図11は細長い紙を捻ったものですが、帯の幅が広くなると捻りにくくなります。対して曲げ(図12)は帯の幅に関係なく楽にできます。この違いはなぜ起こるのでしょうか。

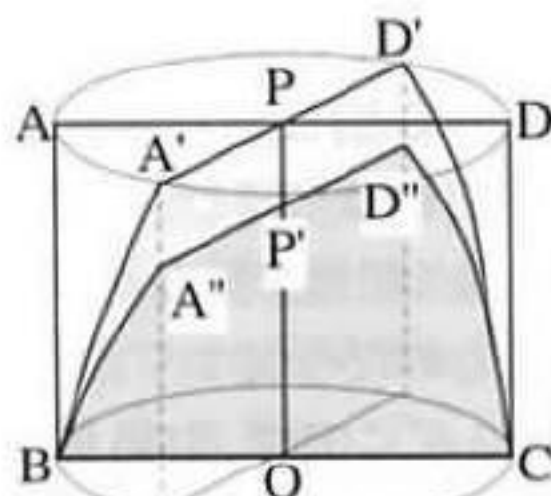


【図11】

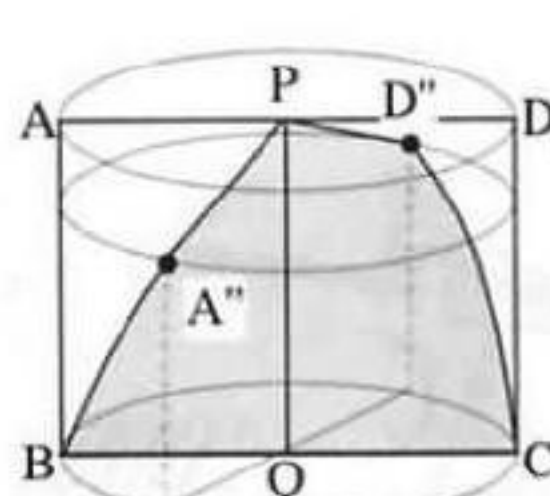


【図12】

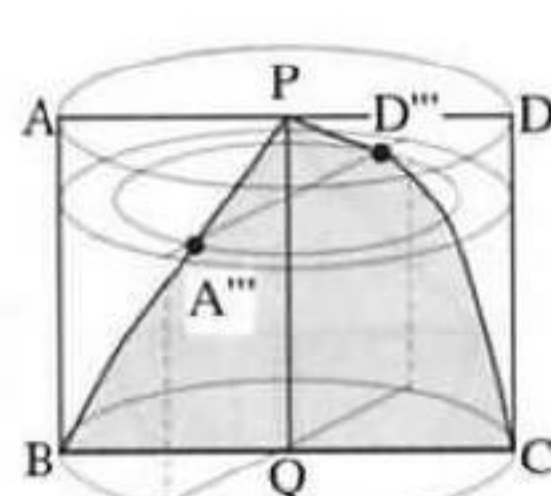
図13は図11の一部を拡大したものです。曲面 $A'B'CD'$ は長方形 $ABCD$ を捻ったもので、捻りにより辺 AD は辺 $A'D'$ に移ります。しかし B の真上にあった A が斜め上の位置 A' に移動しているため $AB < A'B'$ となります。この不等式は紙の伸びを意味します。折り紙では紙の伸縮は



【図13】



【図14】



【図15】

許されません。困りました。実際にやればわかりますが、捻ると帯は捻りの軸方向に縮みます。つまり A は A' ではなく A'' に移動します。斜めに移動して遠くなった分を高さを低くして補正するので $AB = A''B$ が保たれます。

ところが新たな問題が生じます。捻りの軸である PQ は捻りにより動かないので、 P は P' には移動しません。そのために図13ではなく図14のようになります。すると今度は $AP = A'P < A''P$ となって、辺 AP が伸びることになります。また矛盾です。矛盾を解消するには、伸びた $A''P$ を本来の長さに戻すために、図15のように円柱の内部に移動するしかありません。し

かしこれはできません。 $AD > A''D''$ となり、紙が縮むからです。また矛盾です。この矛盾はどうしようもありません。新たな A''' をとる場所が円柱表面、内部のどこにもないからです。まとめると、

命題1 曲線折りに現れる曲面を含め、紙が生み出す曲面は捻りの無いものつまり柱面(図12)と錐面(図7)に限られる。

この命題より、曲線折りは錐面+錐面(錐面折り(図7))、錐面+柱面、柱面+柱面(柱面折り(図4))の3種類しかないとわかります。

着実に成果が得られています。しかしこの記述は美しくありません。錐面+柱面の実例が欠けているからです。しかし実例を得るために図7の錐面の一方を柱面に変えようとしてもうまくいきません。そこで[一曲線折りで錐面+柱面は可能か?]という問題4が生まれます。



まとめ



特定の研究目標が無くても、的絞り、単純化、抽象化、例外排除などの手法を適用するだけで次々に問題ができていきます。良い問題ができれば(予想が正しければ)証明は案外やさしいもので、命題1も「帯の中央は捻っても動けないのに帯の縁は捻りとともに下がろうとする。だから無理に捻ると紙が破れる。つまり紙の伸縮抜きの捻りは幻想である。」と証明することもできます。

前回数学に寄りすぎたためか反響がなかったのが、今回はぐっと折り紙に近づけました。次回はこの続きです。

おりがみ庵

Origami-an : A Philological Survey of Origami

第2回

読み歩き

Okamura Masao

岡村 昌夫

『ヤサシクデキル ヲリガミトシュコウ』

調布幼稚園長細川武子編

国華堂書店発行、1940年

この本は折り図のレイアウトに特徴がある。当時のものとしては珍しく「現代的」で、各図を「帯」でつないで順序を分かり易くしている。縦または横にきちんと並べる形も残してはいるが、変化させたレイアウトが多く、それに慣れていない読者のためには「帯」が必要だったのだ。これは折り図史上の大発明だと思う

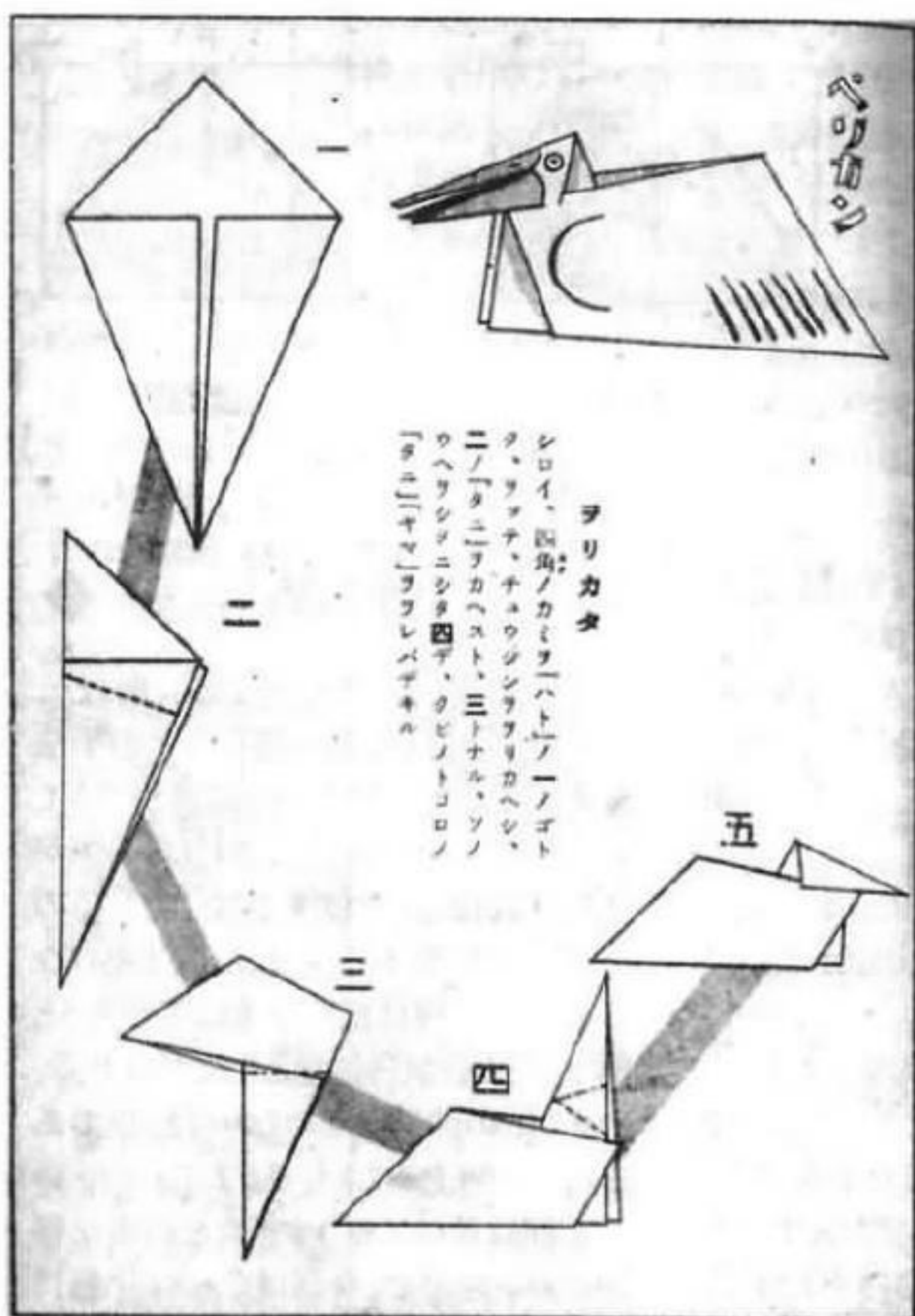
が、これより古い例を私は知らない。(図版1)

内容的には、いわゆる伝承作は少なく、次号に紹介予定の、「新おりがみ」の系統で、しかも中島種二著「折紙細工」(建設社、1936年)の作品とそっくりなものや少し変えてあるものが含まれている。「幼稚園長」の肩書きで堂々と出版しているところをみると、この程度の相似は当時としては全く問題ではなかったのだろう。

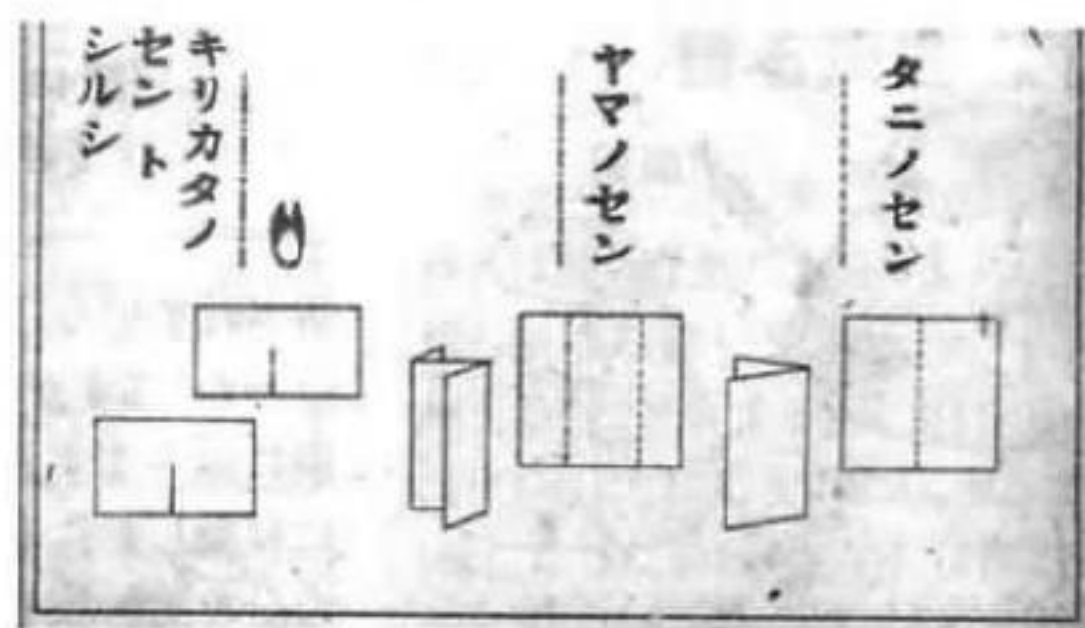
ここでは、中島種

二との「相似」の問題はおいて、他の「一致」について触れておきたい。

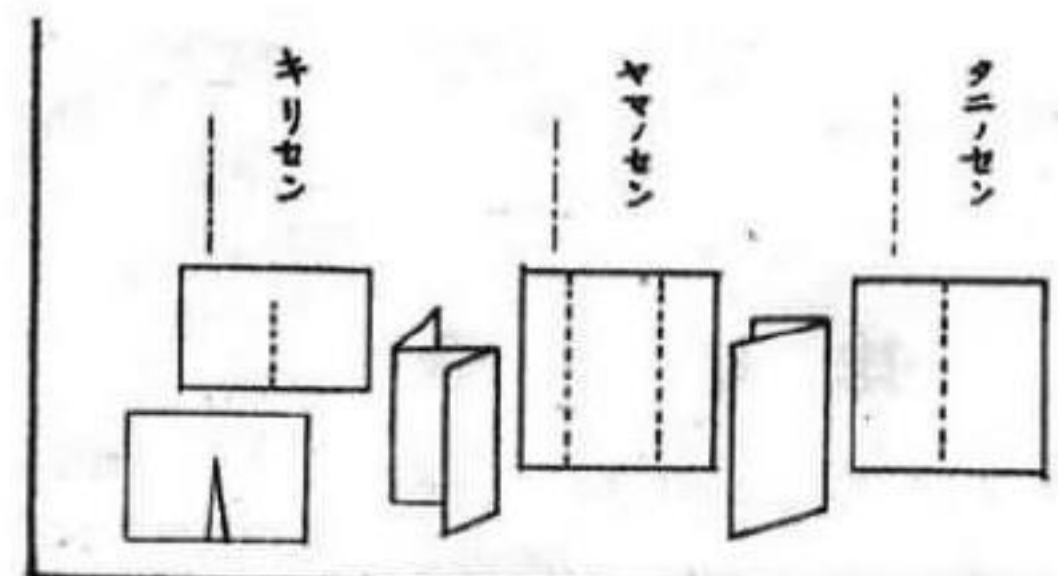
私の手元に2冊の、同じ編著者・発行者・発行所・発行年月日の本がある。岬いつも編著、国華堂日童社、1942年8月発行の『ヲリガミトシュコウ』と『ヲリガミ・シュコウノホン』の2冊で、作品は重複していないが、体裁も前書きや注意書きなども同じで、表紙の絵だけが異なっている。扉のカットも同じで、中島種二風の3点が描かれているが、このカットと本書の内容は無関係で、掲載作は伝承折り紙の範囲を出ていない。発行所は先の本の「国華堂書店」と同社と思われ、発行者は3冊とも「山崎敬三」で、住所が発行所と同番地になっているから、彼が社長で恐らく編集長でもあったのだろう。(次項の本も同じ発行者山崎だが、発



図版1 「細川武子編」より



図版2 「細川武子編」より



図版3 「岬いつも編」より

○岡村昌夫一九三四年東京生まれ。都立高校の国語教師を六年前に定年退職。折り紙以外の主な趣味は能・歌舞伎を観ること。



行所が違っている。)

さて、この岬いづも編著の2冊の本の「まへがき」と、「折り方で気をつけなくてはならないこと」と題する注意書きは、上記の幼稚園長編の本のものと全く同文であり、また巻頭の基礎折りや折り線などの説明図も酷似している(図版2と3)。いわば「額縁」に当たる部分が一致しているのだ。これは編著者が違っているにもかかわらず、同じ発行所・発行者だから問題無いというのであろう。しかし、全く同じページ(図版4と5)があるのはいくら何でもルール違反であろう。

ただし、以上3書とも全体的に内容は堅実で分かりやすく、むしろ良書の部類に属すると思う。ただ当時の本の作り方の実態が想像され、現代への問題提起も含まれているようで興味深い。

『オリガミキリガミ一百種』

岬出雲(いづも)編

日本図書出版社、1932年

この本は私にとって原点の一つとして非常に懐かしいものだが、前に書いたことがあるので(折紙探偵団新聞35号)内容紹介はそちらに譲りたい。

前項の件では、岬いづもが細川武子の著作を盗作したものというわけでもなさそうである。実は細川武子の本の当該部分は、本書の同部分と全く同文ではないものの、内容的にはほとんど同じであり、同じ図もあるのだ(図版6)。この「一致」をどう解釈すべきだろうか。発行者「山崎敬三」の関与を考えるのが自然ではなかろうか。

本書巻頭に「みなさんへ」「著者より」

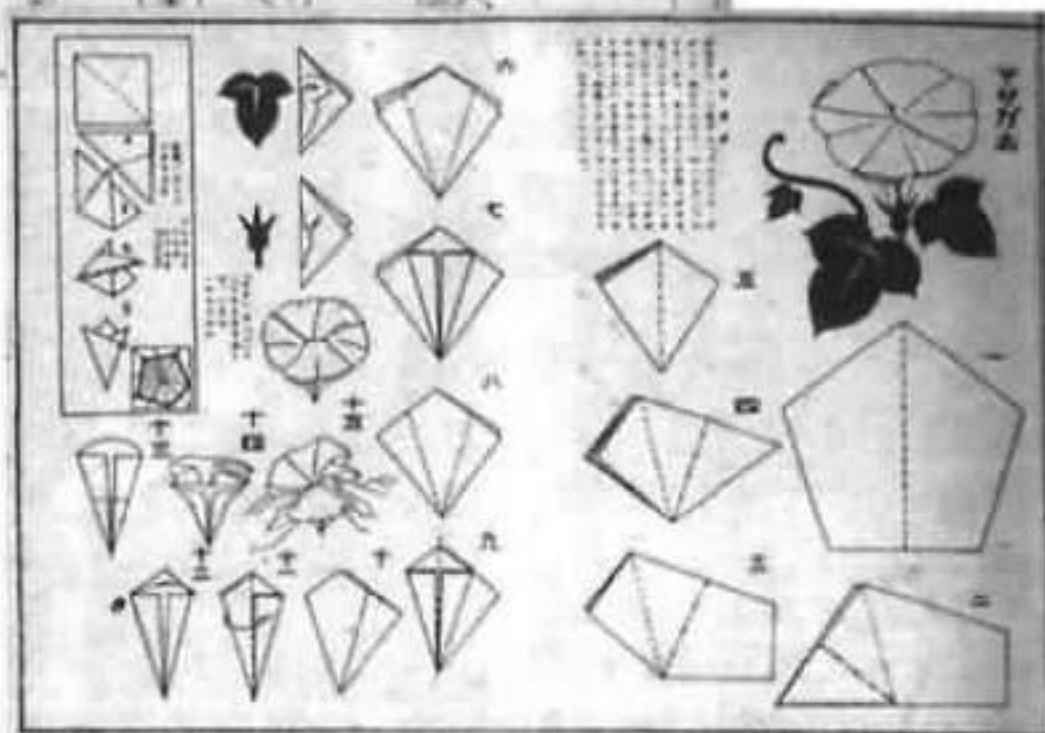
とした文章がある。「学校のおさらひが済んでから、サテ何をして遊ぼう。――兵隊ごっこは面白い、野球もよからう。又少女の皆様は――手毬つき、縄とび、」これを見ると、この著者は男性らしく思われる。奥付には「岬いづも」とあって女性風だが、扉には「岬出雲」とあって男性名のようにもある。どうも女性名めかしたペンネームと思わせるふしがある。他に資料を持たず、調べてもいないので、全く憶測に過ぎないが、「岬いづも」は「山崎敬三」の別名であってもおかしくはない。「三」と「崎」で「岬」なのではあるまいか。もしそうだとすると、上記の複雑な状況もかなりすっきりと理解できるのではないか。

なお、山崎は同時に2冊ずつ同じような本を発行していて、ここであげた3種ともそれぞれ兄弟版があった。

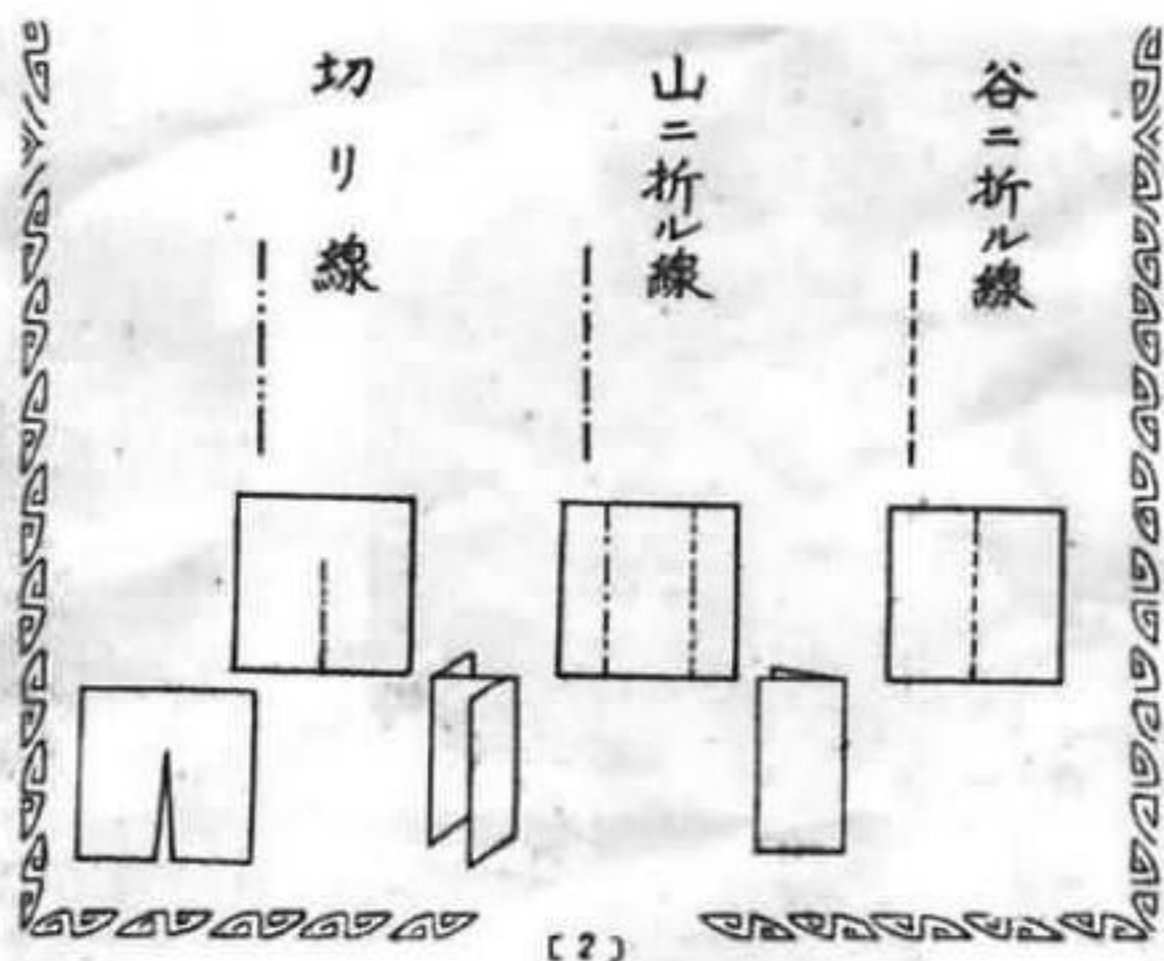
図版4
「細川武子編」より



図版5
「岬いづも編」より



図版6 「岬出雲編」より



前川 淳の 新折紙散歩

食べられる 折り紙

— Edible Origami —

第2回

前号の写真のキャプションで、折鶴健吾くんの吾の字を間違っていました。すみません。



筆者紹介＝東京生まれ。折り紙創作・研究家。折鶴モノコレクター。「一足めのわらじ」は科学技術計算。阪神タイガースの熱狂的なファン。

There are some origami works we can eat.
The most interesting of them is a crane-shaped soup ingredient manufactured by Orizuru Shokuhin Corporation.

海苔、シュウマイ、菓子

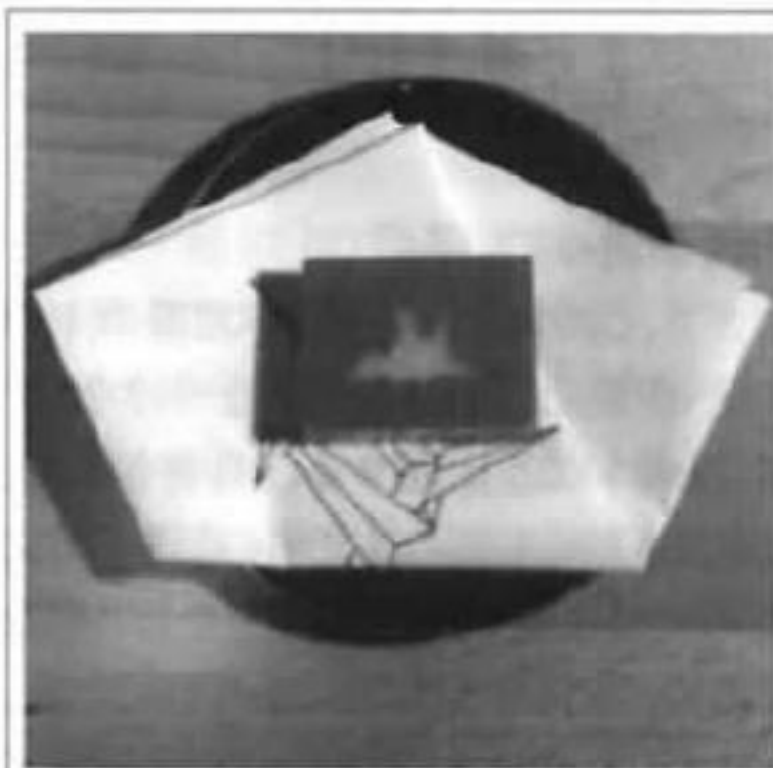
手元にある折り紙用紙のパッケージ裏面に、こう書いてある。

「おりがみや袋などは、食べ物ではありません。口の中に絶対に入れないでください。」

ヤギに向けての注意書きではなさそうだ。彼らは字が読めない。そのあとには、「窒息の危険があります」と続いている。そのような事故もないとは限らないだろうが、練りワサビの注意書きに「歯を磨くのに使わないで下さい」と書いてあるのを見たような気分だ。…いや、こんな話をしようとしていたのではない。今回は、実際の食品の話である。

佐野洋さんの小説に、海苔で折鶴を折る話がある。焼海苔は、湿らせるとかなりの細工が利き、折鶴ぐらゐは簡単に折れる。これを油で揚げると、鶴の天麩羅の出来上がりだ。小説の中では、この鶴に毒が盛られていたりするのだが、これはじっさいに可能な技で、わたしも試してみたことがある。

「薄いシート状のもの」と言えば、「餃子は折り紙の一種である」との主張も可能かもしれない。「いや、あれは円形のシートを使うので…」という正方形こだわり派(注)のひとつには、ワンタン、シュウマイ、春巻の皮ならどうだろう。シュウマイと、「折り紙のチューリップの花」の違いはどこにあるか？ 折り目が曖昧かどうかと、中身が詰まっているか否か、



ふく鶴
"Fukutsuru" (Lucky crane)
One of Japanese sweets

美味いか不味いかである。

菓子の世界にも折り紙関連食品がいくつかある。折鶴や熨斗をかたどった落雁や、パッケージに折り紙の技法を使ったものなどだが、中では、鶴屋吉信(本店:京都)の「ふく鶴」が面白い。技法的には折り紙と関係がないが、金太郎飴的にどこを切っても折鶴のかたちが現われる羊羹である。正月期の期間限定品(注文すれば期間外でもつくってくれる)だが、同店は各地のデパートに販売店を出しているの、手に入れるのはそう難しくないはずだ。また、新宿・追い分けだんご本舗の菓子「折鶴」のパッケージも、「折鶴であって折鶴でない」という、味のあるものだった。「だった」というのは、最近見かけないからで、製造を中止してしまったのかもしれない。

折鶴入リスープ

食べられる折り紙の真打ちは、前号で触れた大阪の「折鶴食品」である。前号で書いたように折鶴という名字はきわめて珍しいが、屋号に折鶴を使っている会社や商店は少なくない。飲食店に多いので、それもまた「食べられる折鶴」と言え

る。それらの命名の由来には様々なものがあるようだが、「折鶴食品」がなぜ折鶴なのかというと、これは単純明解、「食品としての折鶴」を製造しているからである。「食品としての折鶴」とは何か？ それは、宴席のスープなどで使う、折鶴の

折紙辞典

【正方形こだわり派】

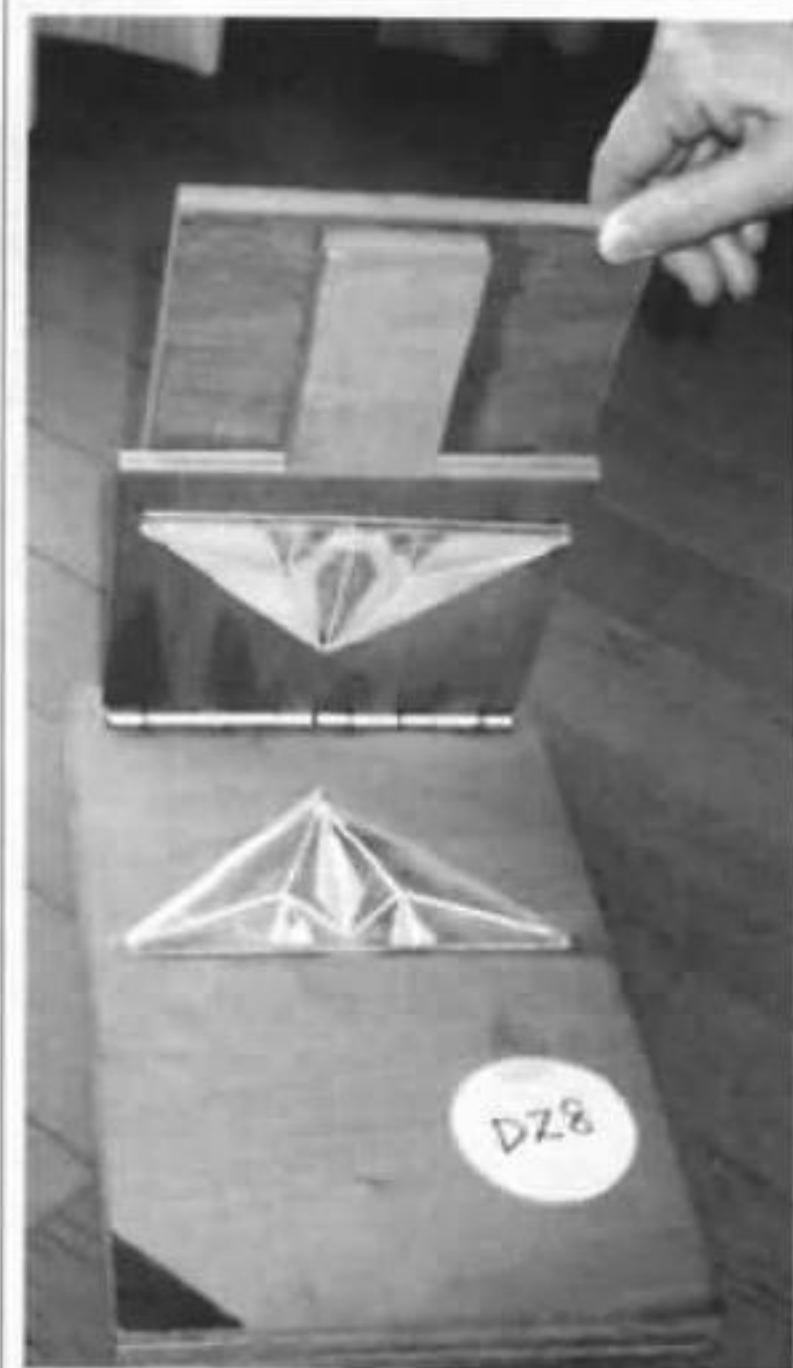
せいほうけいこだわりは 名詞

正方形の用紙から折ったもの以外は折り紙と認めたくないひとびと。「切り込みを入れずに」という条件が加わった「不切正方形一枚折り派」とほぼ重なり、「純粹折り紙派」とも呼ばれる。この一派は、日常生活でも正方形に近いかたちを好み、四畳半に住み、ワイドTVが嫌いで、マージャン卓が好き、という説はデマである。

【ユニット折り紙】 ゆにとおりがみ 名詞

複数のパーツを組み合わせて、主に幾何学的な立体を構成する折り紙の一分野。開祖・蘭部光伸氏と、伝道師・笠原邦彦氏は男性だが、その後の有力者は、布施知子、橋高美保子、川村みゆき各氏と、なぜか女性が多い。女性のほうが忍耐強いからなどの説があるが、本辞典編集室では「たまたまじゃないの」という説を支持する。なお、「折紙辞典第一版」(95年)によると、ユニット折り紙は、「内職」と同様のもので、「裸電球の下、こめかみに膏薬を貼り、乳飲み児を背負って励むと一層効果的」とされている。

ときの料理は、むろん、折鶴入りのスープ、デザートは「ふく鶴」である。



折り目プレス器
An embossing tool to make crease patterns

れないように仕上がった。本物の折鶴に比べて、工程もずっと簡単である。近藤さんは、この方法の製法特許を取り、それを主力商品にして「折鶴食品」を創業した。10年前のことである。そんな会社が、世にも稀なる名字である「折鶴秀隆さん」の家の目と鼻の先にあったのだ。偶然とは本当に面白い。

近藤さんは折鶴が好きである。スープの具の他にも、折鶴折り目の天麩羅敷紙などもつくっている。「こちらは趣味です」と言いながら、熱を加えると硬化する「セラミカル」という樹脂でつくった折鶴のモビール、独自の連鶴(繋ぎ折鶴)なども見せてくれた。興味深いのは、それらの折り目のほとんどを、型押しでつけていることだ。山折りと谷折りの折り目を、プレスでつけるのである。折り目を工程ではなく展開図でとらえる「設計折り紙」と同じ発想だ。何百、何千というパーツを必要とするユニット折り紙(注)製作者には、「ユニットの折り目をつけるプレス器をつくって欲しい!」というひとがいるかもしれない。

さて、我が自慢の折鶴コレクションの中には、紙および樹脂でできた折鶴型の盛りつけ用材、折鶴模様の皿、茶碗、徳利、箸、ランチョンマット、折鶴をかたどった小鉢、醤油差、箸置きなどがある。それらを食卓に大集合させた光景を考えると、オメデタ過ぎるというか、我ながら苦笑せざるをえず、試したこともないが、いずれやってみたいとは思っている。その



「折鶴食品」の表札
The nameplate of "Orizuru Shokuhin"
「折鶴食品」電話&FAX:06-6685-0578

かたちをした具材である。まさに食べられる折鶴。このようなものが商品化されていたのだ。いやあ、知らなかった、驚いた。材料はワントンの皮と同じもので、5cmほどの大きさ、頭に朱がついている。

実は、わたしもワントンの皮で折鶴を折ったことがある。なんとかかたちになり、背中が破裂しないように注意して油で揚げると、洒落た付け合わせにもなるが、かなり薄い皮を使っても、重なりが多くなる部分はうまく折れない。また、揚げるといった処理をせずにスープ等に入れると、べろんと一枚の皮に戻ってしまう。折鶴食品の社長・近藤謹逸(きんいつ)さんも実際に折ってみてそうだったのだろう。これらの問題を解決するため、皮を多角形にくりぬき、ある種の糊を使ってまとめるという方法を採用した。これで、きれいに折鶴のかたちができ、かたちもくず



折鶴型スープの具とその抜き型
Crane-shaped soup ingredients and a pattern maker for them

■いよいよ夏本番、今回の色紙百花はブーゲンビレアです。熱帯原産の鮮やかな色には、だるさも吹き飛ばすようなエネルギーがあふれています。花と葉の質感の違い、一枚一枚の葉の色の微妙な変化と配置など、制作の参考になる注目ポイントも盛りだくさんです。

■びっくり箱は前回にひきつづき、パーツを組み合わせるユニット形式の多角形箱です。気がつくといつのまにか大量生産してしまっている、あとひき折り紙の魅力に浸ってみてはいかがでしょうか。

■小松氏の「うさぎ」からは、最近の作者の基本方針である「展開図的構造と最終完成形をより融合する」というテーマへの真摯な取り組みが感じられます。かわいらしい小動物の中に、作者の意気込みをイメージさせる緻密な構造が組み込まれています。

■7月6日放映の「TVチャンピオン 全国折紙王選手権」はご覧になりましたか？熾烈なバトルを経て生み出された数多くの作品のなかから、見事折紙王に輝いた神谷氏の人物造形を紹介します。正面からも側面からもじっくりお楽しみください。



「ブーゲンビレア」作:田中具子(P.8)

Bougainvillea : Tanaka Tomoko (P.8)

■色紙は平面のイメージが強い分野ですが、この作品では花びらや葉の重なりを積極的に構成することによって空間感を増し、さらに夏の花にふさわしい透明感が表現されています。



「八角箱22.5」

作:布施知子(P.4)

Octagonal Box 22.5
: Fuse Tomoko (P.4)

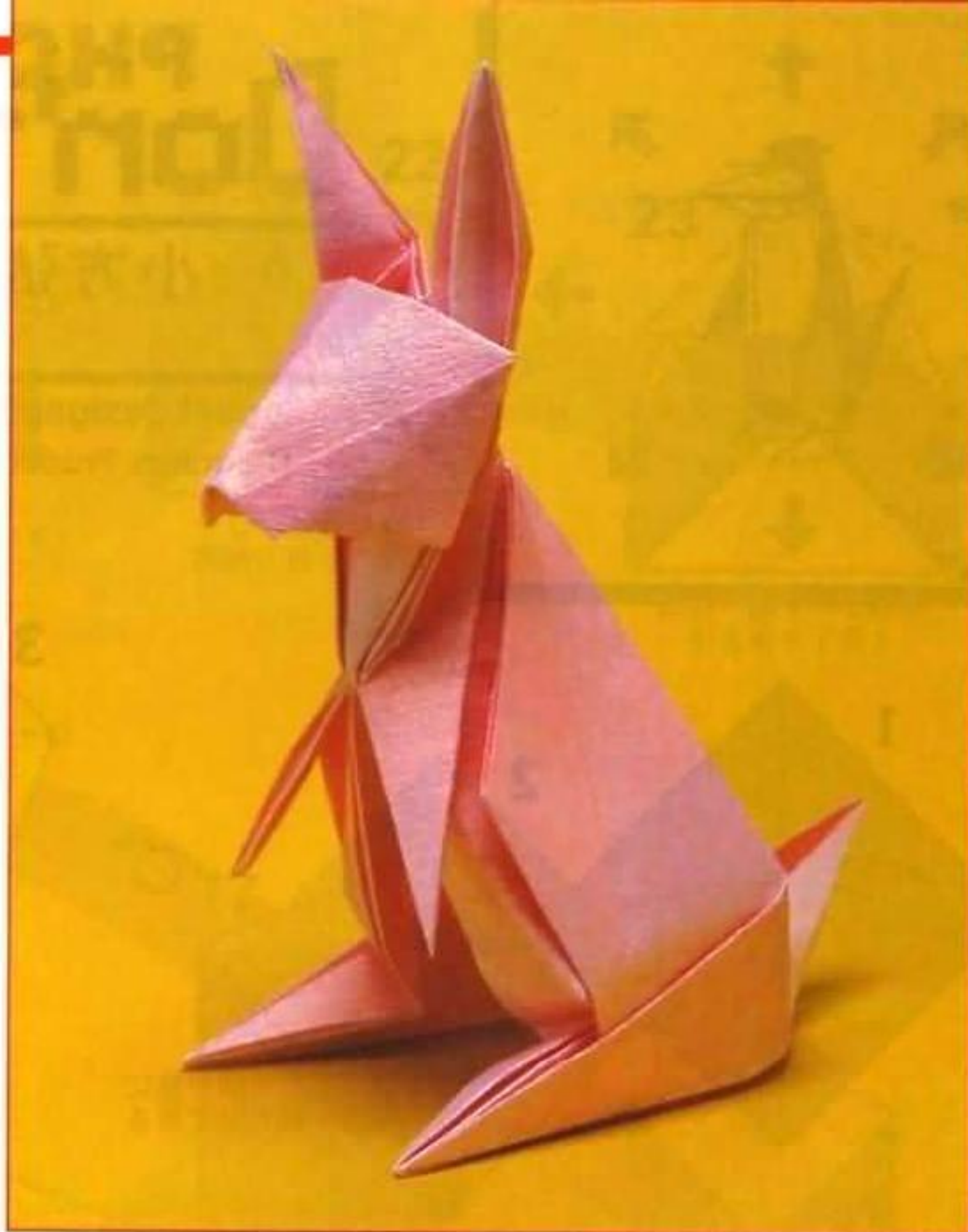
■単色の紙で折って配色や折り線の小気味よい構成を楽しむのもよし、模様やエンボスのある紙で全く異なる印象につくってみるのもよし。花びら部分にできる微かな陰影も魅力的です。

「うさぎ」

作:小松英夫 (P.34)

Rabbit : Komatsu Hideo (P.34)

■「直角の等分」を単位とするきっちりとした折り線構造、なのにそれを一瞬忘れてしまいそうな柔らかさを感じさせる作風。用紙の弾力が生かされ、自然な曲面が表現されています。



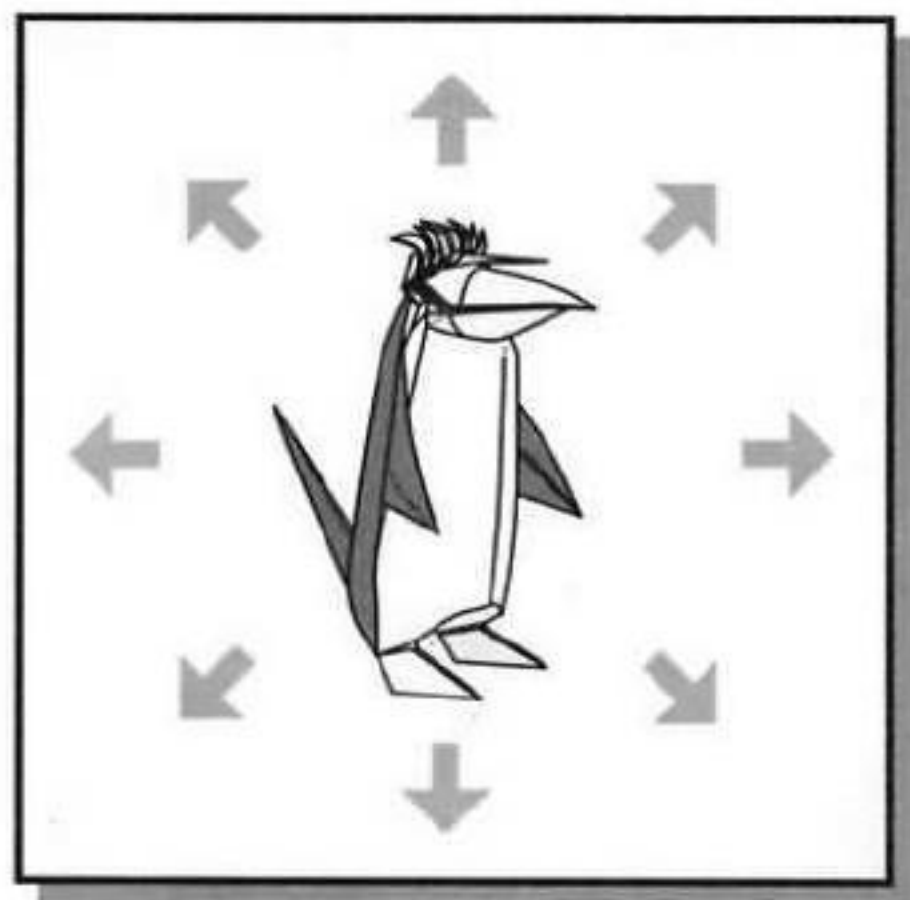
「採火式」

作:神谷哲史 (P.36)

Olympic Flame Lighting Ceremony
: Kamiya Satoshi (P.36)

■オリンピックをテーマとして、10時間に及ぶ折り紙王決勝戦で制作されたディオラマです。手間のかかる蛇腹折りをふんだんに盛り込んだ基本構造から、カドの折り出しとスカートのプリーツ表現が同時に導き出されています。





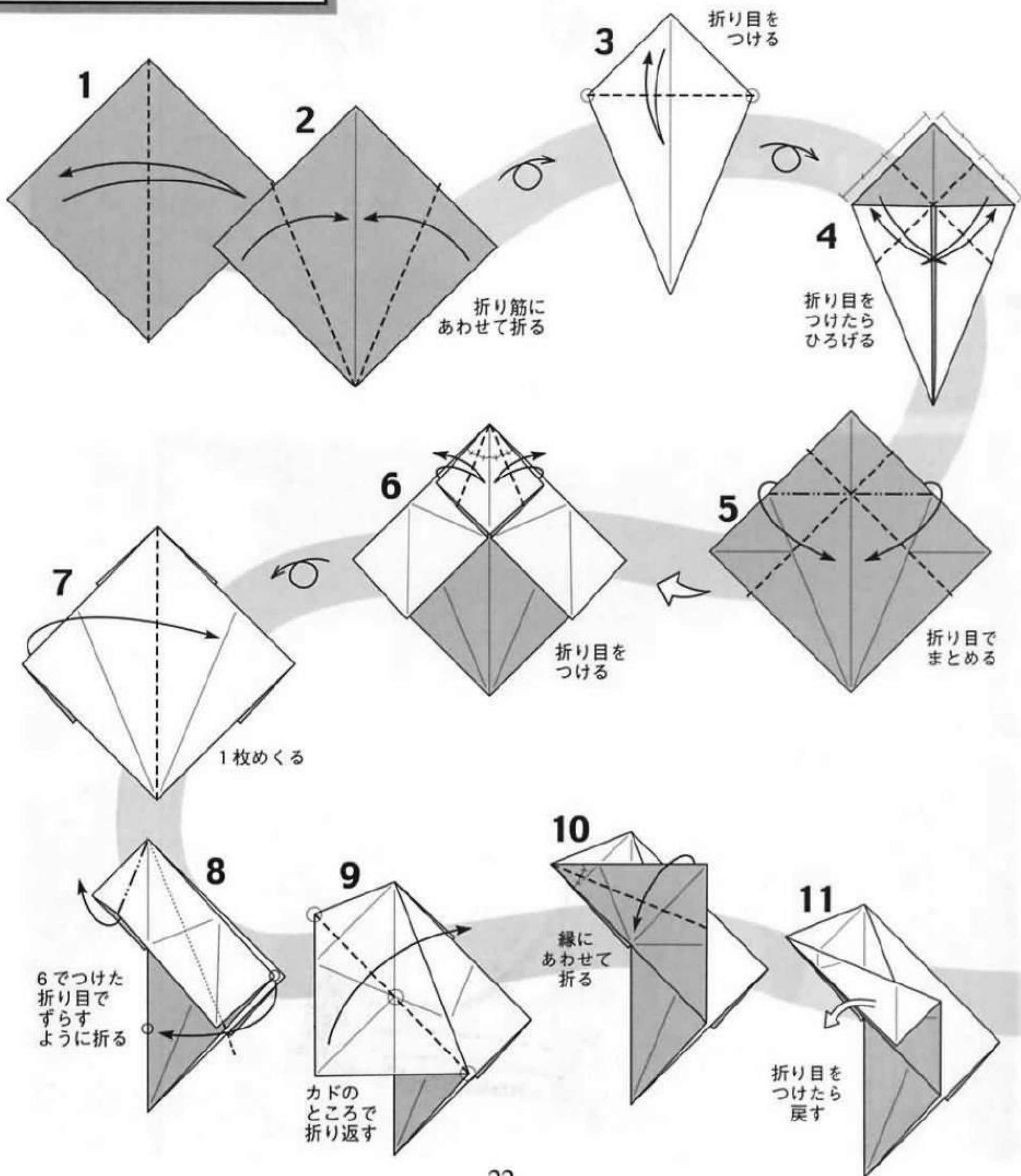
Don't Freeze

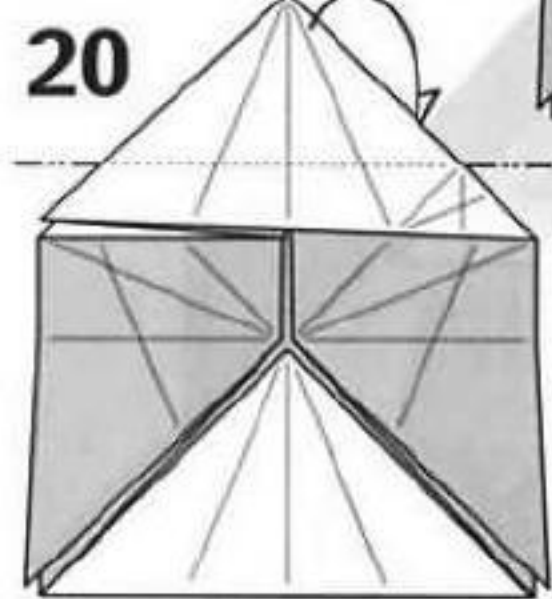
作/小方弘巳

折り図/小松英夫

Model designed by Ogata Hiromi 1997

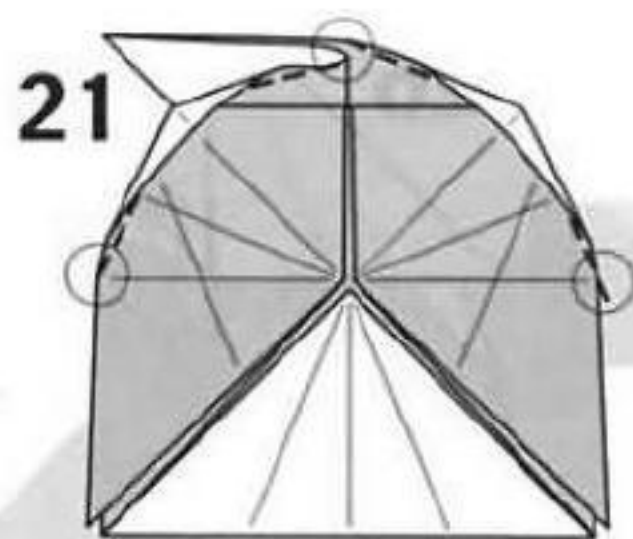
Diagrams Produced by Komatsu Hideo 2000





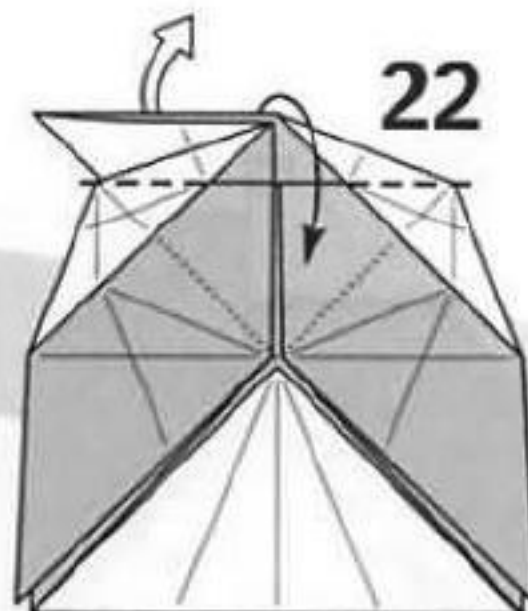
20

ついている折り目で
うしろに折る



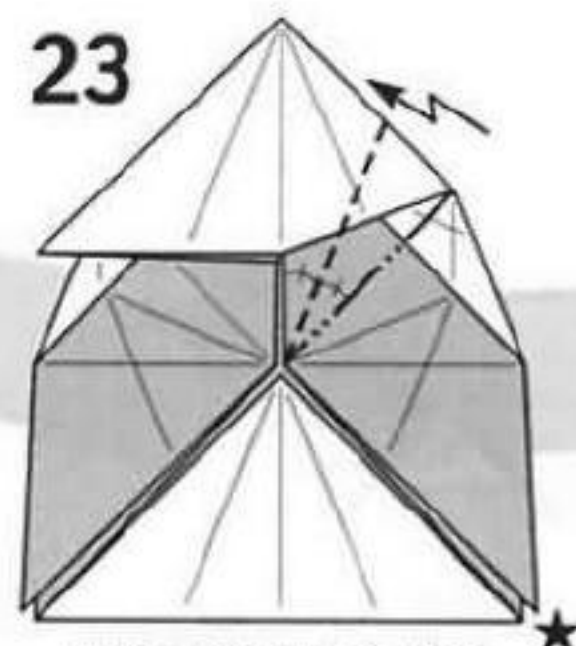
21

持ち上がった
ところを折りつぶす



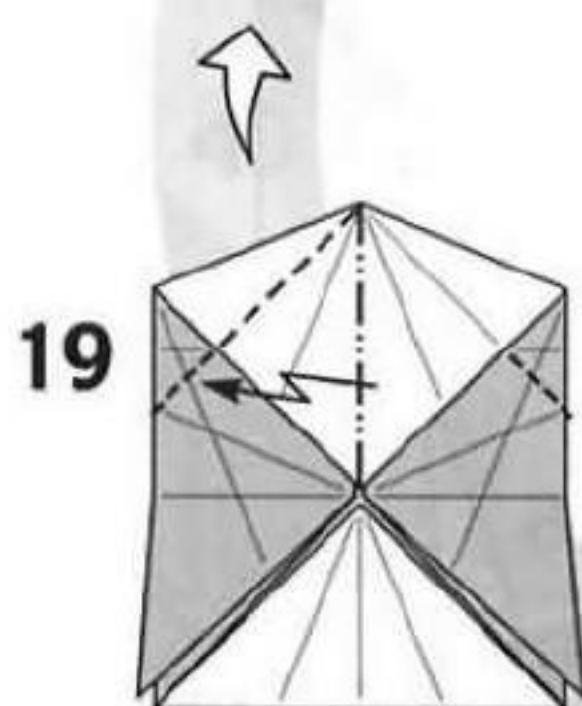
22

うしろのカドが
同時に持ち上がる



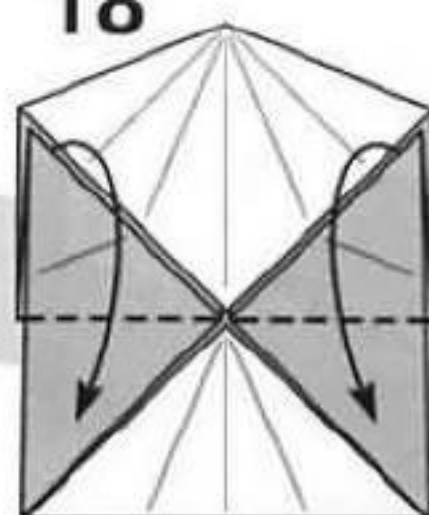
23

山折り線を中心線に
引き寄せて折る

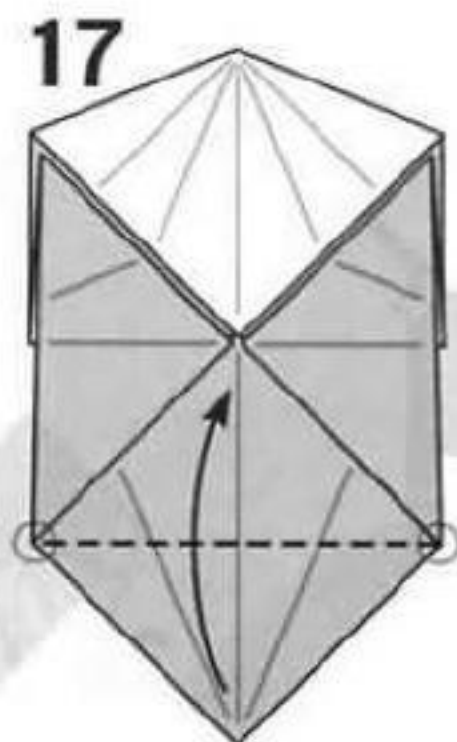


19

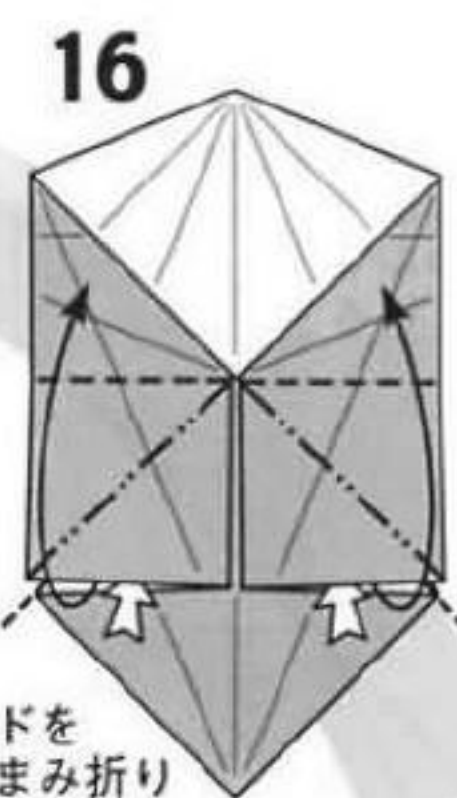
次の図のように
折り変える



18

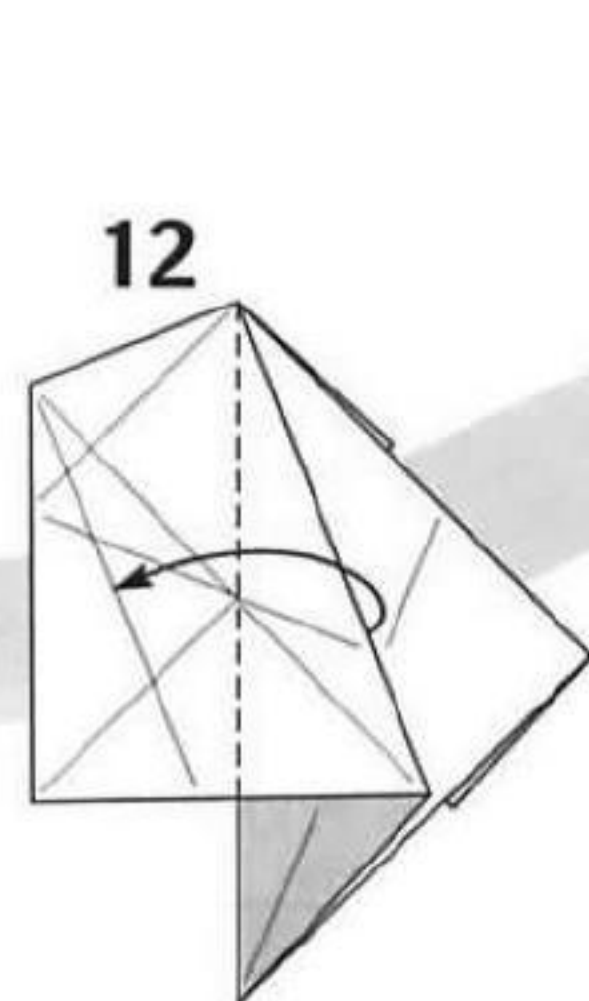


17

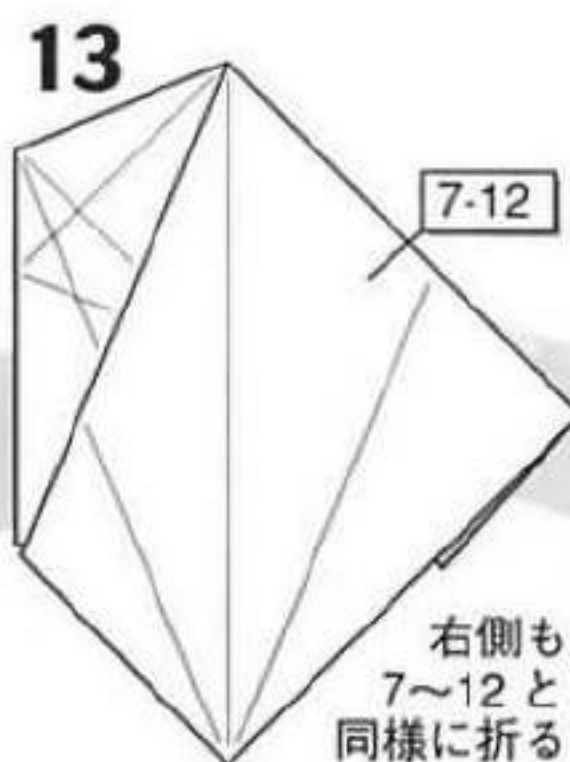


16

カドを
つまみ折り



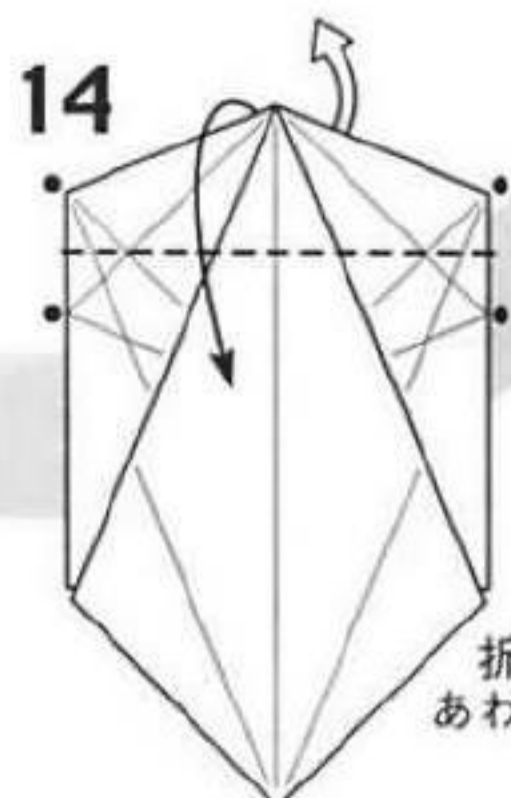
12



13

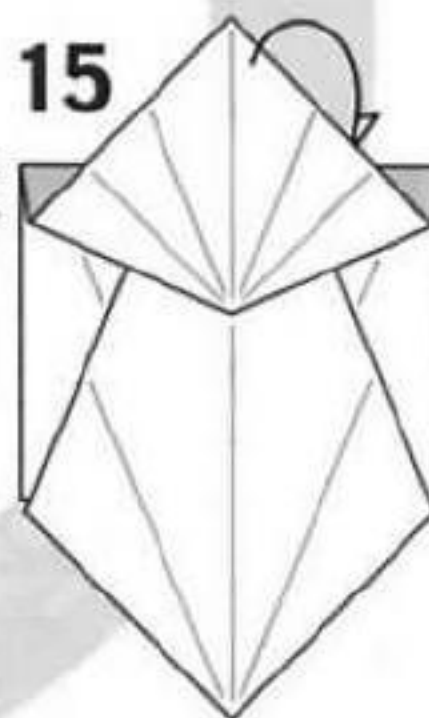
7-12

右側も
7~12と
同様に折る



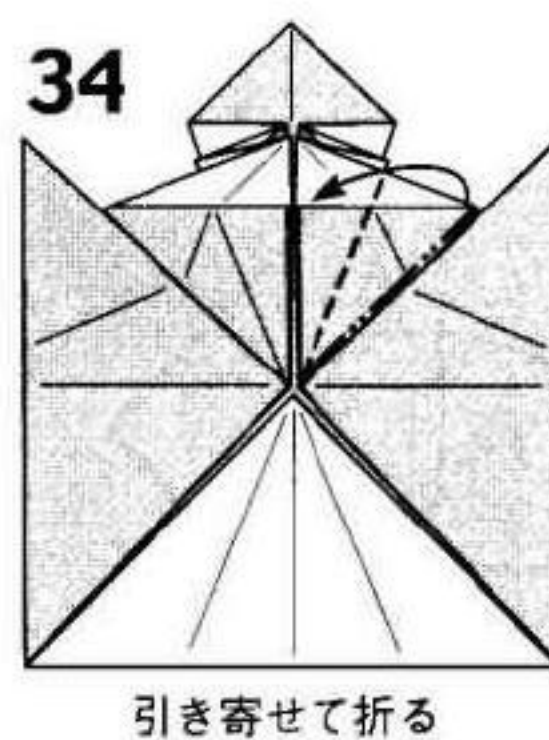
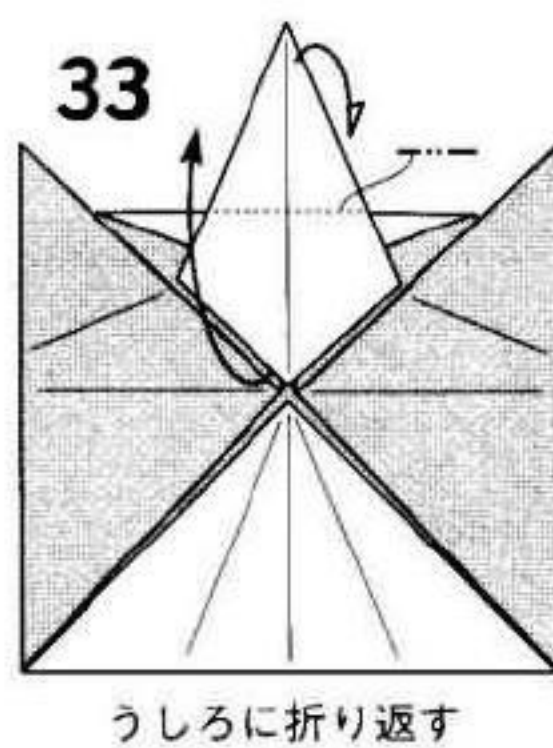
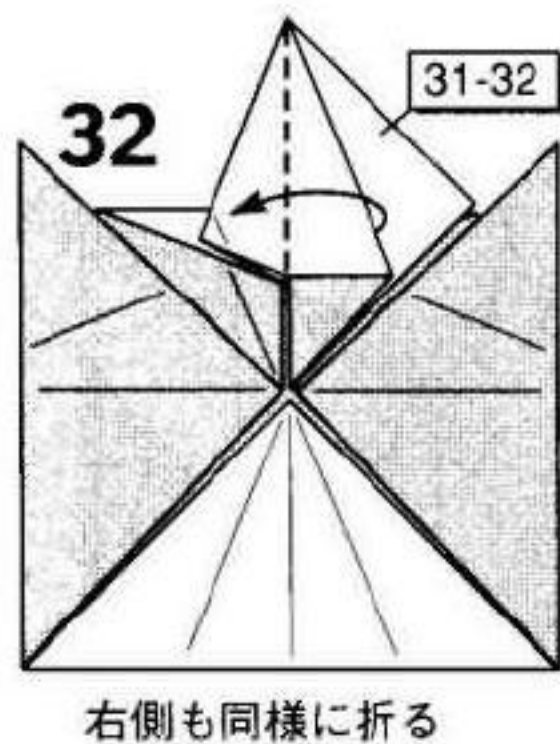
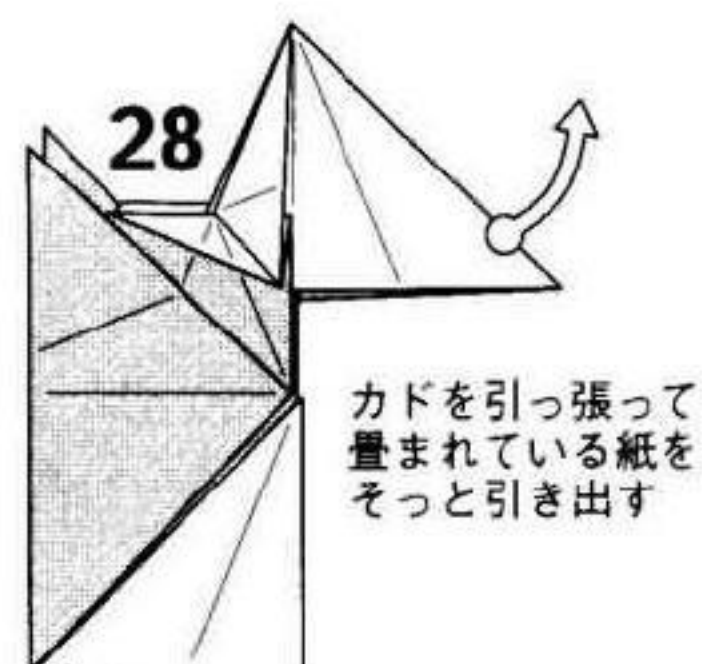
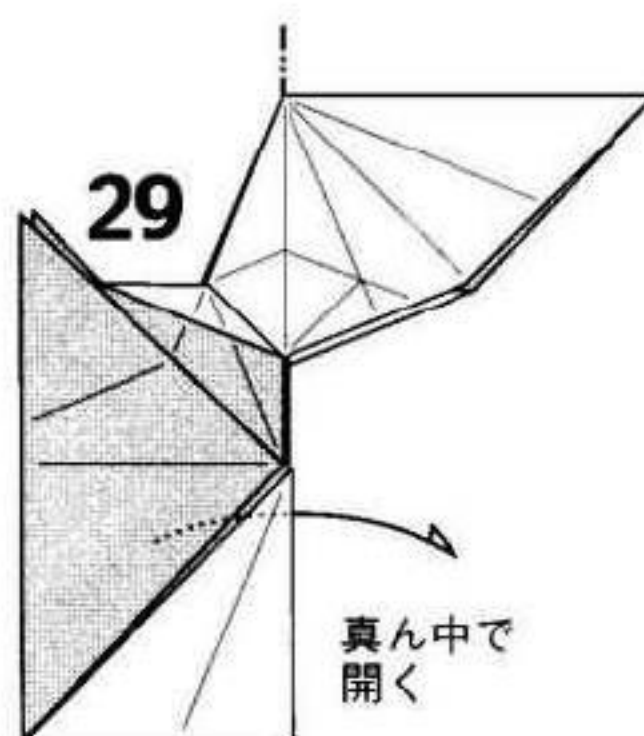
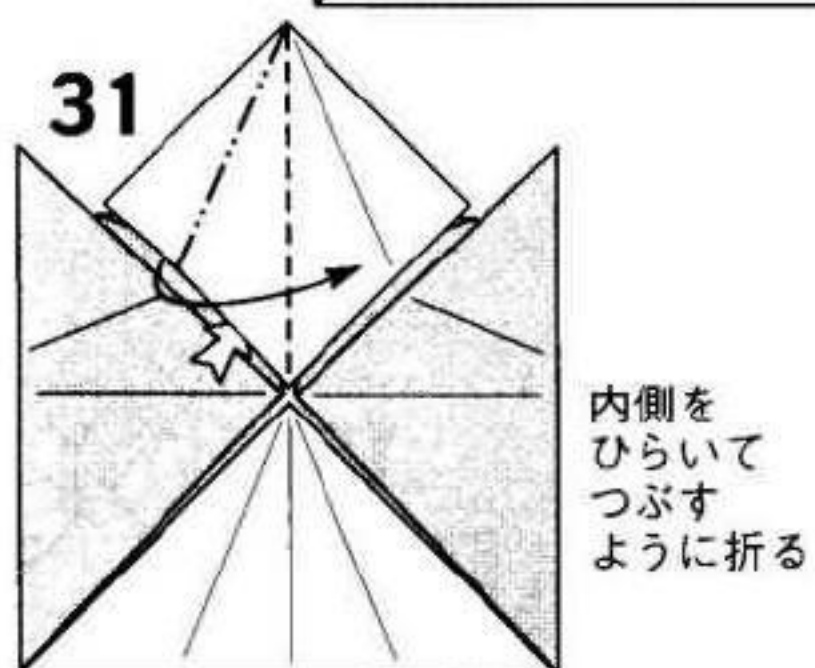
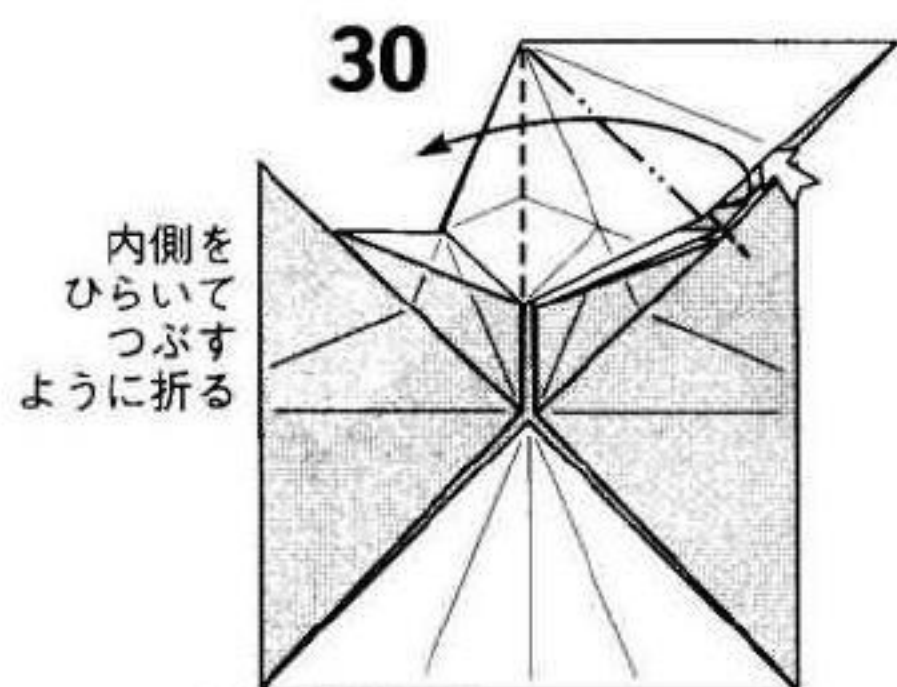
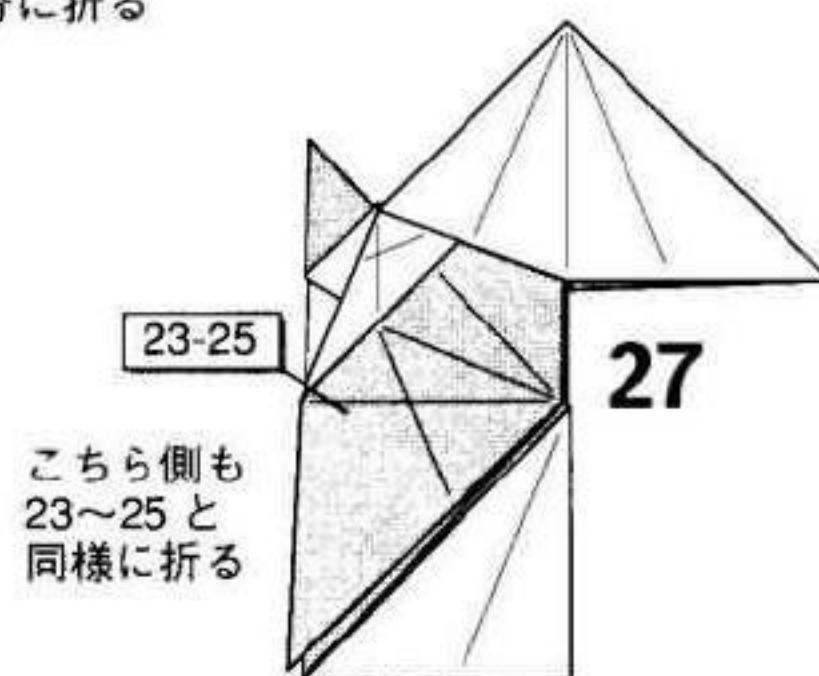
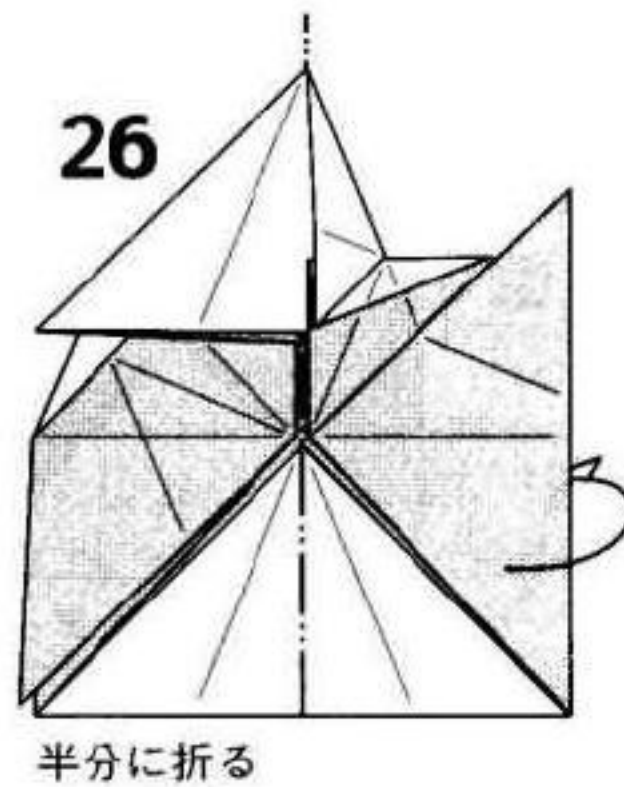
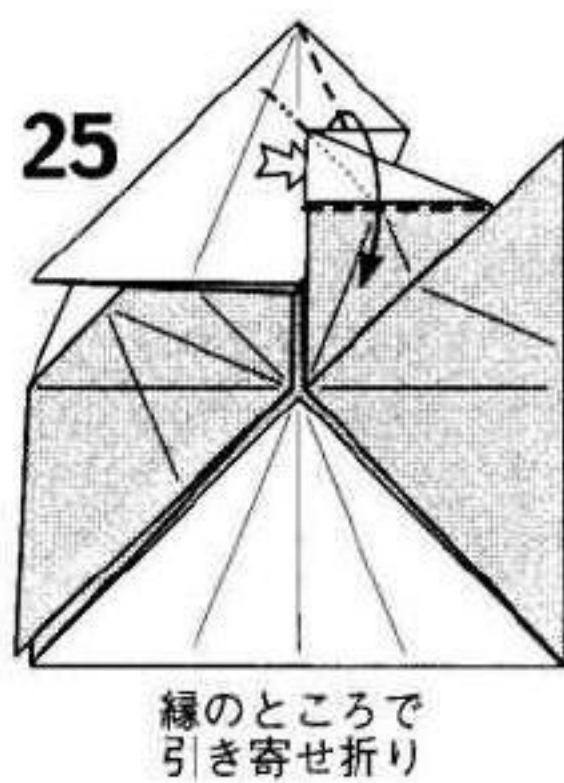
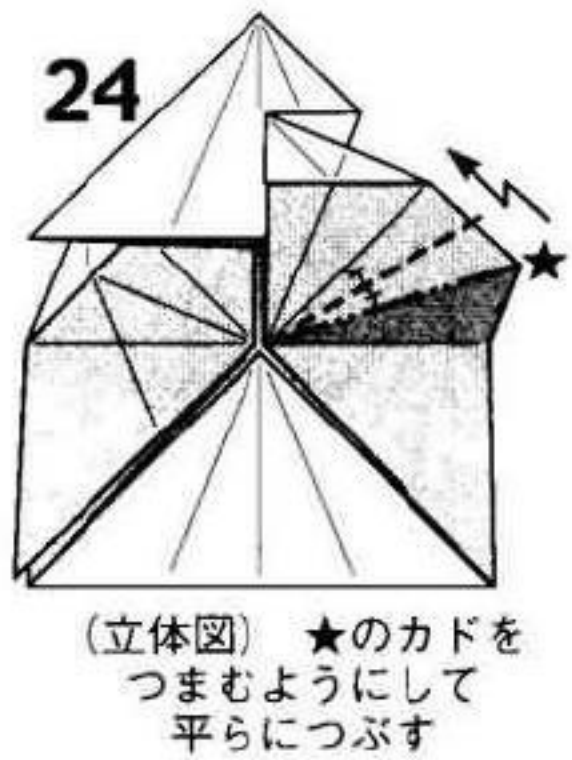
14

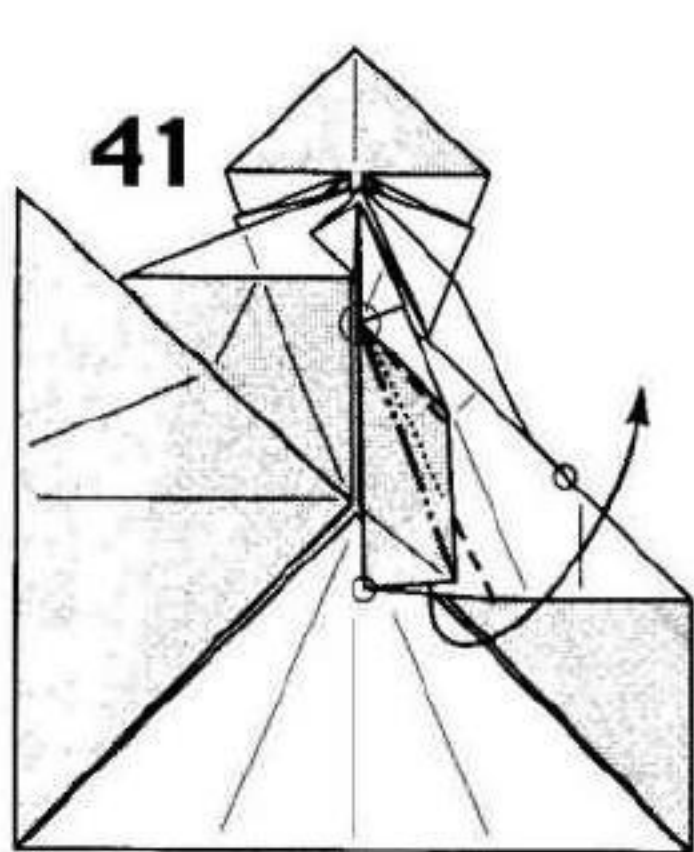
縁と
折り筋を
あわせて折る



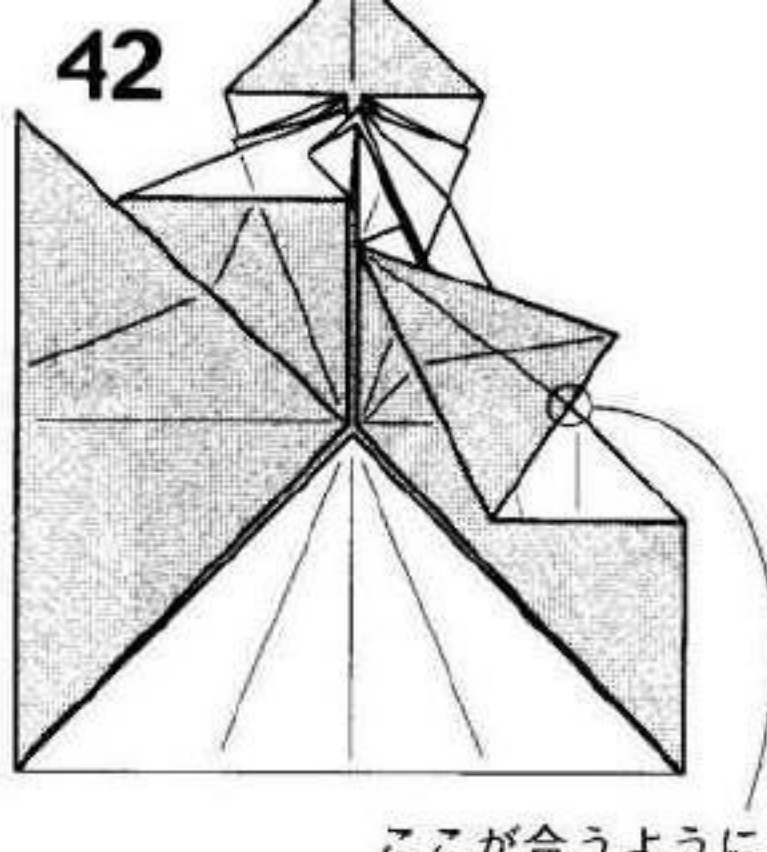
15

折り目をつけたら戻す

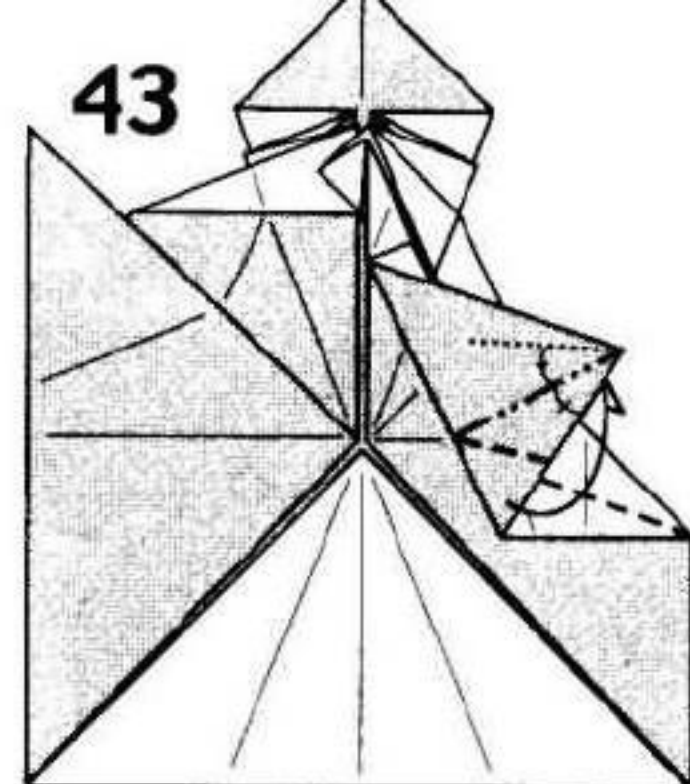




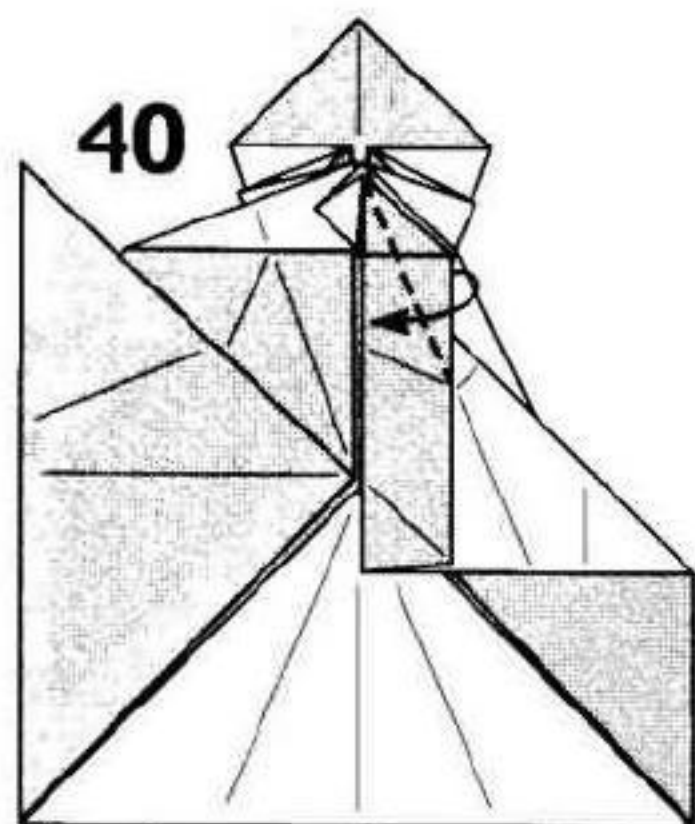
カドのところから
つまむようにして引き寄せ折り
このとき印があうように折る
次の図を参照



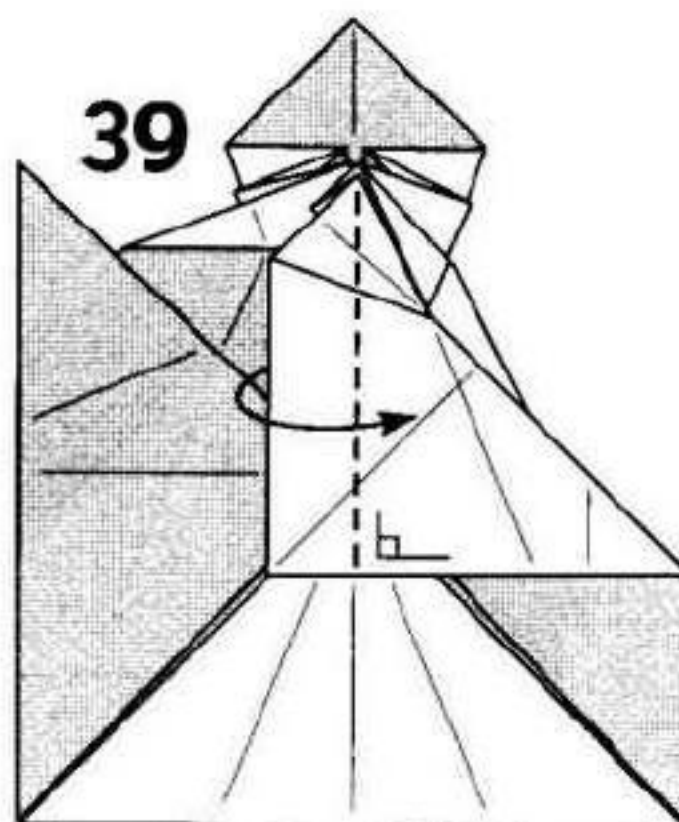
ここが合うように



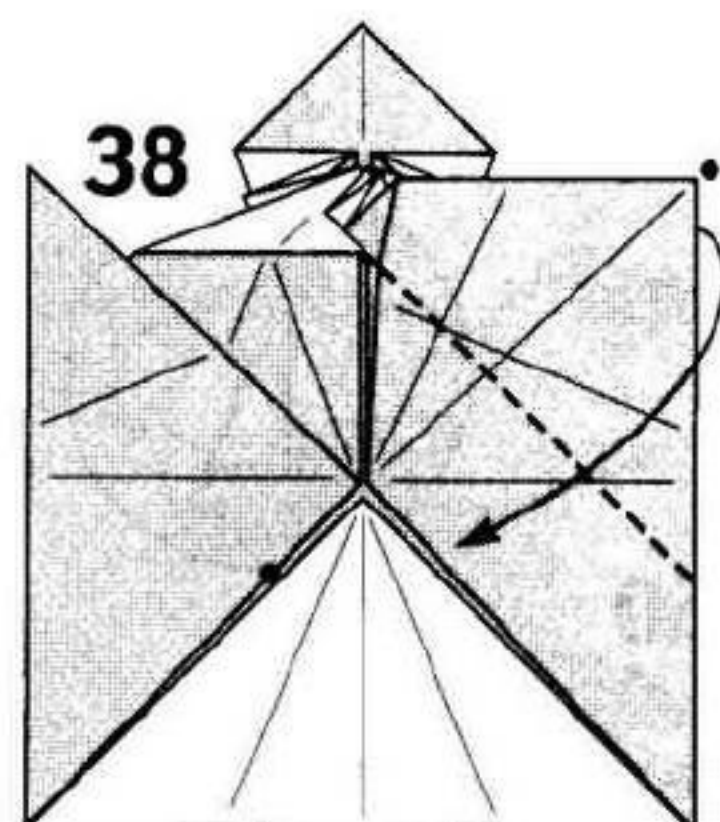
裏の紙の縁に
あわせるように
引き寄せ折り



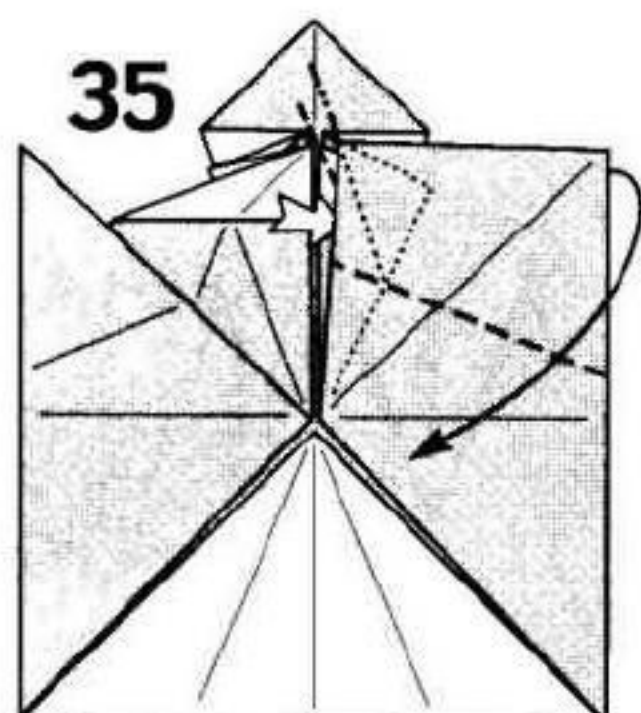
縁にあわせて折る



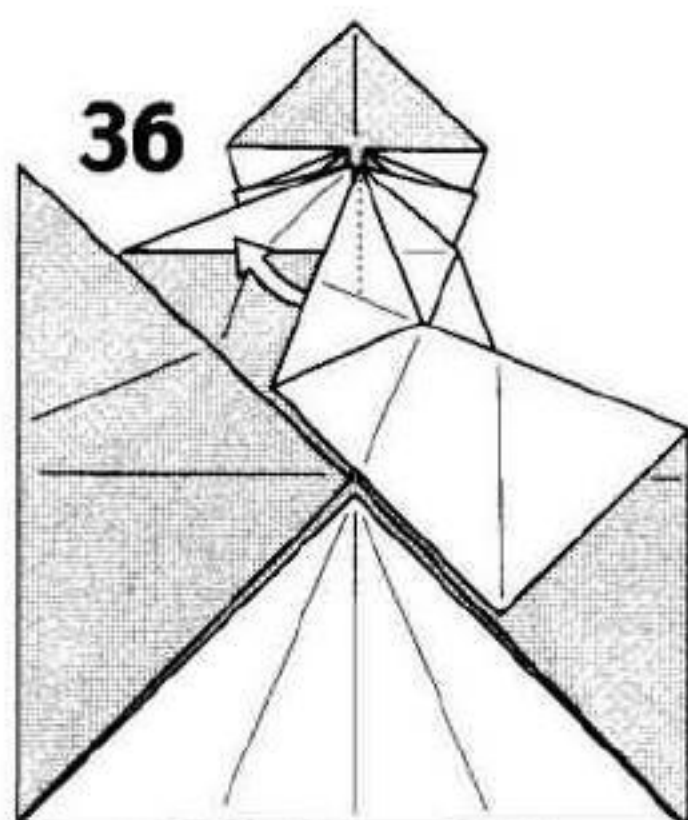
中心線で折り返す



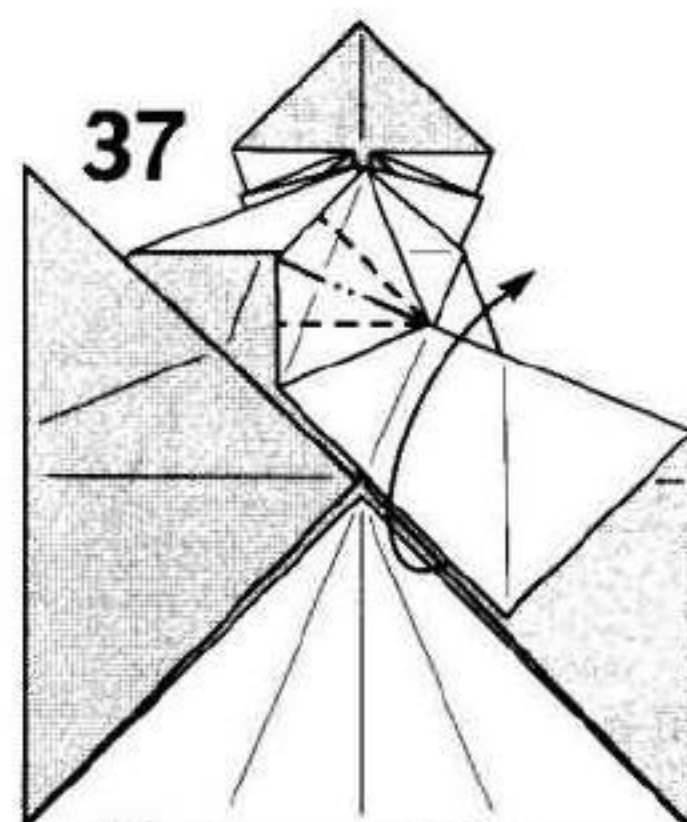
いっぱい折る



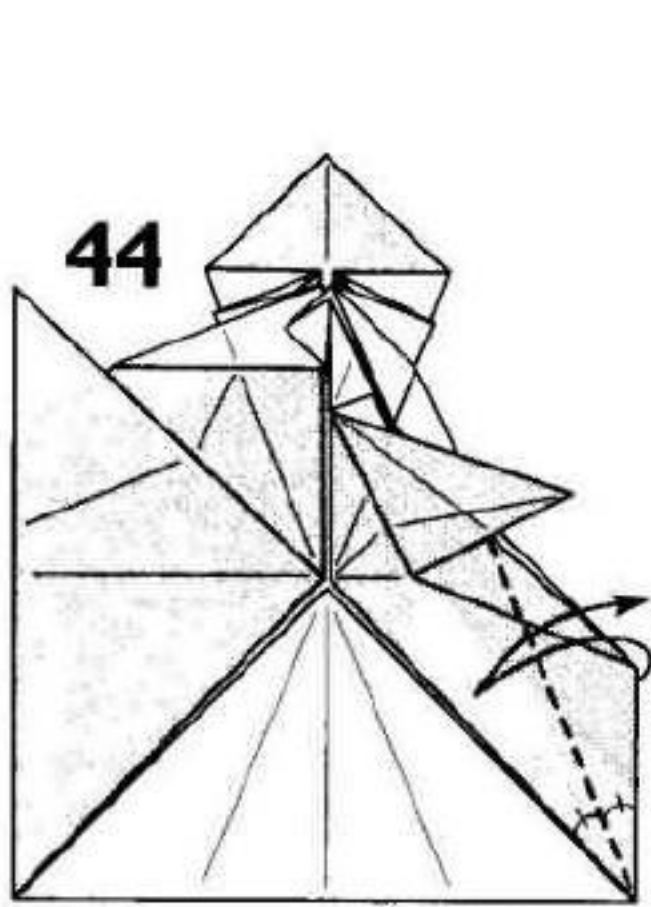
ついている折り目で
折り返して
持ち上がった
ところをつぶす



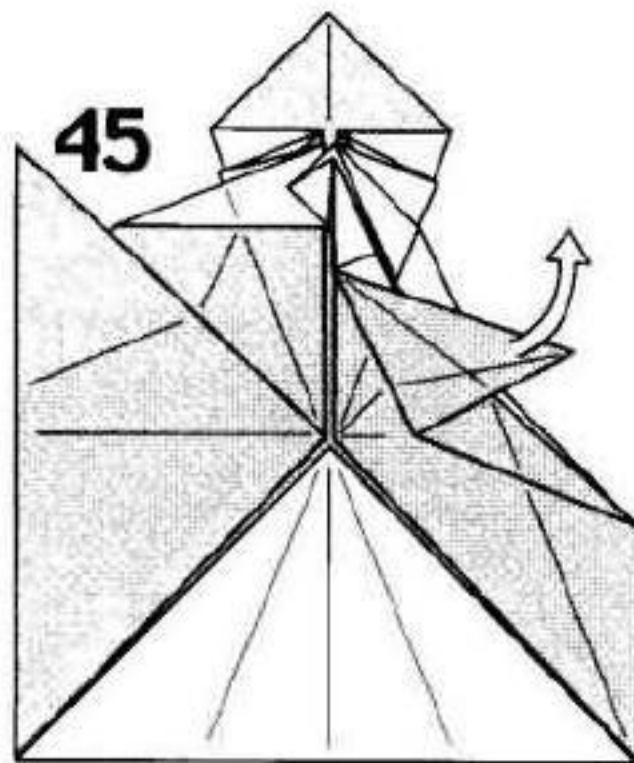
折り込まれている
紙を引き出す



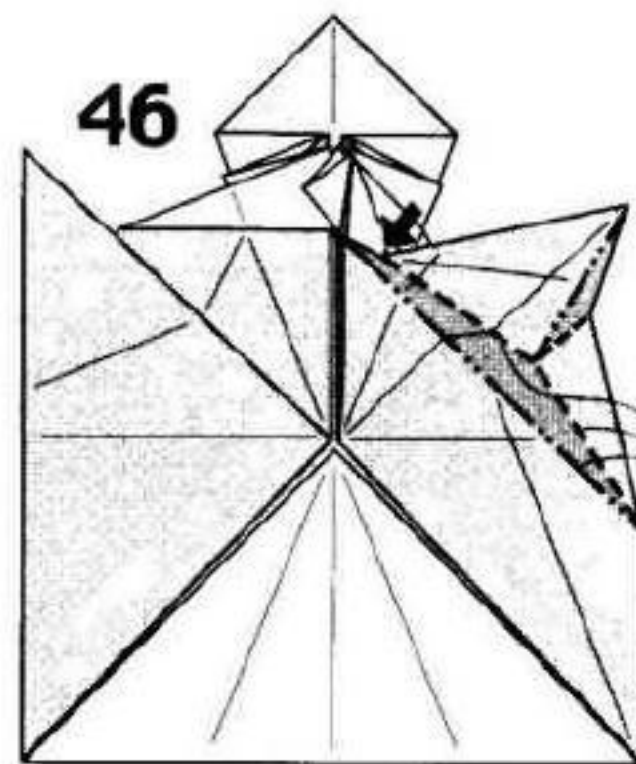
図の折り線で折り畳む



しっかりと
折り筋をつける

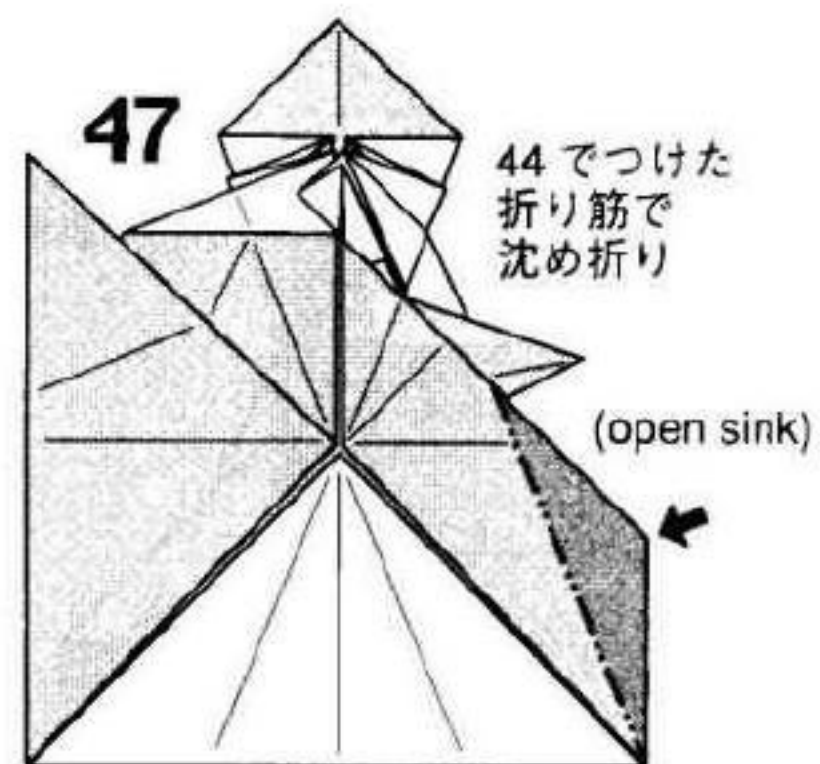


少しひろげる



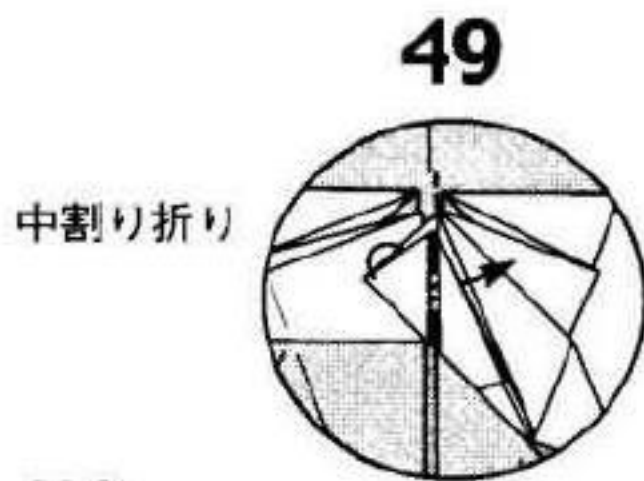
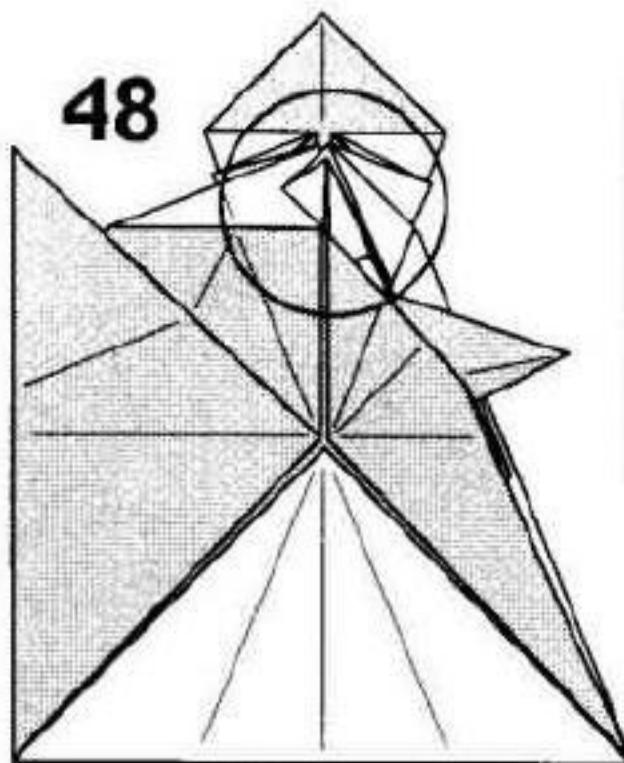
この
折り目が
変わる

上の方の折りを
崩さないように沈め折り
(closed sink)

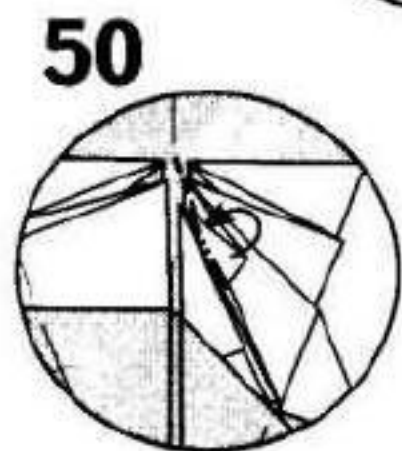


44 でつけた
折り筋で
沈め折り

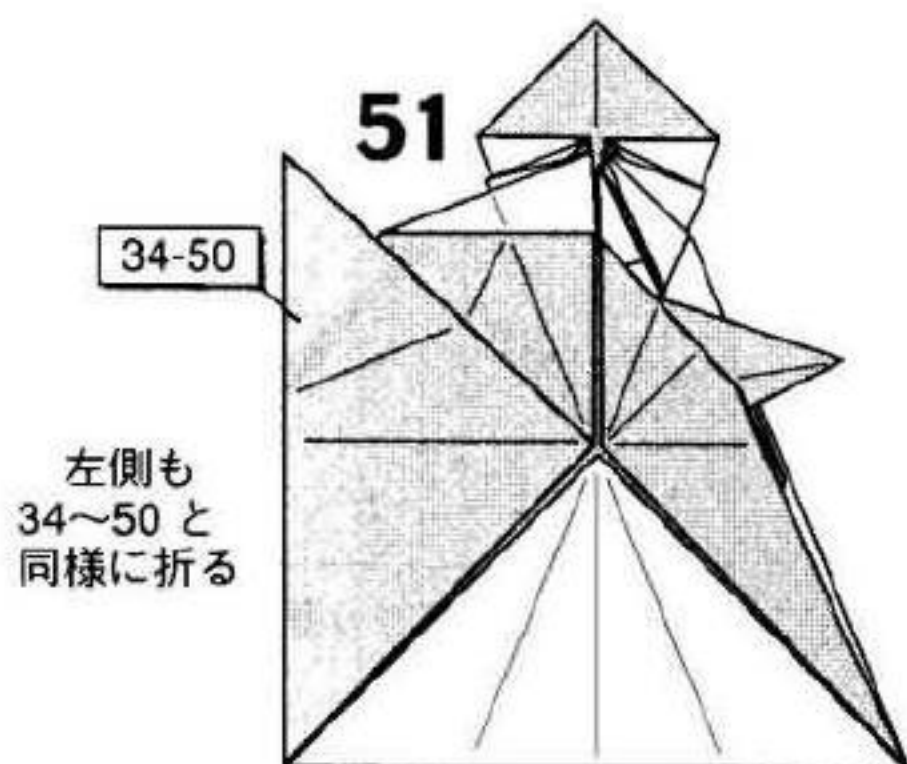
(open sink)



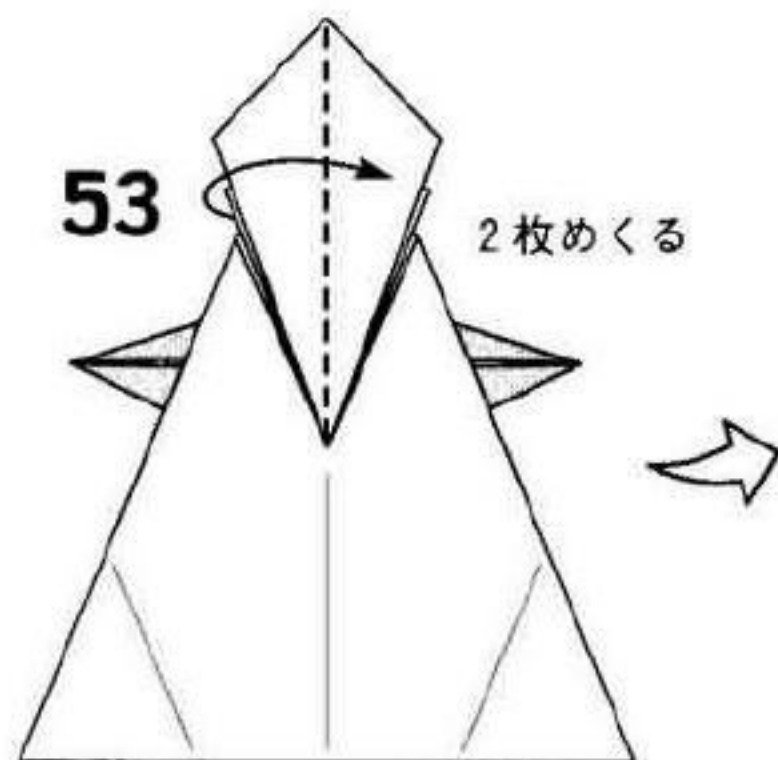
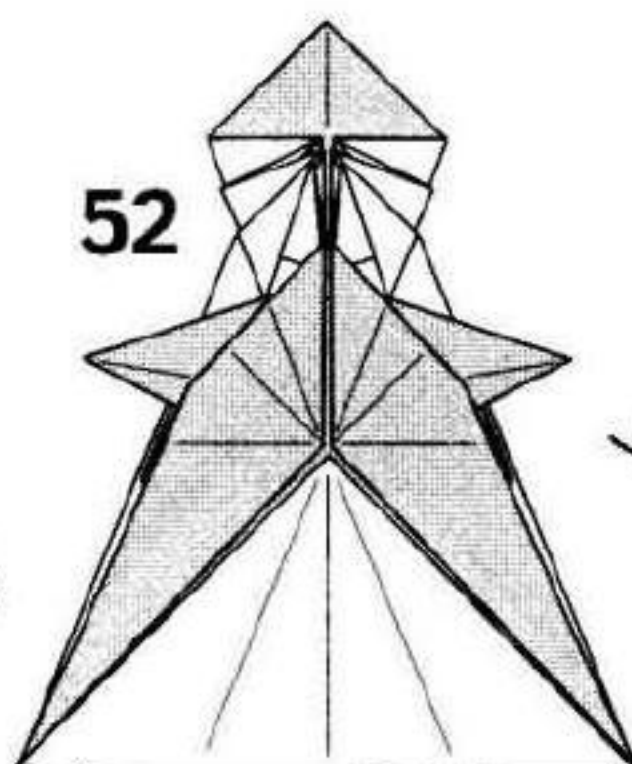
中割り折り



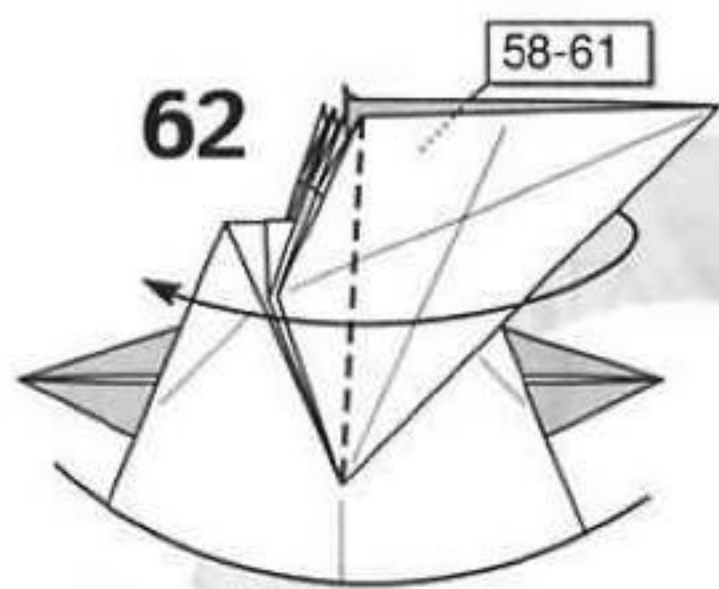
中割り折り



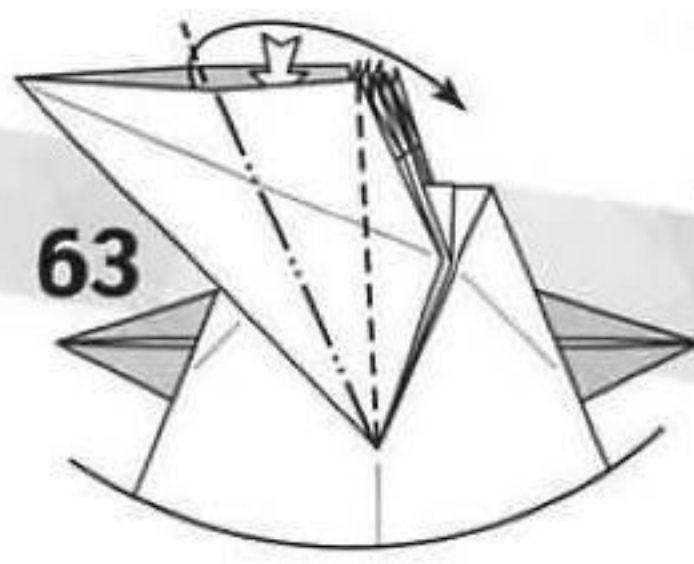
左側も
34~50 と
同様に折る



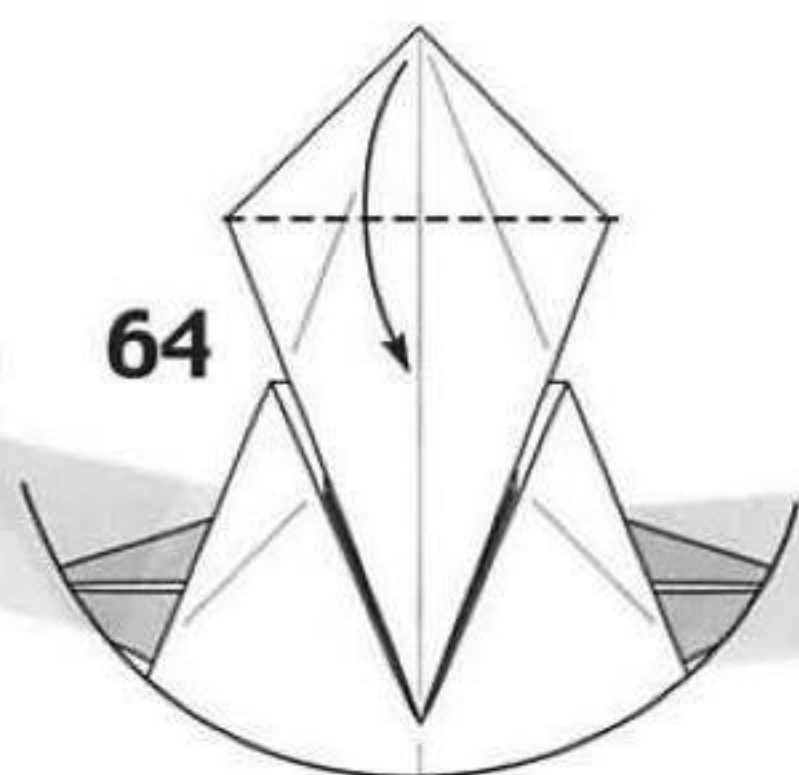
2枚めくる



折り返して右側も
58~61 と同様に折る



折り目で開く



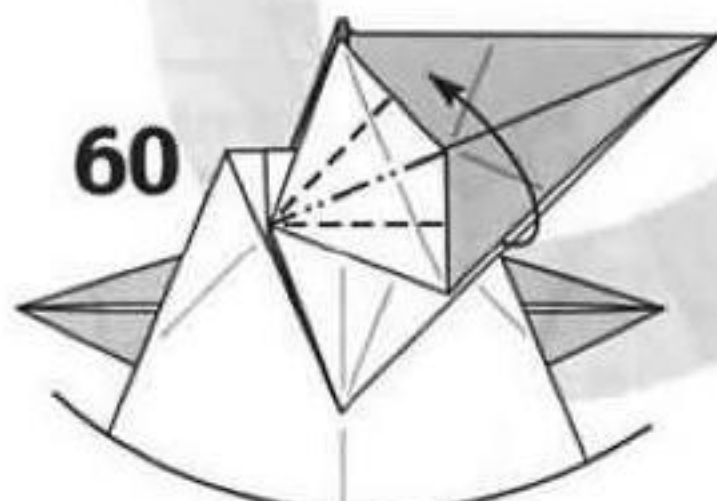
カドのところから折る



(透視)

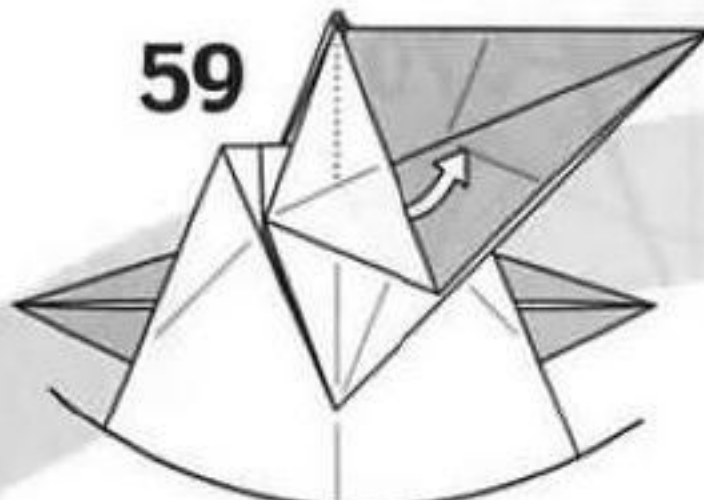
61

それぞれ 49、50 のように
中割り折りを 2 回繰り返す



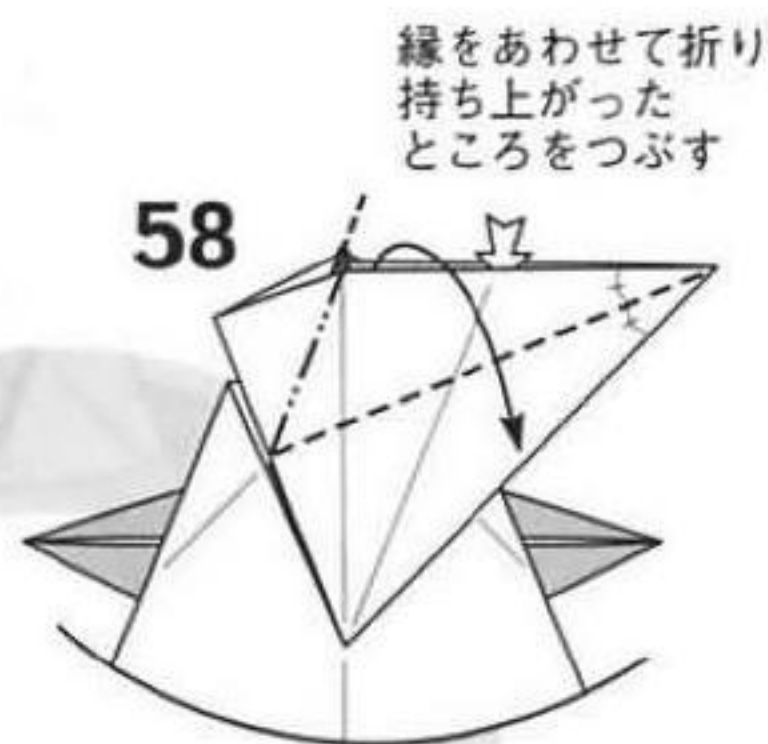
60

図の折り線で
折り畳む



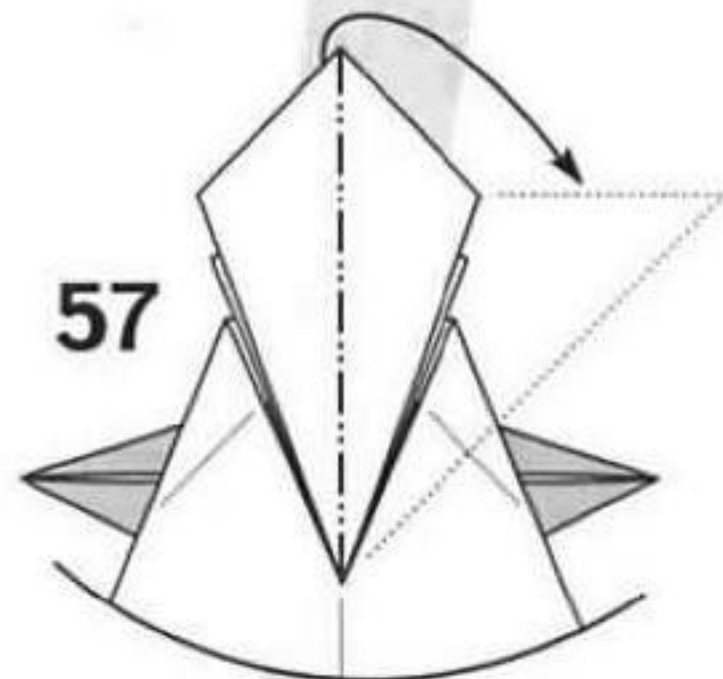
59

折り込まれている
紙を引き出す



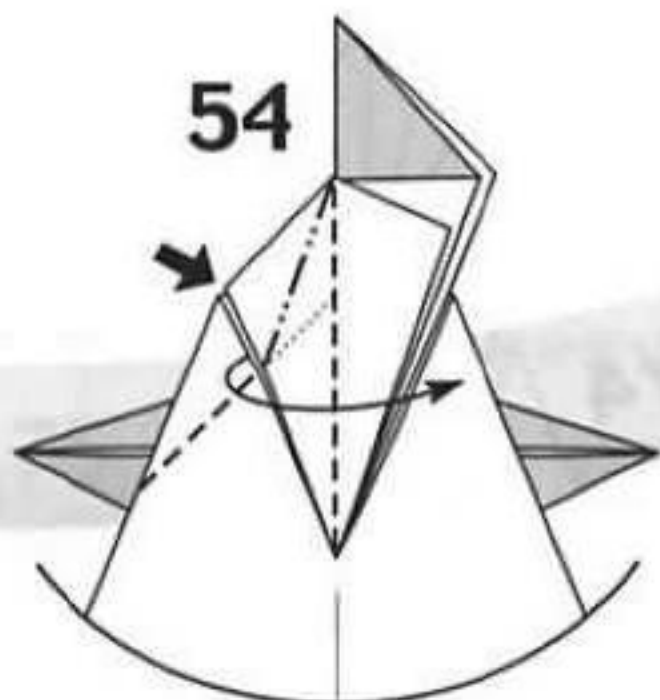
58

縁をあわせて折り
持ち上がった
ところをつぶす



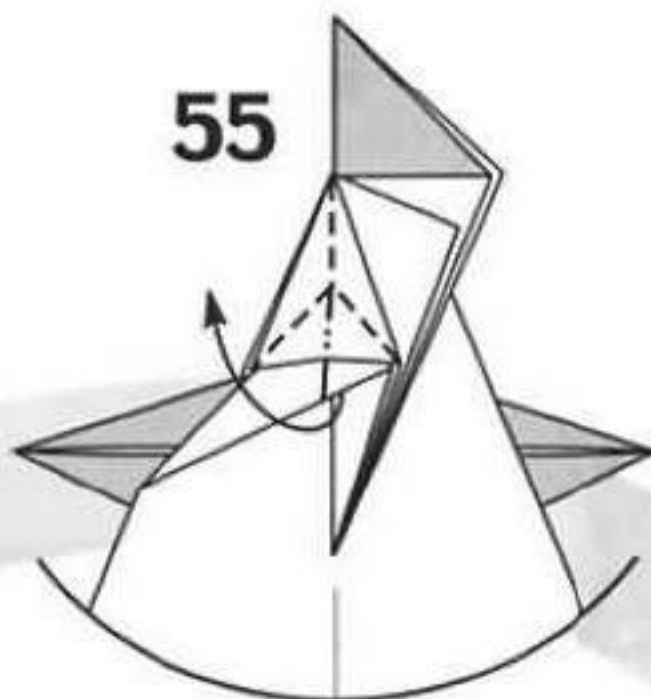
57

折りかえる



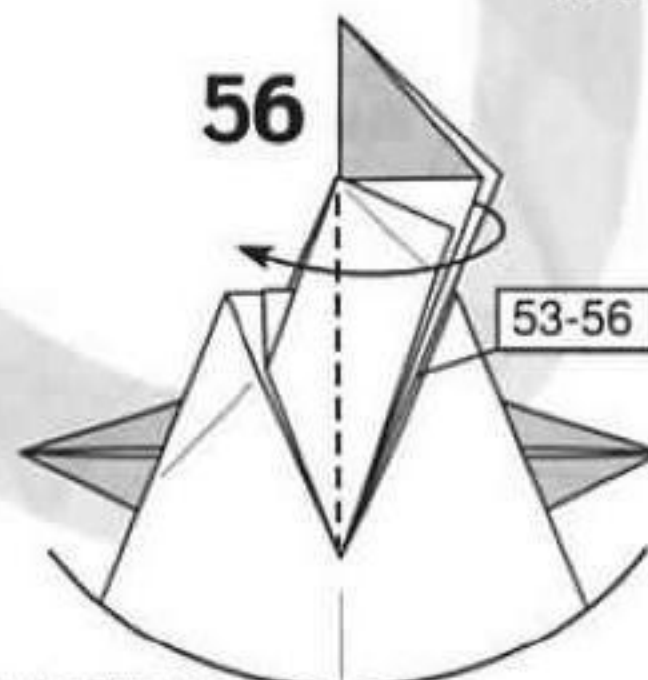
54

間の紙ごと
内側をひらいてつぶす



55

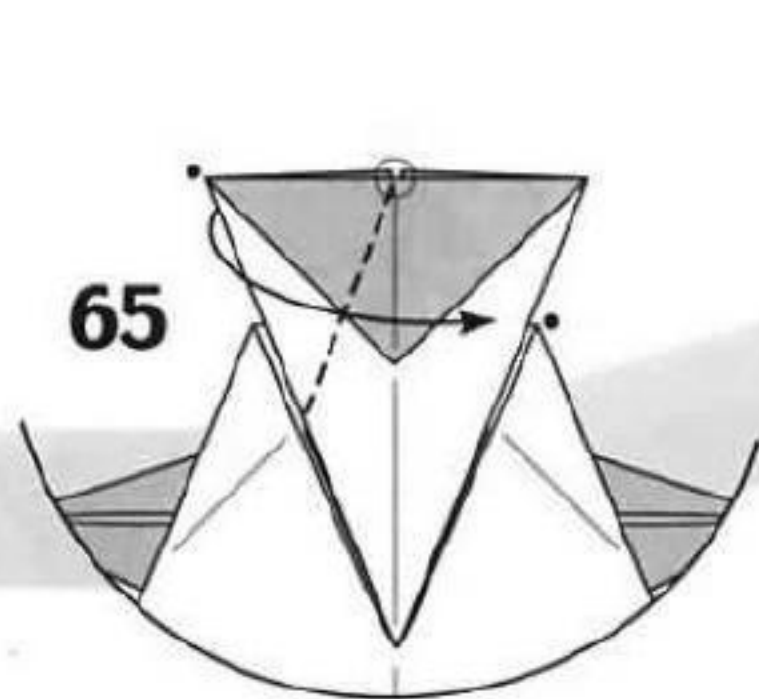
いっぱい
折れるところで
折り畳む



56

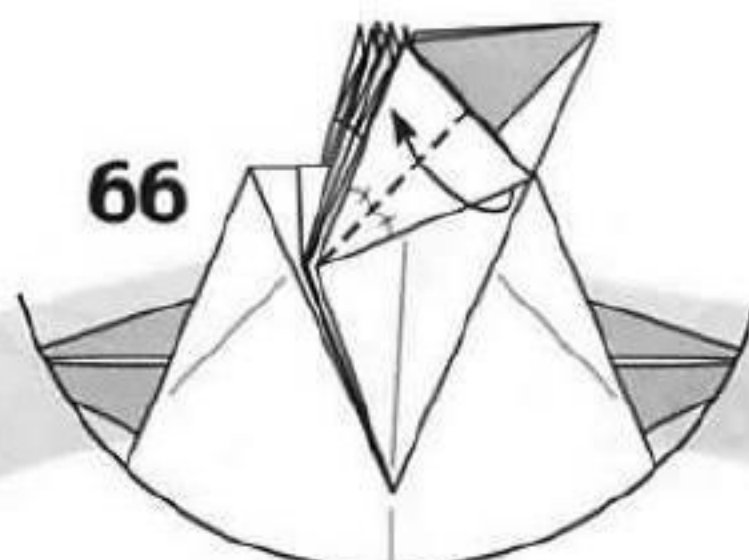
53-56

真ん中で開く
右側も 53~56 と同様に折る



65

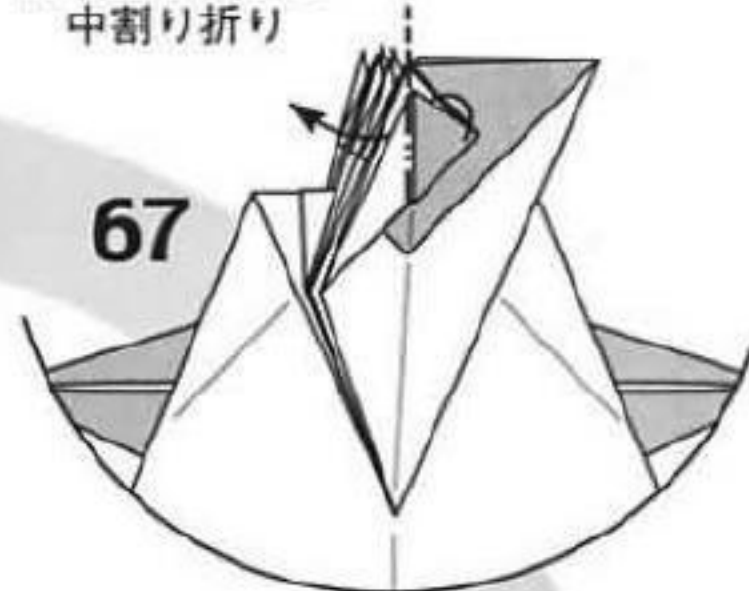
下の縁にあわせて折る



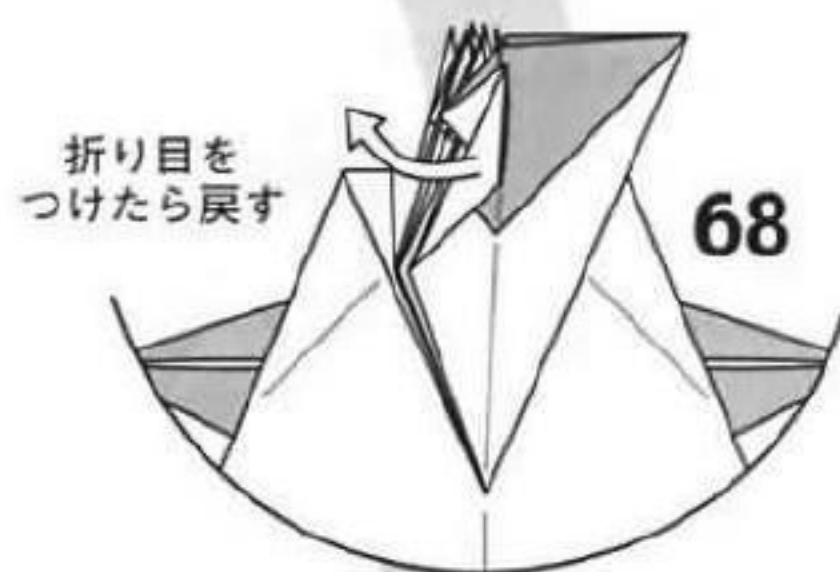
66

縁をあわせて折る

紙を重ねたまま
中割り折り



67



折り目をつけたら戻す

68



(透視)

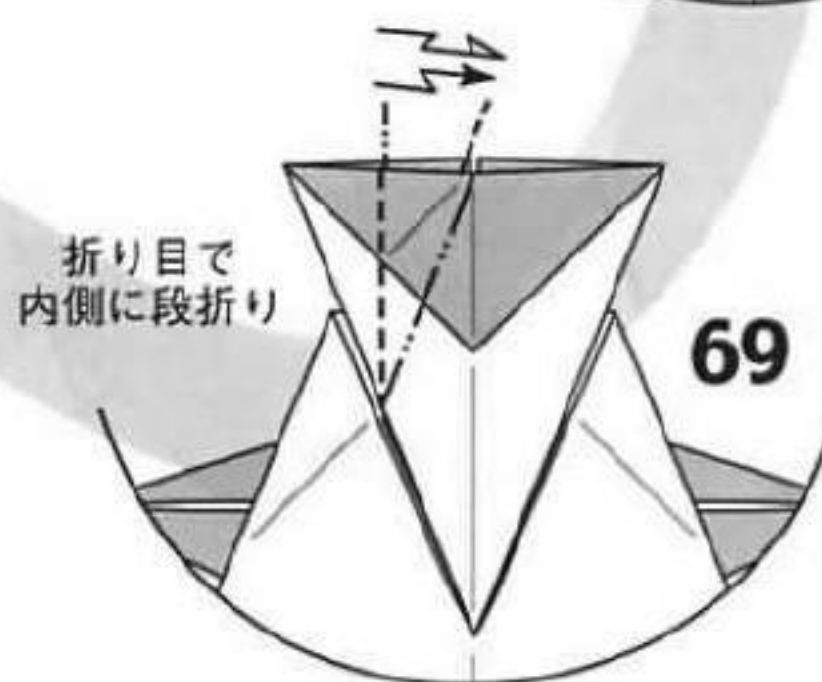
61 と
同様にそれぞれ
中割り折りを繰り返す

70



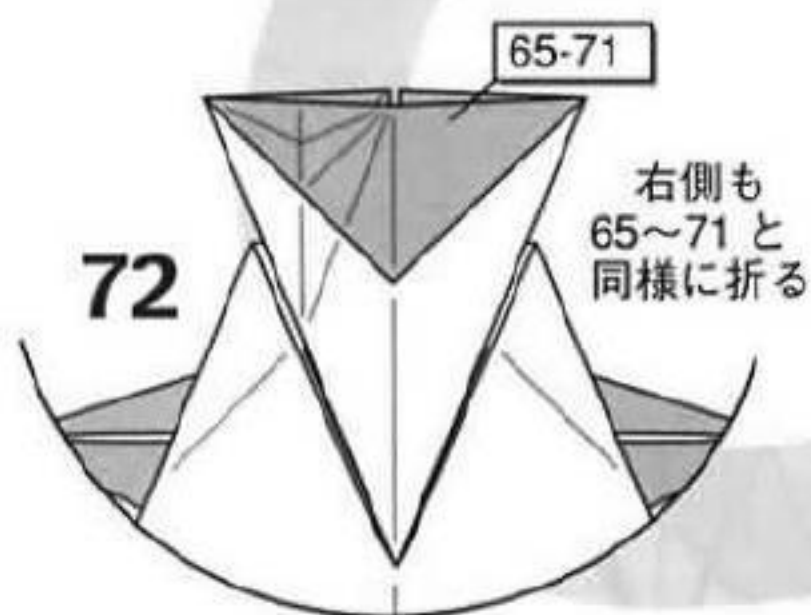
しっかりと
折り目をつけたら
69 まで戻す

71



折り目で
内側に段折り

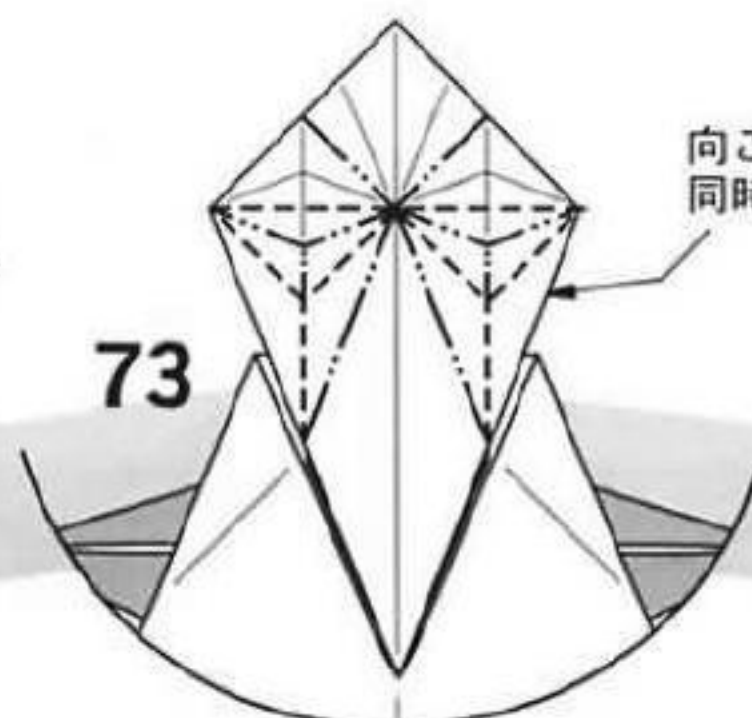
69



72

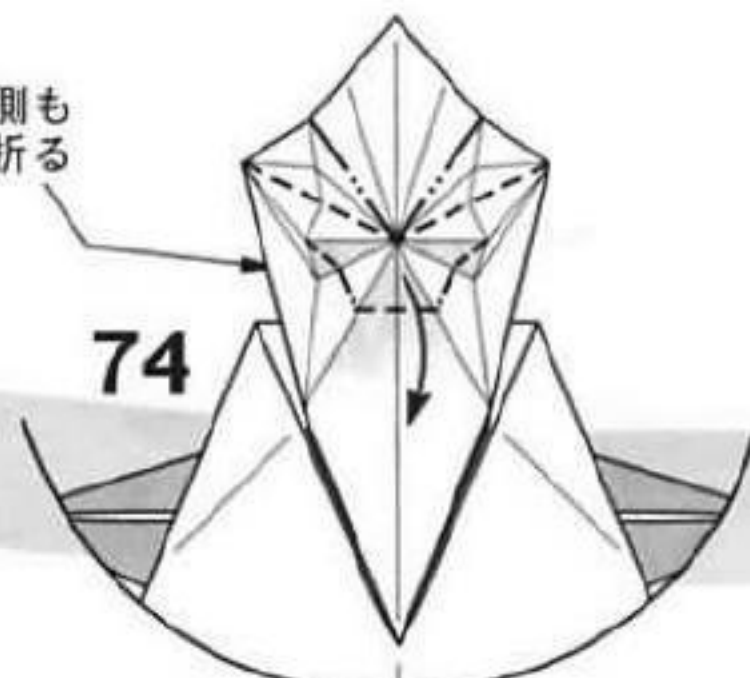
65-71

右側も
65~71 と
同様に折る



73

向こう側も
同時に折る

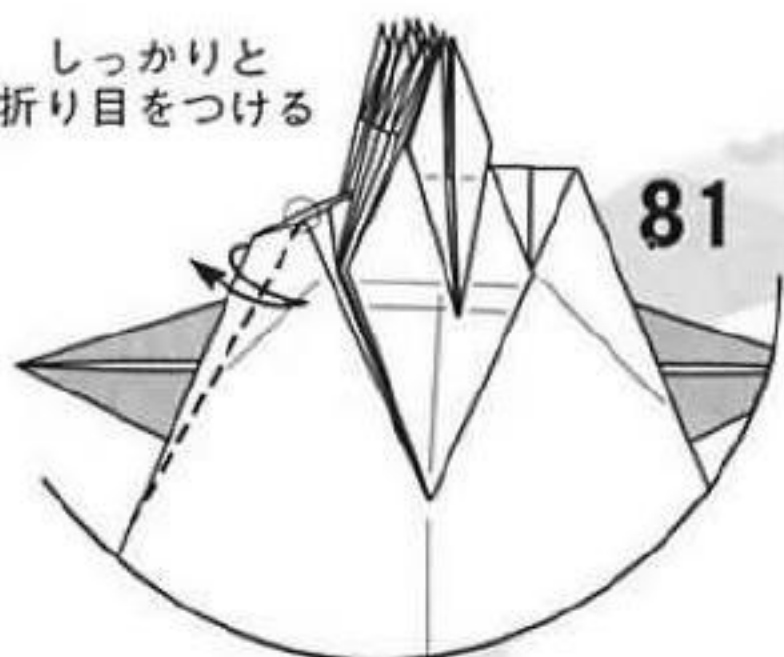


74

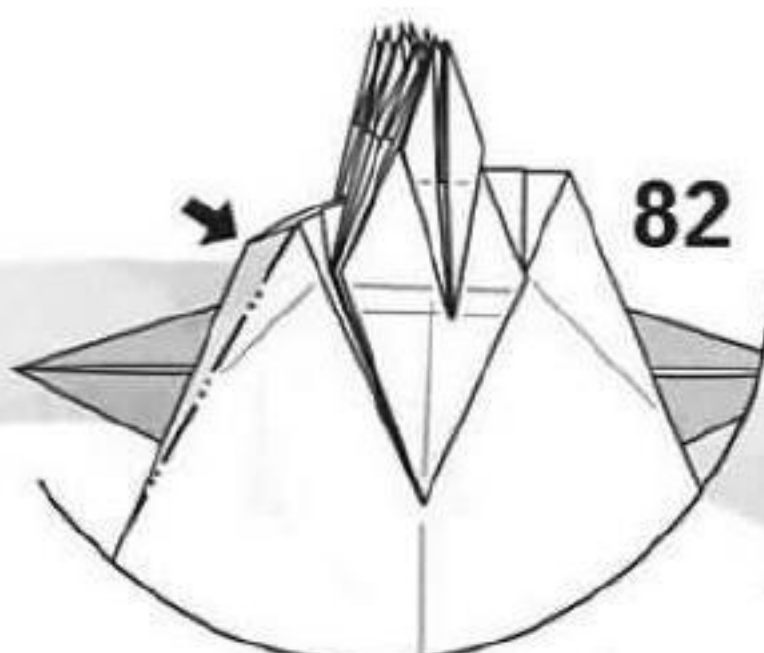
図のようにひらいたら
ついている折り目で折りまとめる

持ち上がったカドを
下に向けて
平らに折りつぶす

しっかりと
折り目をつける

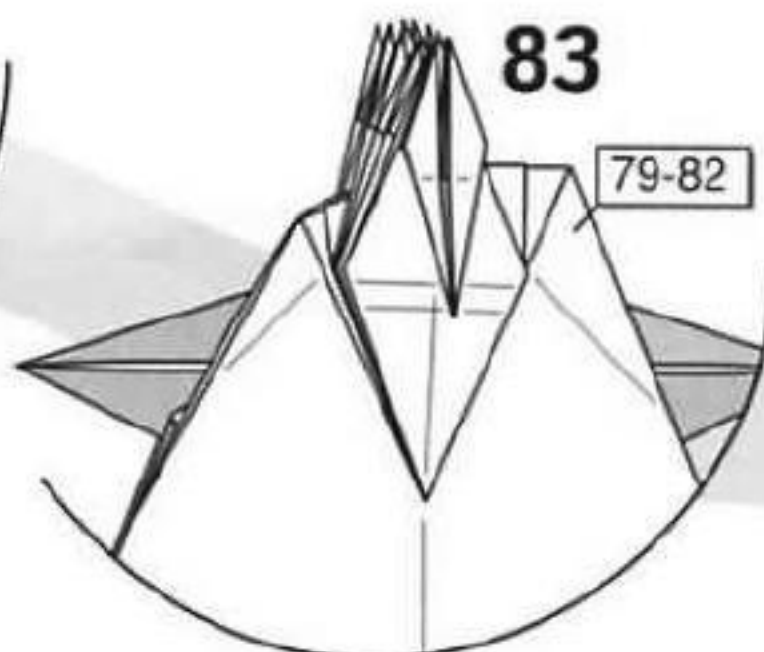


81



82

つけた折り目で手前側に
沈め折り (closed sink)



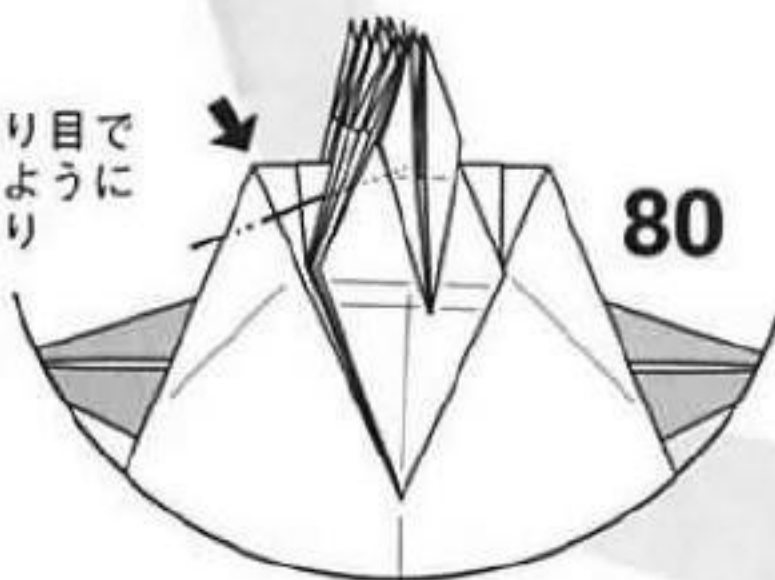
83

79-82

右側も 79~82 と
同様に折る

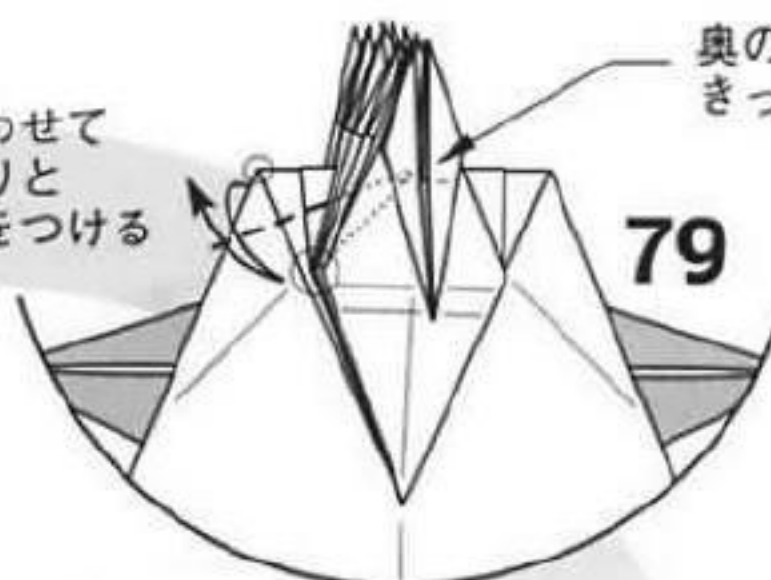
つけた折り目で
押し込むように
沈め折り

(closed
sink)



80

○を合わせて
しっかりと
折り目をつける



79

奥のところから
きっちりと折る

折り図制作者からコメント

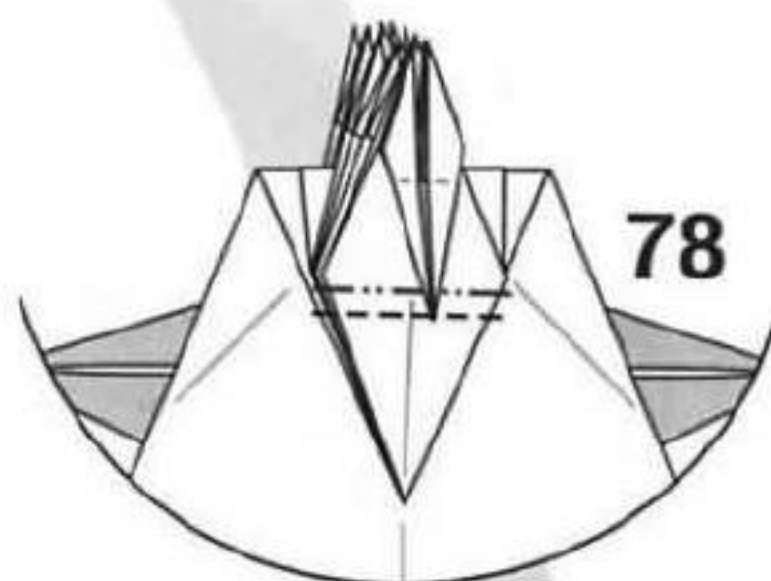
折り工程は、基本的な流れは作者自身によるものに沿っていますが、部分的に再構成させていただきました。

難易度の「高い」作品だと感じました。仕上げの折りはかなりの技術が必要になると思います。

80 と 82 をそれぞれ沈め折りをした後でノリ付けしてしまうと後々楽になります。またクチバシの段折りするところは紙が破けないように、73 の段階で内側からテープなどで補強するのも有効です。これらは作者はしないであろうズルイ手ですが。

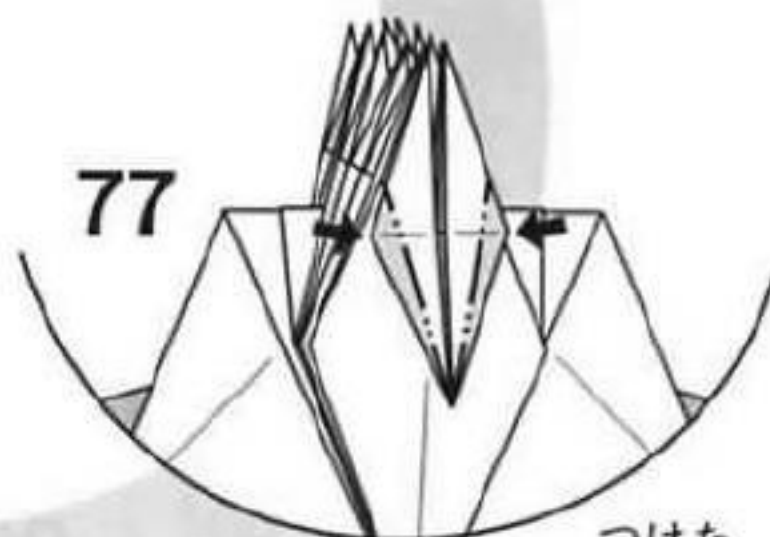
折り図の完成図よりも前号の作品写真を参考にしながら、ぜひともこの見事な完全立体造形を完成させて下さい。

(K.H)



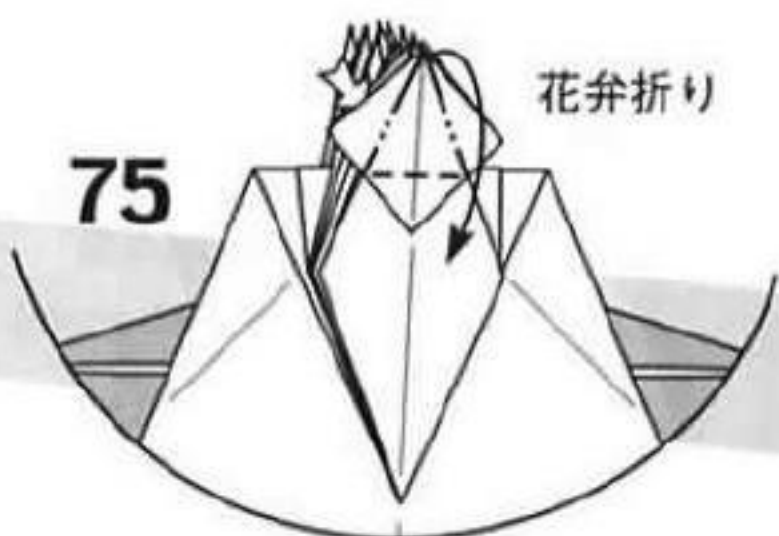
78

しっかりと
折り目をつけておく
(109 の工程のため)



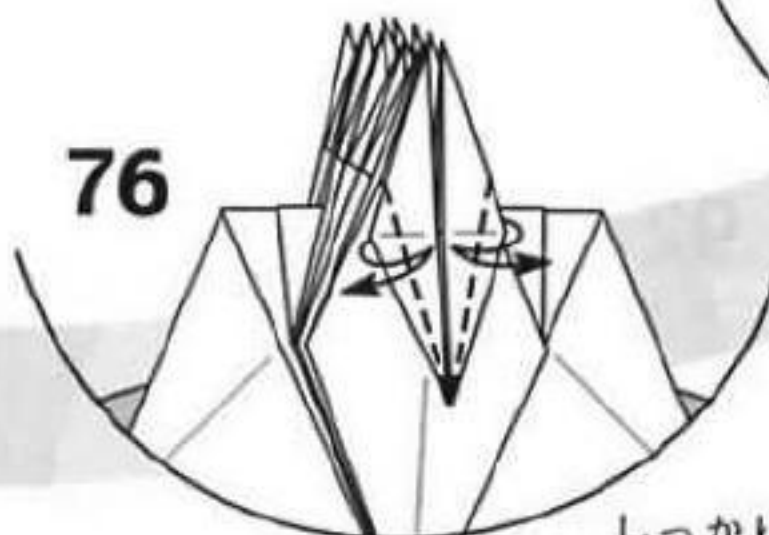
77

つけた
折り目で沈め折り
(closed sink)



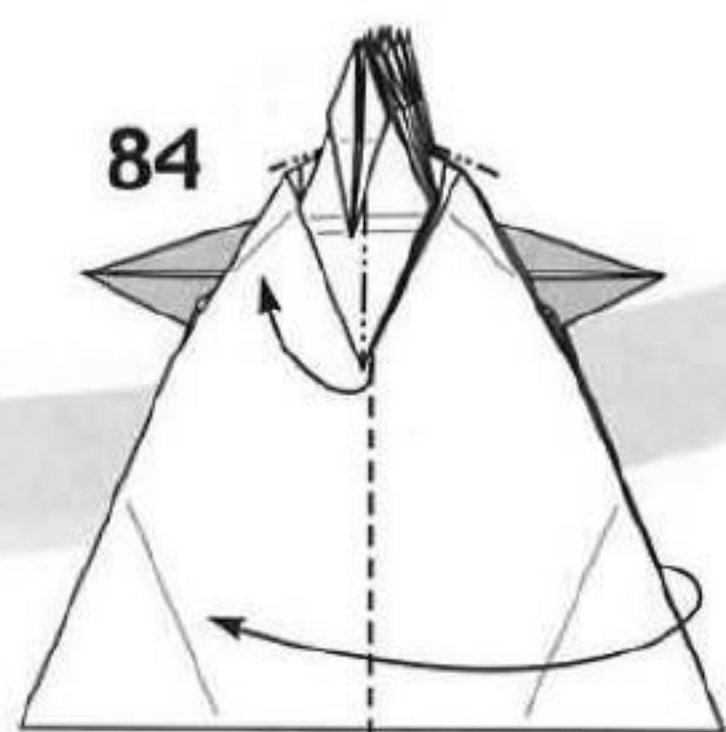
75

花弁折り

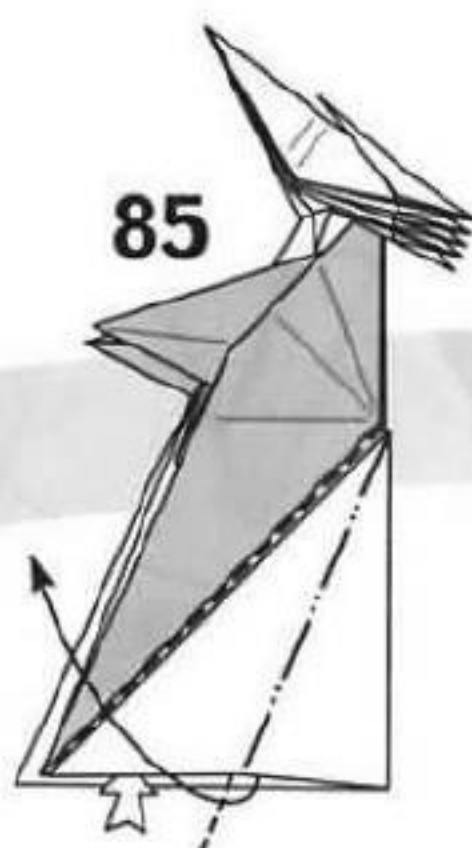


76

しっかりと
折り目をつける



「頭」の部分を引き上げながら
全体を2つ折りにする



内側をひらいて
つぶすように折る



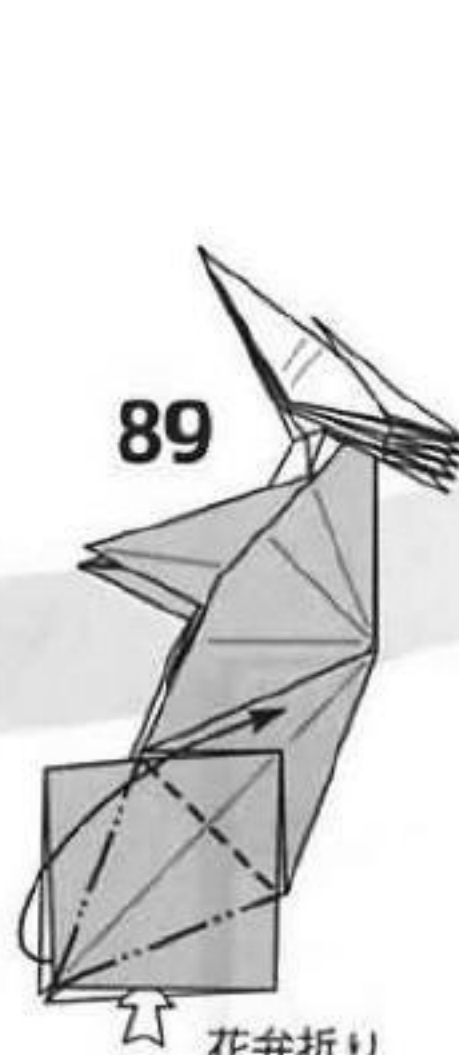
花弁折り



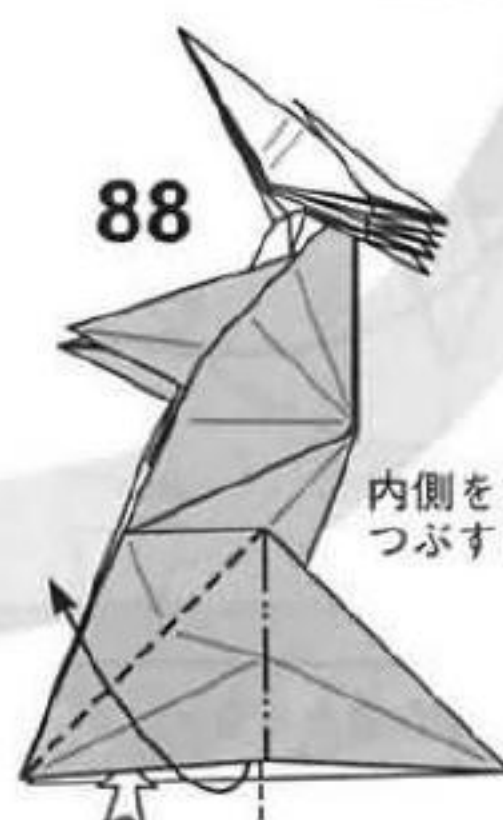
いったんひろげて
紙をはがすようにする



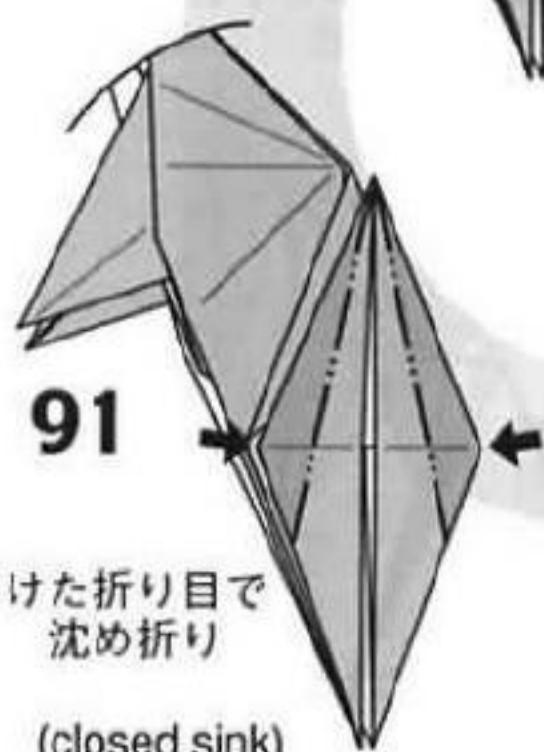
しっかりと
折り目をつける



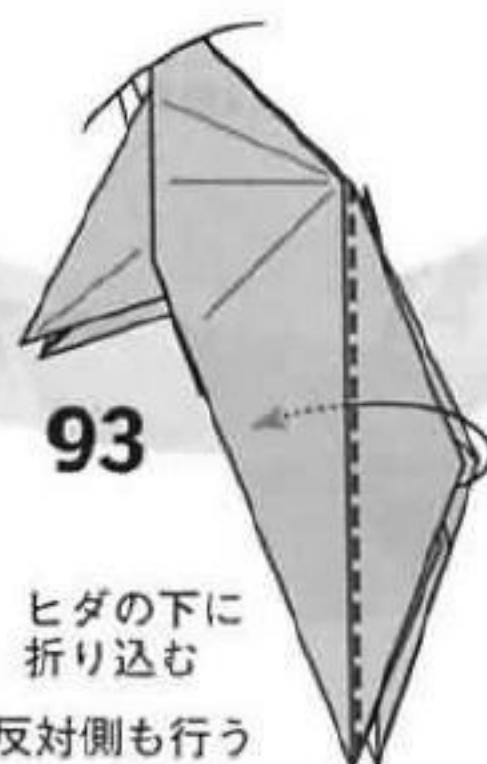
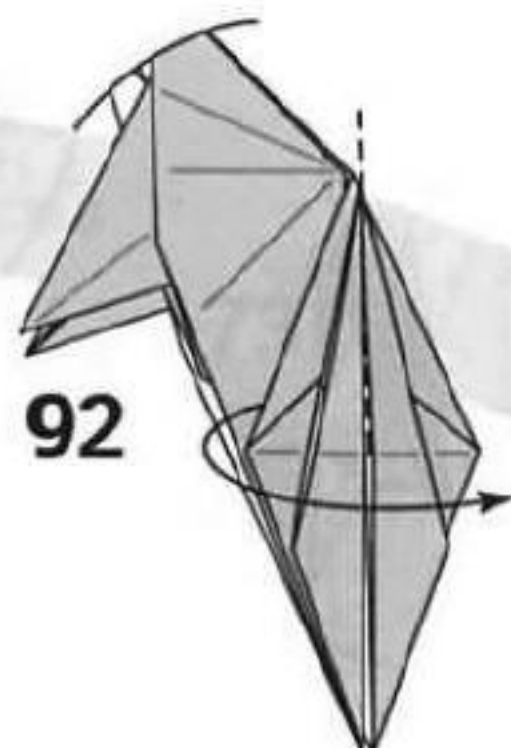
花弁折り



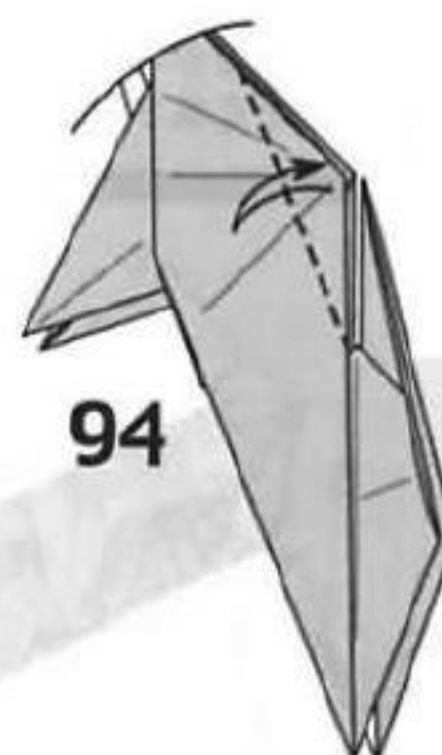
内側をひらいて
つぶすように折る



つけた折り目で
沈め折り
(closed sink)



ヒダの下に
折り込む
反対側も行う



しっかりと
折り目をつける

103

反対側も
99~102と
同様に折る

104

内側の紙を
押し出して
おなかを作る

(107を参照)

105

99-102

102

それぞれ1枚を
ひっくり返して
ロックする

いったんひろげて
折るとやりやすい

101

ねじるようにして
次の図のように折る

100

開くところで
折る

99

中割り折り

95

つけた折り目で
沈め折り
(closed sink)

96

沈めた
ところに沿って
折り込む

(ポケットに
折り込むのは無い)

97

沈めた
ところに沿って
折り目をつける

98

107

(105 で示した
くぼんだところ)

106

薄いアミ掛け部分を
沈めるようにする69、71 で
沈めたヒダは
背中側に寄せる同時に
後ろから
指を入れて
クチバシの
一番下の
紙だけ
引き下げる

108

109

ついている折り目で
内側に押し込むように段折りカーブを
かけて反らせる(向こう側のカドは
図では省略してある)

111

110

カドを
かぶせるように
折り返す上のクチバシが
かぶさるようにする

Orisuji ("Fold-Creases")

おりがみ=挫折の記憶

How I Come Over My Frustration on Origami

Ohno Hiromi

おおの ひろみ

物心ついたときには、家には折り紙の本があって、その本を見ながら折っていました。何故か、「折れた」という記憶より、「折れなかった」という挫折の記憶の方が残っています。「宝船」で、泉折り(?)にするとこや、「モーターボート」で最後にひっくり返すところとか…それでも、何年(!)か経ったら、それが折れるようになって、すごく感激した事もよく覚えています。

そういえば、その頃「園部ユニット」もそうとは知らずに教えてもらいました。教えてもらった折り方は、現在それが書いてあるどの本にも載っていない工程でした。

このような幼少期の折り紙体験のあ

と、次の「出会い」があります。

それは、小学4or5年生の冬の事です。担任の先生が、和紙で作った折り紙のおひな様を教室に飾って下さったのです。そのきれいだったこと!すっかりひとめぼれした私は、先生に本を紹介してもらって、母に買ってもらいました。(福音館書店「折りびな」田中サタ著 絶版)

ところが、中身はとても子どもの私に手におえるようなものではありませんでした。結局母に折ってもらいましたが、母もしばらくはこの「折りびな」にはまってしまっ、近所の人に教えたりしていました。(これは折る人の個性がすごく出ます。やっぱり私は母の折ったのが一番好きでした)

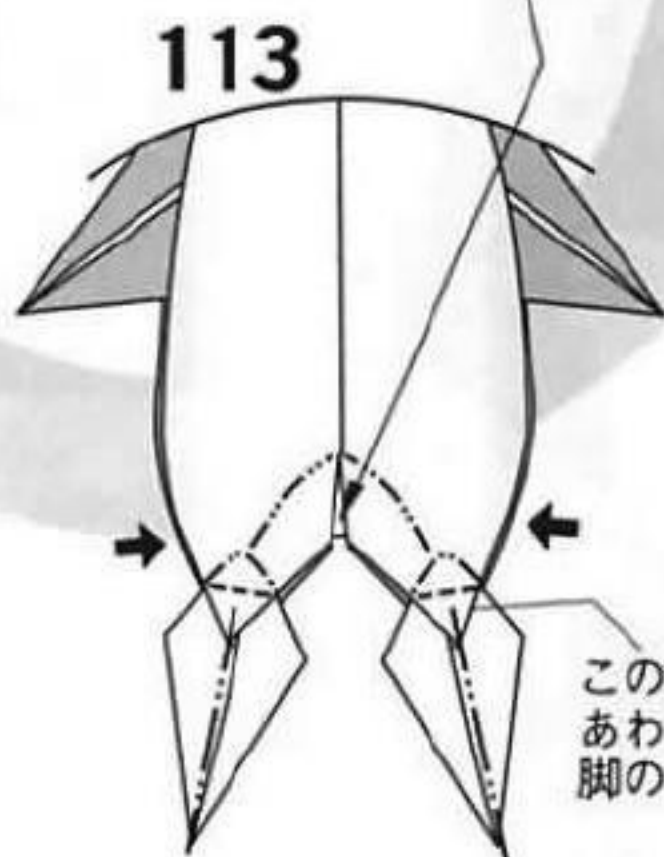
それから、またしばらくして今度は高校生の頃。「お手紙交換」がはまりました。そして、その便箋をカッコよく折るのが「お約束」でした。私はごく普通の四角くまとまるもの2~3種類しかレパートリーがありませんでした。友達から「シャツ」の形で貰ったときにはショック大きかった~!

そのような訳で、挫折の記憶ばかりの折り紙ではありますが、何故か、もっと折りたいとずーっと思っていました。3~4年前に図書館で超偶然にみつけた「トップおりがみ」が今ここに私がいる直接のきっかけです。現在、最新の「挫折」は、北條氏の「弥勒菩薩」です。これもなんとか克服したいものです!



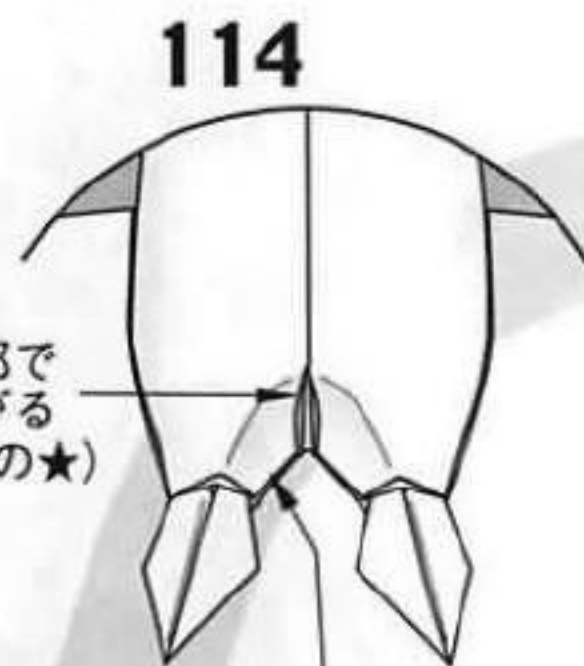
112

前から見る



113

この線にあわせるような感じで脚の形を整える



114

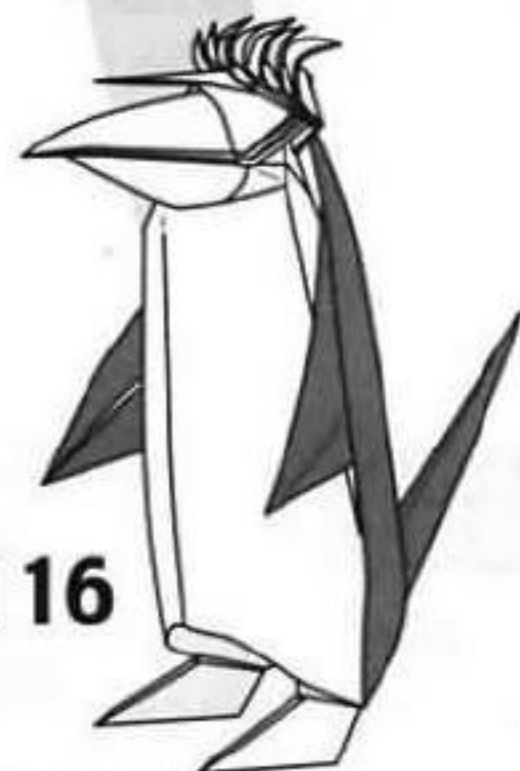
紙が内部で押し上がる(次の図の★)

113はこの重なりをいったん外してから折るとやりやすい



115

95で沈めたポケットに差し込む



116

2本脚で立つように調節する
できあがり

折紙三昧 ②

Origami-Zanmai (This Origami and that)

本号が届く頃はコンベンション間近のはずです。今回のコンベンションは、日本折紙学会となり総会の準備という新しい事柄もあって忙しくなりそうです。はじめから謝って申し訳ありませんが、不備な点ご容赦ください。

ところで、コンベンションは、学会となる以前から言うなれば「学会」的に運営されています。例えばそれは、講師にあたる人も参加費を払うというものです。コンベンション折図集も学会講演要旨集と似ています。また、いわゆる学術の学会では招待講演やシンポジウムなどもあって、講演料(テレカなんてケースも)が支払われたり、参加費が免除されたりするようです。折紙探偵団コンベンションも今回から金曜日の講演を引き

「学会」について 思うこと2題

What I Am Pondering over about JOAS

受けていただいた方々に、些少なからお礼を差し上げる方針となっています。でもこれらは、学会を真似ているのではなく、発表の喜びを分かち合うべき人々が多数存在する世界の合理的な姿だと私自身は思っています。研究者の世界では、新しい研究について早く知ってもらう今後の研究方針のヒントを得るため識者の検証を受けるためにこぞって学会発表の機会を求めます。もっとも、いわゆる学術の学会では喜びだけでなく明確な業績として扱われる世界を持っていますので全く同様に考えることもできないでしょうけれど。

折紙探偵団を始めたころから、折り紙を論じる表現方法について思いをめぐらせています。実際、学問的に論じる領域と力量をお持ちの方は少なからずいて、十分な

成果はいずれ世の知るところとなると思います。学問の世界も、重要な仕事は突発的に予測の外から現れるものだと思うのですが、突発的な特出すべきものを認め拾い上げる仕組みは、夥しい数の論文や学会発表などを媒介する学術ジャーナリズムが担っているということなのでしょう。「学術のレベルに拘り過ぎると、十分にたくさんの折り紙論を恒常的に得るのはむずかしいかなあ」などと考えている時、ふと目に付いたのが、囲碁・将棋の観戦記・自戦記の類でした。観戦記・自戦記という著述は、技術と感覚がない交ぜになった独特の世界を構築しています。対局こそ本分でありながら、新聞・雑誌など恐らく年間数千の観戦記、自戦記が世に問われ、名文も生まれている様子は大変参考になる世界だと思いませんか。

西川誠司 Nishikawa Seiji
日本折紙学会 評議員代表

展開図折りに挑戦!

Crease Pattern Challenge

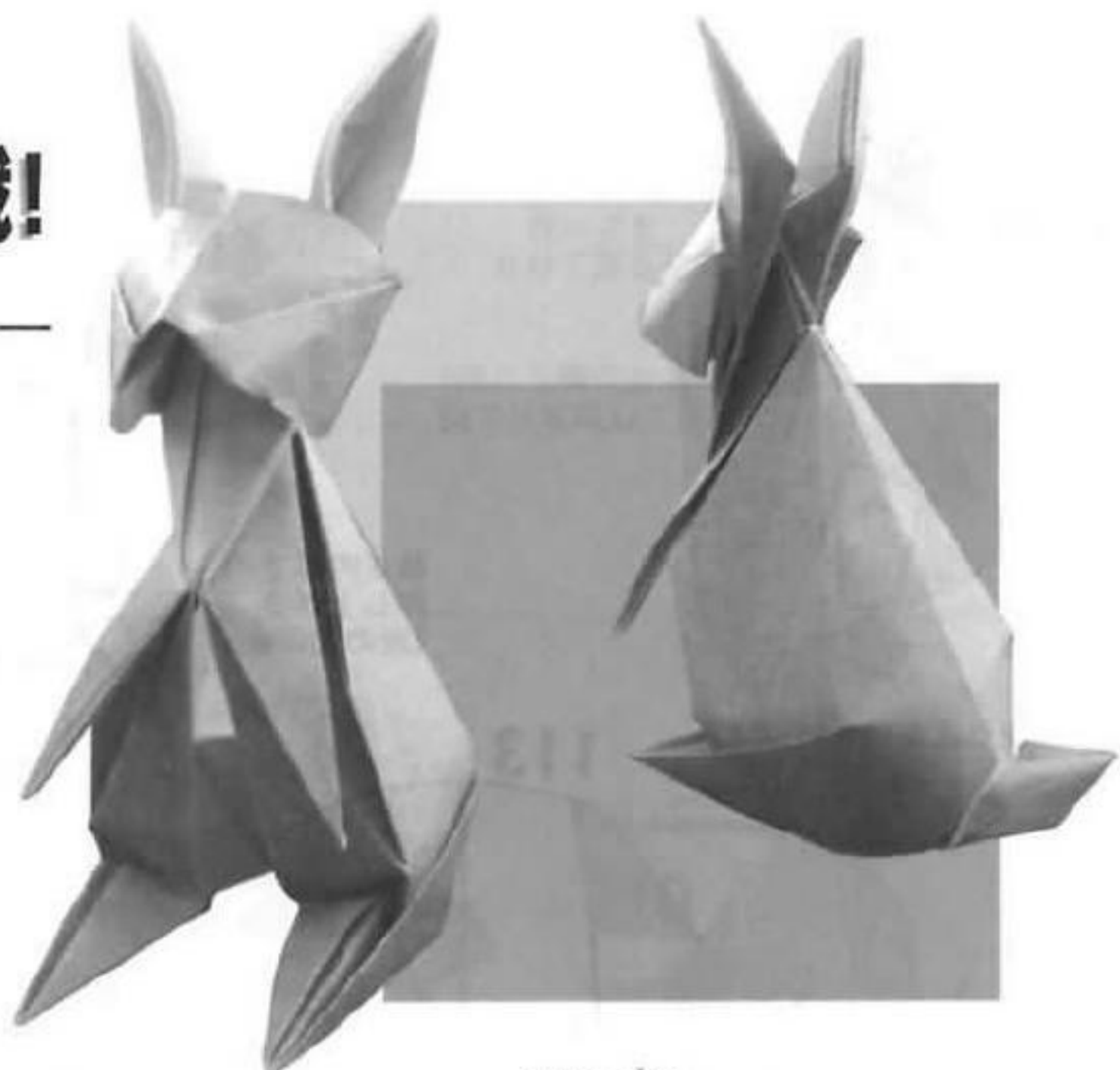
第8回

うさぎ

Rabbit

Komatsu Hideo

小松 英夫



19 99年9月の作です。カド配置は単純だけれど内部の折りまどめが奇妙という、やはり「リス」や「馬」の系統に連なる作品となっています。少し異なるのは基本形へ折り畳むのに「折って、折る」ことが多くあるところでしょうか。展開図で示される(設計的な)折り紙は、全体を一気に折りたたむようにして基本形を手にする事が多いですが、これはそうはできません。この点で少しパズル的になっています(このページにふさわしい?)。山谷をよく見てどこから先に折っていくのかを読み取っていただいて下さい。首のところは非対称に折り込みます。ヒント図も参考にして下さい。(……って、前回の展開図が折れた人には釈迦に説法ですね。)

創作過程について。これも偶然の要素が強く、平面的な座り姿が最初にあったそれを立ち姿にするときに自然に立体化できました。そんな訳なので、あと少し耳が長ければ……と思ってもどうか黙っていて下さい。発想としては図2のAの部分で前足の余計な線を隠す、というのが大きいです。

折り図はコンペション折り図集で発表できると思います。手順に関しての工夫は……特に何もなくて、折り図の工程はおそらくこの展開図からあなたが折り上げた手順と同じです。それくらいシンプルな作品です。

図1

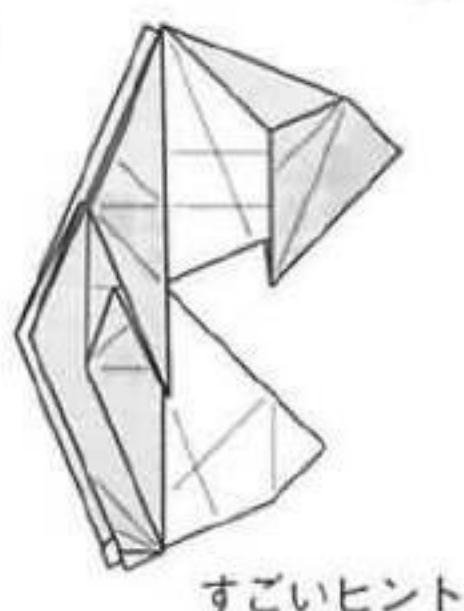
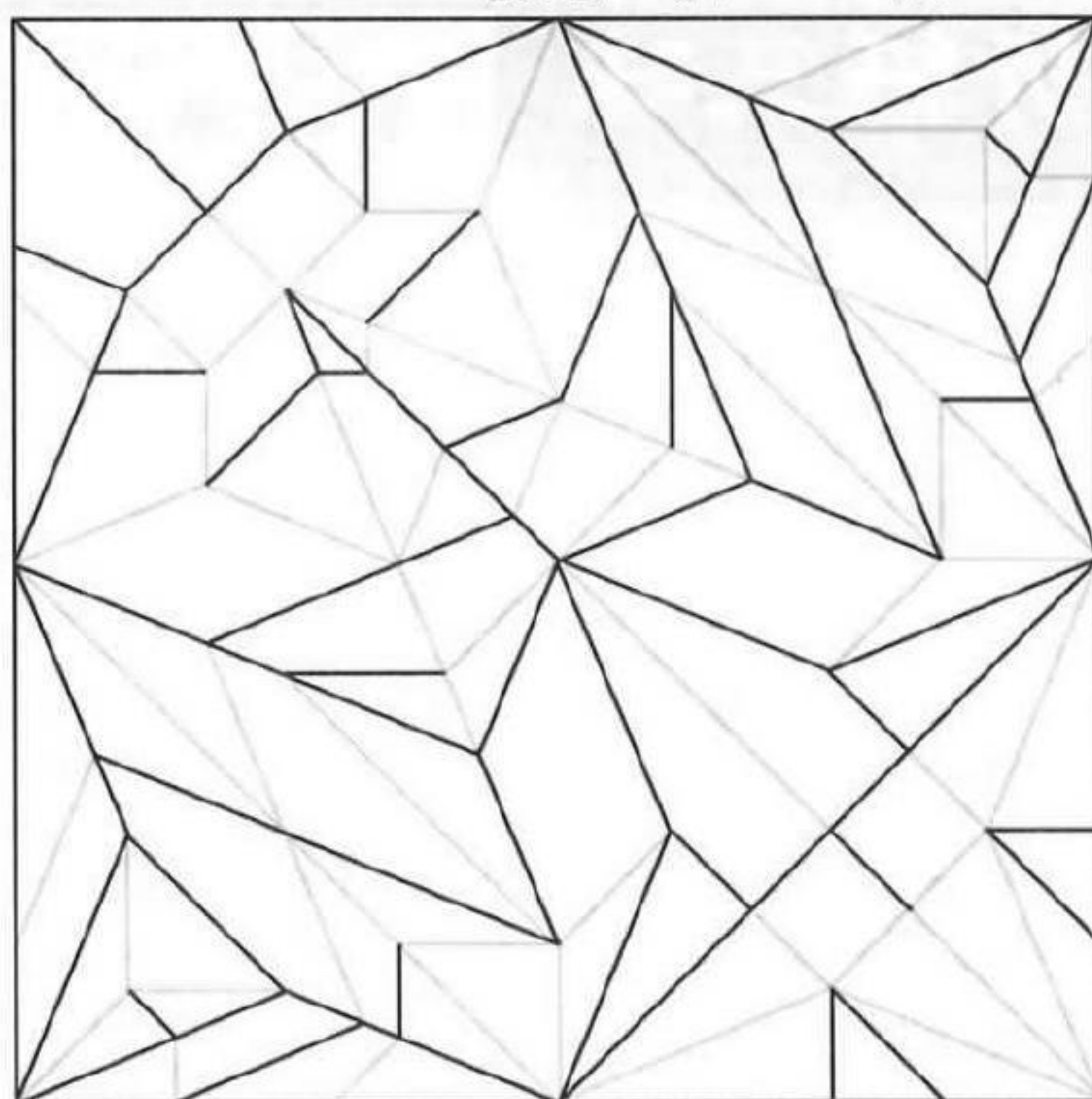


図2



顔

耳



前足

後ろ足

尾

世界中に数多く存在する折り紙団体を紹介するこのコーナー。今回は世界最大のコンベンションを抱える、こちら老舗のOrigamiUSAを取り上げます。

全ては子を想う母の気持ちから生まれたのかも知れません。アメリカ折り紙界の母、リリアン・オッペンハイマー(Lillian Oppenheimer)氏が折り紙に出会ったのは、1940年代の後半、病気の子供のリハビリとしてだそうです。これから彼女の一生は折り紙の普及に費やされる事になります。

彼女は折り紙の素晴らしさを世界に広めることを深く望みました。彼女の周りには徐々に個性豊かな折り紙愛好家が集って行きます。そんな中で一際異彩を放つ人物が現れます。世界中に何百、何千という会員を持つ組織をリリアンのビジョンの下に確立しよう、という大いなる夢を持った、若き情熱家マイケル・シャル(Michael Shall)氏です。1980年にオッペンハイマー氏中心にシャル氏、アリス・グレイ(Alice Gray)氏(事務所が自然史博物館に置かれることになった立て役者、初期の機関誌編集を手がけた)など多くの仲間と共にOrigamiUSAの前身であるThe Friends of The Origami Center of Americaが設立され、1987年には全てボランティアで運営される、非営利の文化・教育団体として公的に登録されました。

90年代の初めから半ばにかけて、上にあげた三人の設立者が続けてこの世を去るという悲しい出来事も起きました。特にオッペンハイマー氏が亡くなった事は、組織に対し大きな変革を迫ることに



■リリアン・オッペンハイマー氏
『The Newsletter』42号(1992)より



OrigamiUSA

文・田尻敦士



■Origami USAの新旧機関誌



■マイケル・シャル氏

なりました。1994年、残されたメンバーは会の名称をOrigamiUSAと変更し、オッペンハイマー氏の遺志を継ぎ、折り紙の普及に尽力しています。

OrigamiUSAの活動の中でもっとも大きな物は、年に一度開かれるコンベンションと言うことになるでしょう。このコンベンションには全米、また世界各国から毎年600~700名の人が集い、折り紙の楽しさを共有します。毎年このコンベンションのために300ページにもなる折り図集『Annual Collection』も作られます。ロバート・ラング(Robert Lang)氏やジョン・モンテロール(John Montroll)

氏など世界的に有名な作家も数多く参加する事でも知られています。

またもう一つの大きなイベントとしては、事務所が置かれているアメリカ自然史博物館で毎年飾られる折り紙ツリーがあります。会員の人達が折り貯めた作品で巨大なツリーが埋められるのは圧巻の一言です。ニューヨークのホリデーツリーを紹介する雑誌でも、ロックフェラービルに現れる巨大ツリーの次に配されています。

現在会員数は約1800名。古くからの会員であるジーン・ベイデン-ジレット(Jean Baden-Gillette)氏が会長を務め、トニー・チェン(Tony Cheng)氏、ジャン・ポーリッシュ(Jan Polish)氏、ジューン・サカモト(June Sakamoto)氏など11名のボードメ



■(左から)ジレット、ポーリッシュ、チェン各氏
ンバーによって運営されています。一年ほど前から機関誌の編集方式を変更し、新しいフォーマットの下、『The Paper』として年に6回発行される様になりました。

最近ではインターネット上のホームページで本格的なオンライン・ショッピングも始め、会員以外の人達からも多くの注文を受けています。海外会員は35US\$となっていますが、詳細はこちらをご覧ください。www.origami-usa.org



■『Annual Collection』

Rabbit Ear

つまみおり

Information

第4回TVチャンピオン 神谷哲史君 2連覇成る

過酷なゲームで知られる(?)TVチャンピオン。今回も予想できない展開で選手にプレッシャーをかけた。それに、神谷哲史君、木下剛君による闘志むき出しの親友対決も見物であった。参加者は他に元気なご婦人金杉登喜子さん、怪獣でおなじみの小笹一氏、車と女の子の青木良氏。

展開 のあやは第1ラウンドからやってきた。与えられたテーマは七夕。折り紙が使われそうで意外と使われないのが七夕である。各選手工夫をし、自信を持って望んだ第1ラウンドだが、ここに落とし穴。なんと審査員は小学生だけ20名。とても実力だけの評価とはいかない。運に任せた七夕飾り、結果は前評判の高かった青木良氏(神奈川)が落ちるといった波乱でスタート。第1ラウンドが終了して、高得点で首位に立ったのは金杉登喜子さん(埼玉)だった。

続 第2ラウンドは即興折り紙。与えられた素材で、その場で考え折り上げるといったゲーム。実はこの第2ラウンド、企画段階では少々無理があるようで不安であった。だが、実際やってみると心配はよそにいちばんいい勝負となった。

ゲームは小雨降る中、東京、東村山商店街を司会者のおさるが先導。初めに入ったのがお寿司屋さん。与えられたのは箸袋。即興折り紙ということで、その場で考えた作品の評価が高い。前年のチャンピオン神谷君(名古屋)は箸袋を途中まで裂いた変則使用で「海老の寿司」を。木下君は得意のギャグ折り紙(?)。箸袋の縁取りまで利用した傑作「すし一丁」はちゃんと5本指で握りを持つ寿司職人の姿。小笹氏は箸袋を一杯に広げて「龍」。金杉さんはシンプルに「犬のはしおき」。ここで高得点は木下君(いずれ本誌で紹介したい)。

続いてはドラッグストアに入ってティッ



■10時間ジオラマ制作の昼食風景。

シューペーパー折り。各選手悩んだ末に、「イカ」(神谷)、「雪の結晶」(木下)、「白鳥が飛び立つところ」(小笹)、「花」(金杉)の作品が出そろい、高得点は神谷君の「イカ」だった。

第2ラウンド最後のゲームはなんとジーンズショップに入って選ばれたのがTシャツ。各選手、一番悩んだのがこの最終ゲーム。神谷君はアイロンを使って「シロナガスクジラ」を折るが出来映えは「?」。折りながら本人も諦め顔。木下君は緑のTシャツで無難に「がまがえる」。小笹氏は袖が赤い白のTシャツを手にした。赤い袖の部分をも利用して色分けを上手く利用したサンタクロース。できれば良く最高得点。金杉さんはあかのTシャツで「子供の笑い顔」を、袖、襟廻りを上手く利用して笑顔の子供表情がよく、なかなかの出来映え。しかし、第2ラウンドで脱落したのは金杉さん。過去最高齢での参加、お疲れさまでした。

最終 第3ラウンドは例によって地獄の10時間ジオラマ1本勝負。この長丁場を制するのは誰か。与えられたテーマは「オリンピック」。疲れ気味の神谷、木下、小笹の3選手、なにしろ前

日第1、第2ラウンドの収録が朝8時から始まり、終わったのが深夜12時頃。睡眠不足は歴然だ。(おまけに神谷、木下の2人は朝方までお喋りしていたそうだ。)それでも各人得意の手法で黙々と制作に打ち込んでいた。審査は一般審査員20名。専門家審査員(?)5名。一般審査員の受けがよかったのは小笹氏の「夢の怪獣オリンピック」。圧倒的であった。しかし、専門家審査員5名の審査ではオリンピックというテーマが何処にも感じられないという理由で逆に低かった。その点、たまたま数日前の新聞記事を読んで選んだという神谷君の「採火式」。素直な表現が幸いしたか、一般審査員の低かった評価を覆し大差で優勝した。木下君は火星で開かれる100年後のオリンピックを彼得意の手法で展開したのだが、いかにも冒険しすぎといった感じ。素直に競技を表現したら優勝もあったのではないかと思うと少々残念。

前年優勝者が連続して出場したのは初めて。当然、ディフェンディングチャンピオンが優勝したのも初めて。前回の時より大人になった感じがした神谷君であった。(審査員=山口真)



■インタビューを受ける神谷氏

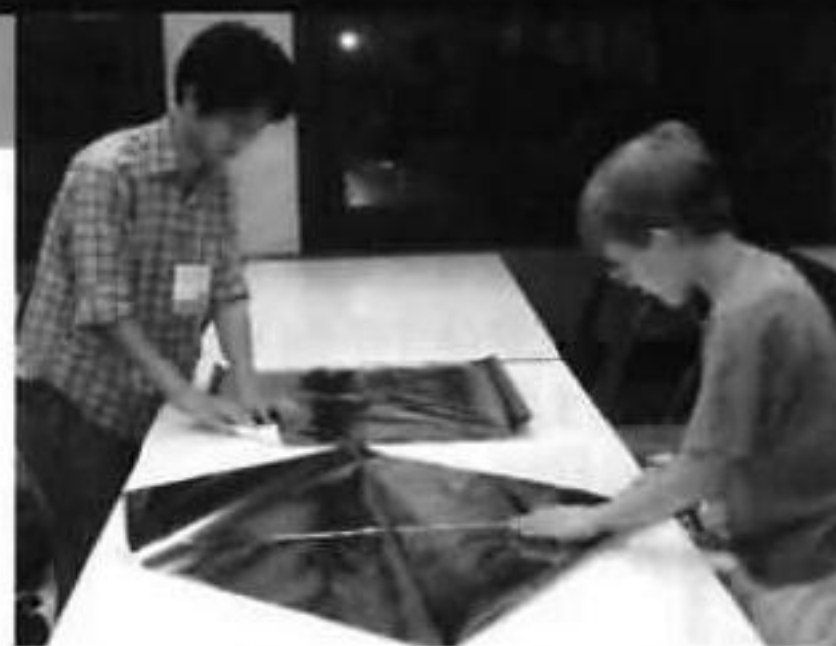
NYコンベンションレポート

今年もニューヨークのFIT(Fashion Institute of Technology)において、OrigamiUSAのコンベンションが6月22・23・24日の3日間600人を超す規模で開催された。今回は日本から、第1回TVチャンピオン出場者の山田勝久氏と今回2連覇を果たした神谷哲史氏の初参加もあった。

年々参加者と共に増える教室の数は同時に30数教室ということ。どの教室も折り紙を折ることが楽しいといった人たちが賑わっていた。お昼休みは2時間あるのだが、その時でも時間が惜しいように教室で習ったものをお互いに教え合っている姿が会場のそこかしこで見受けられる。さらに夕食が済んでも会場から人が減らない。夜のイベントもあったりするのだがそれも9時頃には終わってしまうのに熱気はいっこうに収まらない。結局、夜中の1時までという人も多く、折り紙好き

にはたまらない。(折り紙のコンベンションというところでは何処も夜中まで或いは朝まで延々と折っているグループがあるのだろうか。)

とくに今回目についたのは神谷氏で、彼のファンクラブができそうなくらい彼の後ばかりついて回る少年が何人もいたことだった。神谷氏の教室はコンプレックス作品のため定員10名限定でやっていたが、神谷ファンが連続して受講していたのも面白かった。それは教室優先順位の若い番号を持っている熱心な折り紙少



■アメリカの折り紙少年に教える神谷氏

年に占められてしまったようだ。

また、今年の大会準備では田尻氏(おりがみはうす)が大活躍。昨年10月から研修のため、OUSAに来て男手の少ないところで貴重な存在だったらしく事務局でも手放しでの褒めようであった。そしてこのコンベンションが彼の最後の仕事となって、7月に帰国した。

6/21

今回のメンバーは山口さん、山口さんの知り合いの板倉さん、山田勝久さん、私神谷の4名。ちなみに高井弘明さんが参加メンバーを聞いて「珍道中になるね」とか言っていたらしい。この予想は意外な形で当たることになる。京都から参加する山下さん親子も偶然にも一緒に飛行機になる。

ニューヨーク着。とりあえず荷物を置いてOUSAの事務所に御挨拶に。

OUSAの事務所は自然史博物館の中にあるのでその後見学。古生物好きとしてはたまらないです。3日くらい見ていたかったのですが、他の人にせかされて流れるように回る。(結局3日見たのですが)

6/22

私と山田さんはOUSAのお手伝いへ(私は昨日しっかり見れなかった所も見に……)田尻さんおひさしぶりです。その後羽鳥さん、山口さんたちと合流、アンドリュースさん(昨年、探偵団コンベンションに参加した)に手作りのディナーをごちそうになりました。

6/23

みんなで自由の女神を見にい。うーん、けっこう大きい。結局観光らしい事をしたのはこの日だけだったような気が……。

N.Y.記

神谷哲史

5月のある日、TVチャンピオン収録の翌日。おりがみはうすにてあることを決定した。「N.Y.へ行こう!!」

これは山口さんにしつこく誘われた結果である。山口さんいわく私は20回くらい言わないと動かないらしい。(たしかに事実なのですが……)

6/24~26 OrigamiUSA コンベンション

会場、講習作品の数、人などどれも規模が大きい、さすがアメリカ(なんのこっちゃ)。

山口さんは「ドールハウス」(次の本の宣伝をかねているらしい)、山田さんは「セントバーナード」を教える。私も「天馬」と「白鳥離水」を教えたのですが、助手の方と優秀な生徒に助けられどうにか無事に終えることができました。そういえばなんか2回とも同じような顔ぶれだったのですが……。 (どうもそういう人たちで占められていたらしい。まあ楽でよかったんだけど。)

夜、会場の部屋をそのまま深夜1時くらいまで使えるのですが、なんでこんなにたくさんの方がいるんだよー。その日教

わった作品を教えている人が沢山いたのですが、こっちはそれが当たり前みたいです。面白いなあ、等と言っていたら、なんか勢いで9歳の少年(仕草やけに大人びている)に「バハムート」を教えることになってしまいました。大丈夫かなと思っていたらちゃんと折りあげてしまった。すげえ。

こっちにもやっぱり折り紙少年がいました。先ほどの少年、家族みんなの分バハムートを折っている少年(バハムート一家と命名)、凄いい熱意をもついつも笑っているやつ、などなかなか侮れない人材が沢山います。

山田さんが饒舌なとても面白い人だと言う意外な一面が発覚。旅のあいだしっかり話題の中心(話のネタとも言う)になっていました。ほんとうにあの独特のテンポは最強です。

6/27

山口さんは作品が展示中の紀伊国屋へ、私と山田さんはOUSAのお手伝いへ、(私は22日の続きも見に……)って22日と大して変わらないじゃないか。

6/28

再会を約束し帰途につく。あっという間の8日間でしたがとても良い経験になりました。また、語学力の大切さを痛感しました。おそらく来年は違った形で参加することになると思います。

◆シュマコフさんと会いました。

NYコンベンションで

昨年、吉野一生基金の招待者に決まるも、来日叶わなかったシュマコフ氏とNYコンベンションで会うことができた。物静かで、穏やかな紳士であった。

シュマコフ夫妻は今年のOUSAの招待者であった。また、会場に展示された彼らのジオラマは独特の雰囲気を持った仕上げとディスプレイで多くの目を惹きつけていた。そんな情景を見ると昨年彼らが日本に来られなかったことが今更ながらに残念に思う。

夫妻と折り紙の出会いは10年程前、パリで日本の劇団の人から折り紙の作品をもらってから興味を持ったということ。本格的に始めて10年ということだった。

彼らの作品群を皆さんにも見ていただきたいので、ぜひもう一度一生基金に挑戦してみてくださいとお願いした。



■シュマコフ夫妻の作品「ORILAND」



第6回折紙探偵団コンベンション 参加者のみなさまへ

7/1に発送いたしました「第6回折紙探偵団コンベンション」参加受取表および参加に際してのご案内に、以下の誤りがありました。お手数ですが、訂正をお願いいたします。

誤：6)食事 全文

正：6)食事

8/5(土) 昼食：用意いたしません。東洋大学の学生食堂が利用できます。

夕食：懇親会

8/6(日) 昼食：8/5の受付時に弁当の予約を承ります。(お茶(缶)付き1000円)

※6日は、東洋大学の学生食堂は利用できません。

※6日のみの参加で弁当をご希望の方はあらかじめご連絡ください。

誤：●同封書類：コンベンションプログラム 1部

正：上文削除

プログラムは同封されておりません。

当日にお渡しいたしますが、以下のWEBページ上にもお知らせします。

<http://origami.gr.jp/New/index.html>

おたより大募集

宛先 113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216

ギャラリー・おりがみはうす内

折紙探偵団編集部

E-mail webman@origami.gr.jp

折紙探偵団URL <http://www.origami.gr.jp/>

団員パスワード Pyramid(大文字・小文字別)

折紙探偵団

2000年7月25日発行

第11巻2号通巻62号

発行所/日本折紙学会

〒113-0001

東京都文京区白山1-33-8-216

Phone & Fax / 03-5684-6080

発行人/西川誠司

編集人/山口 真

編集スタッフ/松浦英子

折り図制作・デザイン/おりがみはうす

発売元/おりがみはうす

●本誌掲載記事の無断転載を禁じます。

定価 600 円

◆Southeast Origami Festival 2000

既に前号でご案内したノースカロライナ州のシャーロットで9月22～24日に開催されるSoutheast Origami Festival 2000の案内書と申し込み用紙が届きました。8月31日までに申し込むと割引になっていたりますので早めの対応がいいでしょう。資料ご希望の方は返信

用切手140円を同封して事務局までお願いします。

宿泊はホリデー・イン。期間中特別価格でツインルーム1泊、1人でも2人でも89ドル。

この期間中と前後にボランティアで折り紙を教える人も募集しています。

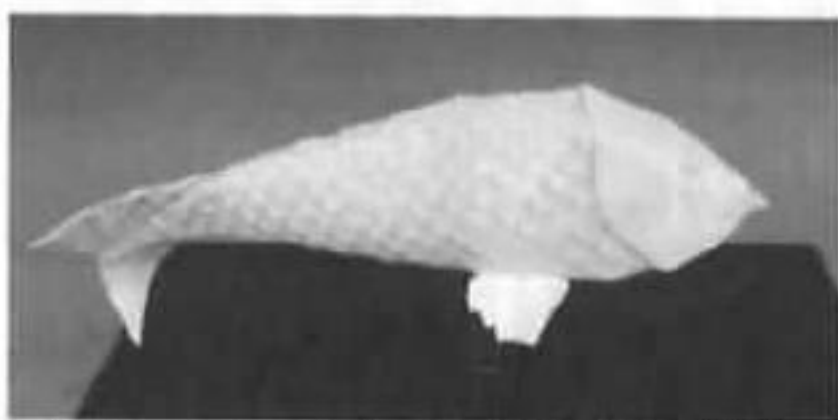
◆「世界の折り紙展 -見る折り紙、体験する折り紙-(仮称)」

長野県下諏訪町/ハーモ美術館 8月18日～10月2日

長野県諏訪湖畔のハーモ美術館で折り紙の展示会が開催される。今回飾られる主な作品として、海外からロバート・J・ラング氏の「鱗のある鯉」はじめシルクで折ったクリス・パルマー氏の幾何学作品など。国内からは本誌でおなじみ北條高史氏の「暫」、「金剛力士像」はじめTVチャンピオン神谷哲史氏の「龍神」など興味深い作品が美術館に並ぶ。入場料大人800円子供(小、中、高校生)400円。土曜日は

子供無料。8月、9月午前9時～午後6時。10月は～5時。

お問い合わせ先：Tel(0266)28-3636



■ロバート・J・ラング氏の「鱗のある鯉」

◆例会のお知らせ

東京友の会

会場=文京区民センター

参加費=400円(中学生以下半額)

講習会=午後2時～/研究会=午後4時～

●9月=2日(土) 講師：飯沢秀幸「カタツムリ」

編集後記

■今回のNY行き、実は大きな意味のあることだった。おりがみはうすの田尻を見て、大きく成長したと思ったのが3月。ピーコック(SF)のコンベンション。その後も7月には帰国。次に誰かを思い会員の松下節子さんを5月に送った。マイケルさんがいなくなってから慢性的に男手の不足しているOUSA。そこで考えたのが2連覇を果たした神谷君。両親

※おりがみ用紙は各自持参でお願いします。

●11月=7日(土)講師：伊井 誠「ロボスター」/池田浩貴「戦国機」※8月の例会はありません。

関西友の会

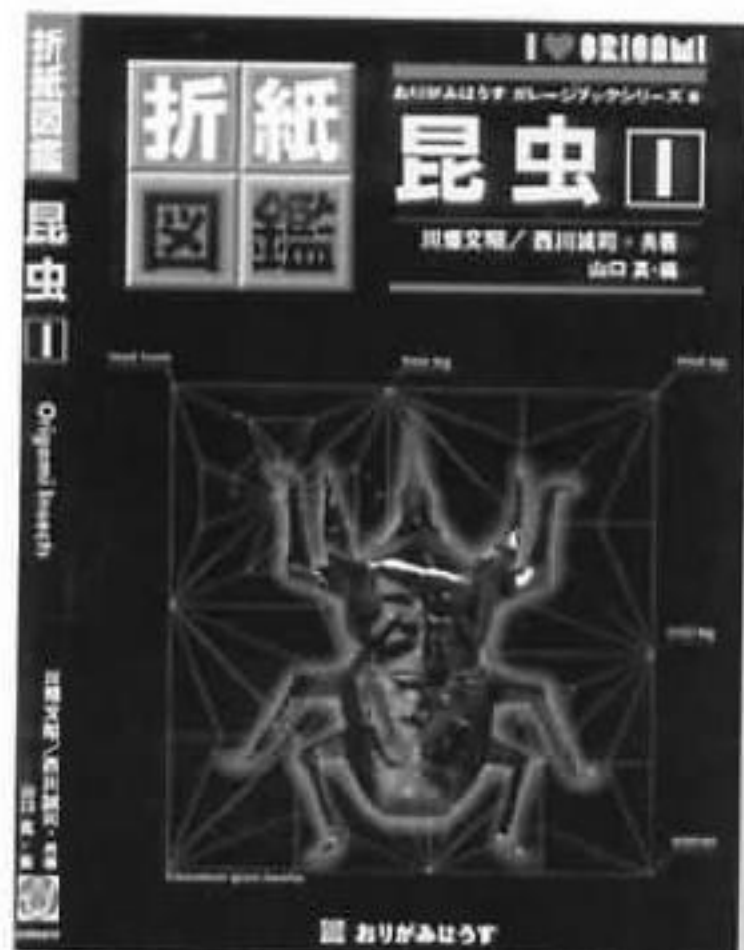
会場=長岡京市産業文化会館 14時～17時

●9月=2日(土) / ●10月=28日(土)

に相談したところ色好い返事。「おそらく来年は違った形で参加することになると思います。」といった神谷君の意味がここにある。19才の決断に拍手。(Y.M)

■今月から、はうすも不足していた男手が復活します。もう国際電話も怖くない!などと言っていないで、私も勉強しなければと思う今日この頃。(M.E)

■ORIGAMITANTEIDAN / No.62 / Published on 25, July 2000 by Japan Origami Academic Society, 1-33-8-216
Hakusan Bunkyo-ku 113-0001 Tokyo JAPAN / Cover Photo: "An Angel Playing the Lute" Produced by Kawahata
Fumiaki : Photographed by Sato Hitoshi / Publisher : Nishikawa Seiji / Editor in Chief : Yamaguchi Makoto / Editor : Matsuura Eiko / Editorial Design : ORIGAMI HOUSE



■ 折紙図鑑「昆虫I」

好評発売中!

B5判 全196ページ

カラー口絵 4ページ

定価: 3,100円

送料: 460円

川畑文昭、西川誠司・共著

山口 真・編

昆虫大戦争の熱い日々が今甦る。カラーページに全作品掲載。折り図の冒頭には、作品を違うアングルから撮ったモノクロ写真と作者のコメント付き。



■ 折るころ

A4判 全108ページ

フルカラー48ページ

指導: 岡村昌夫

定価: 1,400円(税込)

送料: 420円(梱包込)

本誌57号岡村氏の連載で詳しく紹介された「折紙の歴史展」の図録。折紙の貴重な歴史的資料満載で、折紙博士を自称するなら必携の一冊。

次回新刊予告 2000年内発刊予定/価格・ページ数未定

■ 西川誠司作品集 西川誠司 著

コンプレックスからあそべる折り紙までバラエティーに富んだ西川折り紙の集大成。

■ 折紙図鑑「昆虫II」 北條高史、前川 淳、目黒俊幸共著

世界で一番難しい折り紙の本第2弾。

ご注意!

※最近、本等の代金を折紙探偵団の購読専用口座へ振り込まれる方が増えています。通信販売の振り込みはすべて00120-9-715400「おりがみはうす」です。お間違えの無い様お願いします。

好評発売中

折り紙色紙百花 田中具子・著

女性に大人気! 色紙折り紙のバイブル。

B-5判/120ページ/カラー口絵8ページ

定価2,500円(税込) 送料390円(梱包込)

面~The Mask~ 布施知子・著

作者がまだユニット折り紙に出会う前の情熱の作品群。

B-5判/200ページ/全27作品カラー写真紹介

定価3,300円(税込)/送料460円(梱包込)

一生スーパーコンプレックスおりがみ

B-5判200ページ カラー口絵8ページ 吉野一生 著

定価2,900円(税込) 送料460円(梱包込)

第5回 折紙探偵団コンベンション折り図集

B-5判256ページ

定価2,000円(税込) 送料420円(梱包込)

只今制作中

折紙図鑑「犬」/佐野康博・著 犬折り紙第一人者の作品集
一所懸命制作中です。気長に待っていて下さい。

GALLERY ギャラリー



おりがみはうす

〒113-0001 東京都文京区白山1-33-8-216
TEL: (03) 5684-6040 FAX: (03) 5684-6080
E-mail: origamih@remus.dti.ne.jp

『折紙探偵団』専用ファイル 定価750円(税込) 送料250円(梱包込)

変形B-5判/箔押しロゴ入/雑誌「折紙探偵団」1年分(6冊)収録可能

はうすオリジナル 折り紙専用和紙

和紙両面おりがみ

2枚の民芸紙を貼り合わせて作りました。折り筋が付きやすく、もみ紙の風合いが作品づくりの幅を広げます。

サイズ/30cm×30cm 5色調/20枚入 定価1,350円

送料: 1セット/390円(梱包込) 2セット/580円 3~4セット/700円

※和紙両面おりがみは見本をお分けしています。

御希望の方は80円切手を同封の上、おりがみはうすまで。

折り紙色紙百花用 越前和紙「はな」

手漉き手染めの和紙です。手触りはもとより、味のあるほかし染めは、田中作品に使うことで100%の実力を発揮します。

定価2,500円(税別) 送料300円(梱包込)

絵はがきセット 限定50部

布施知子ユニット作品絵はがきセット

1セット18枚組(18種類) 定価1,500円 送料160円

美しい自然と調和するユニット作品を絵はがきにしました。

●商品の申し込み方法●

郵便振替か現金書留で料金(商品価格+送料)を送って下さい。

ご希望の商品名と連絡先の記入をお忘れのない様お願いします。

(郵便振替の場合は振替用紙の「通信欄」に記入して下さい。)

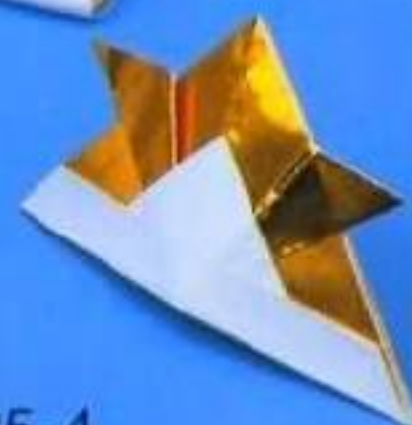
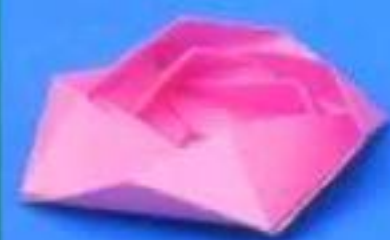
入金を確認次第、商品を発送させていただきます。

郵便振替番号 00120-9-715400

加入者名 おりがみはうす

おりがみが夢を形に

トーヨーのおりがみは色・サイズなど
バラエティ豊かに取り揃え、夢を形にする
おてつたいができればと考えています。



トーヨーのおりがみは、日本初の
「無塩素漂白: ECF」というパル
プの漂白方法により、塩素を使用
していない「エコパルプ」を原料
にしています。

株式会社トーヨー

〒120-0022 東京都足立区柳原1-35-4
TEL 03-3882-8161 FAX 03-3888-9604